

② 第2回アンケートの結果

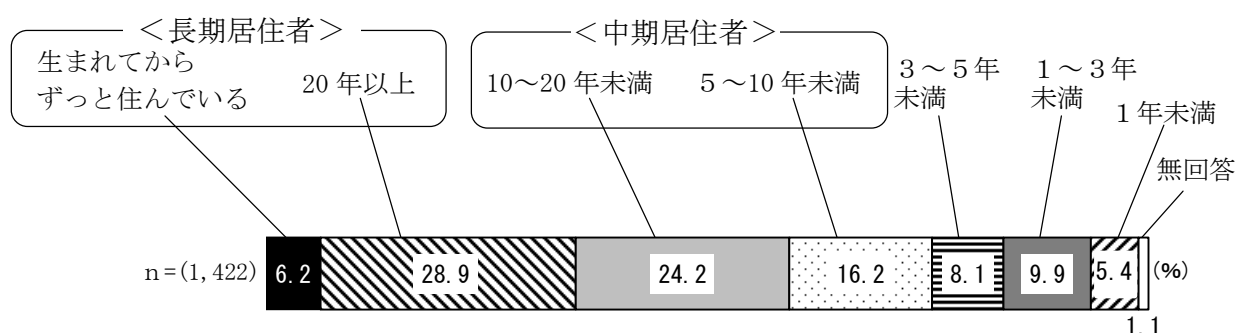
1 定住状況について

1-1 居住年数

◎20年以上の<長期居住者>が35.1%

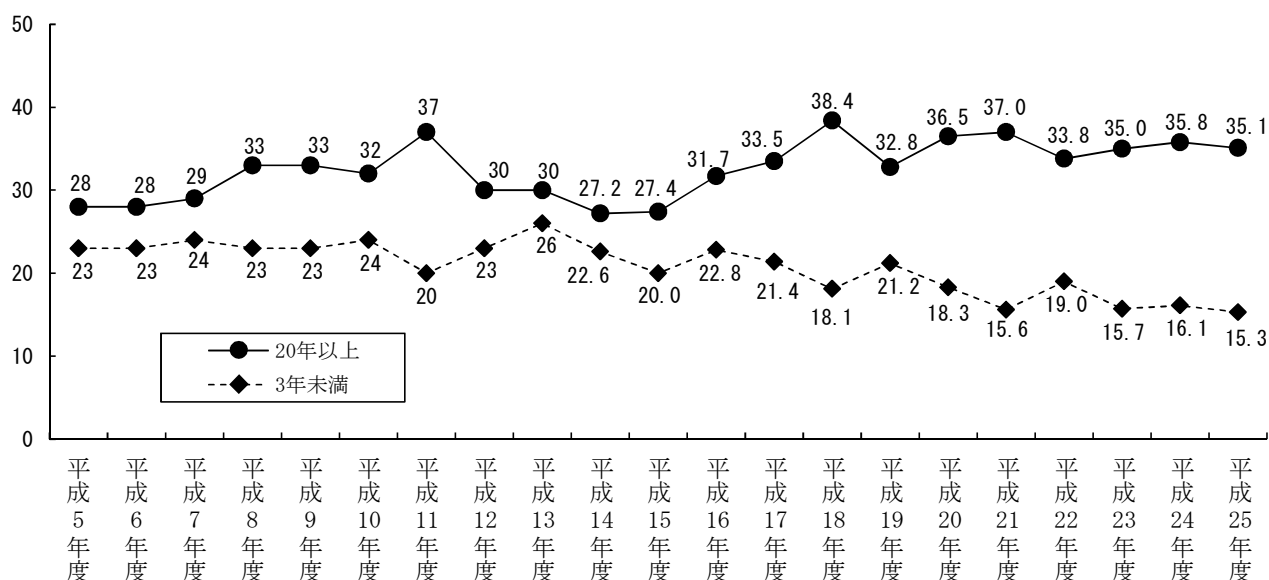
問1 今のところにお住まいになって、何年になりますか。(○は1つだけ)

図表1-1 居住年数



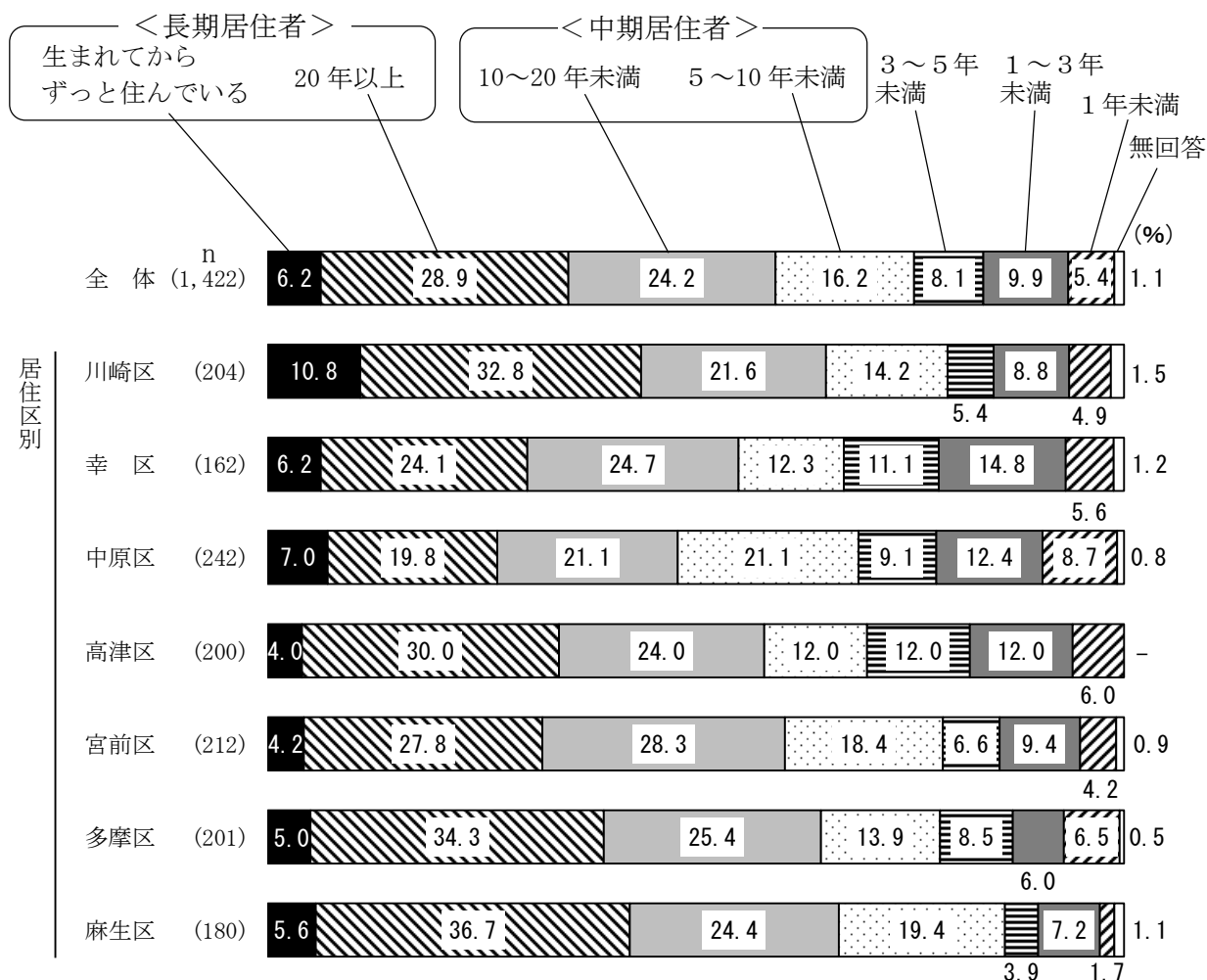
居住年数は、「20年以上」(28.9%)が最も多く、これに「生まれてからずっと住んでいる」(6.2%)を合わせた<長期居住者>は35.1%となっている。「5~10年未満」(16.2%)と「10~20年未満」(24.2%)を合わせた<中期居住者>は40.4%となっている。(図表1-1)

図表1-2 居住年数(経年比較)



過去の推移では、10年前(平成15年度)と比較すると、<長期居住者>は、27.4%から35.1%へ7.7ポイント増加している。「3年未満」は、20.0%から15.3%へと4.7ポイント減少している。「20年以上」と「3年未満」の割合の差は、10年前の7.4ポイントに対し、今年度は19.8ポイントと増加している。(図表1-2)

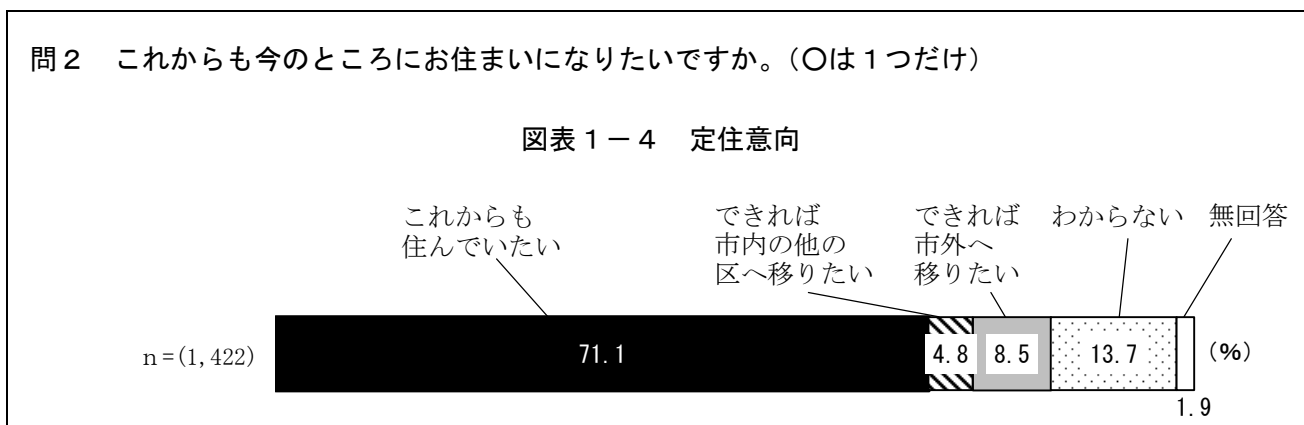
図表 1-3 居住年数 (居住区別)



居住区別では、＜長期居住者＞は、川崎区が43.6%で最も多くなっている。次いで、麻生区の42.3%、多摩区の39.3%と続いている。「3年未満」は、中原区が21.1%で最も多くなっている。次いで、幸区の20.4%、高津区の18.0%と続いている。(図表 1-3)

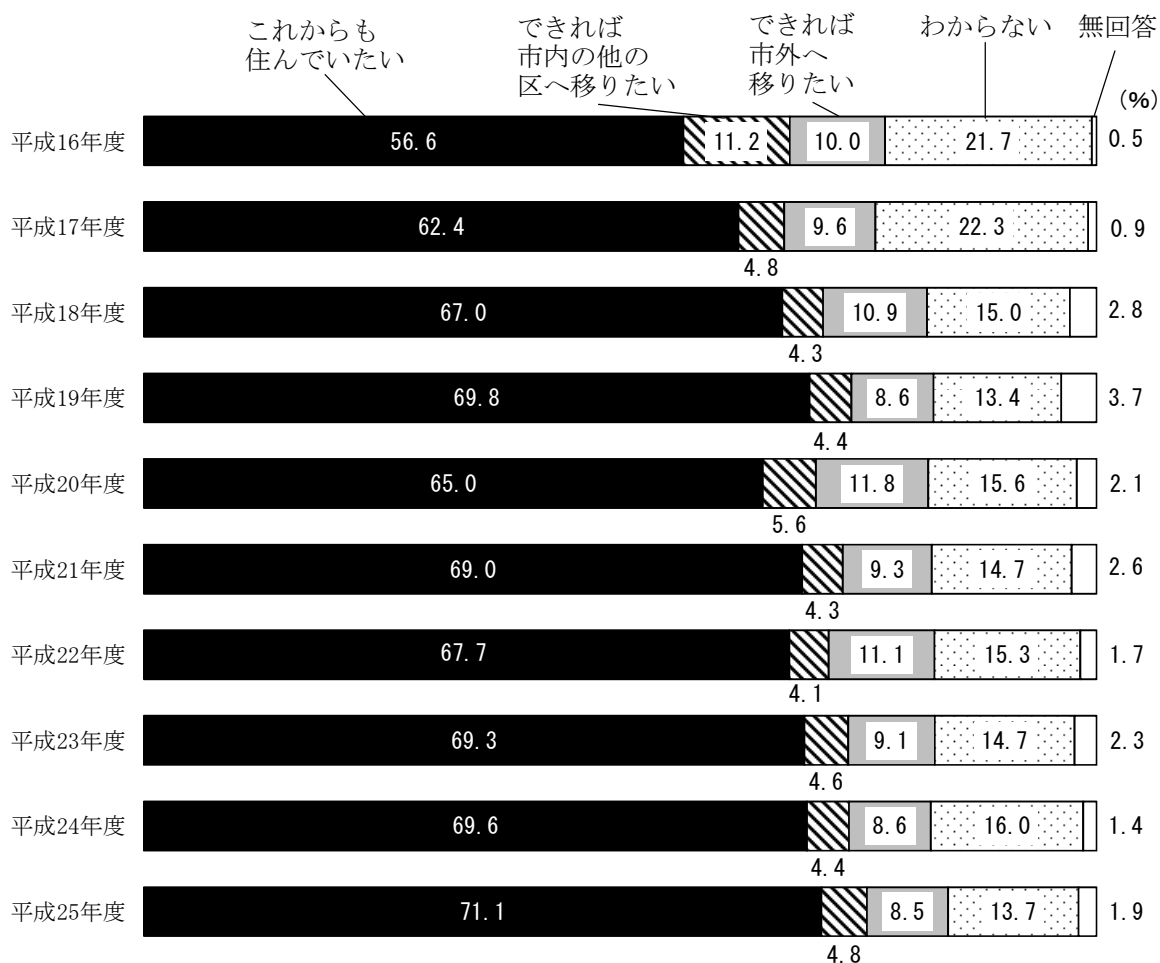
1-2 定住意向

◎「これからも住んでいたい」が71.1%



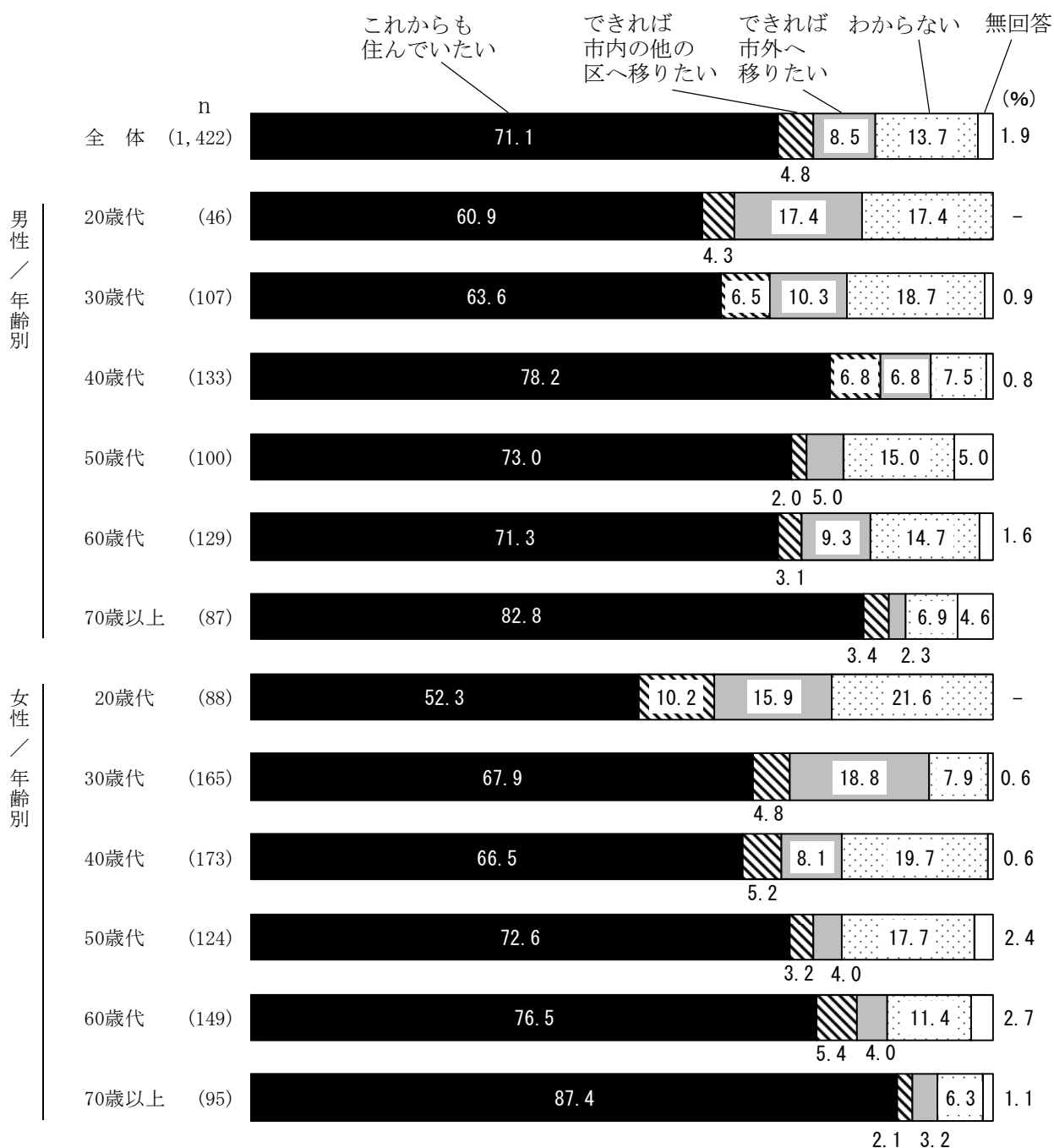
定住意向は、「これからも住んでいたい」は71.1%、「できれば市外へ移りたい」は8.5%となっている。(図表1-4)

図表1-5 定住意向(経年比較)



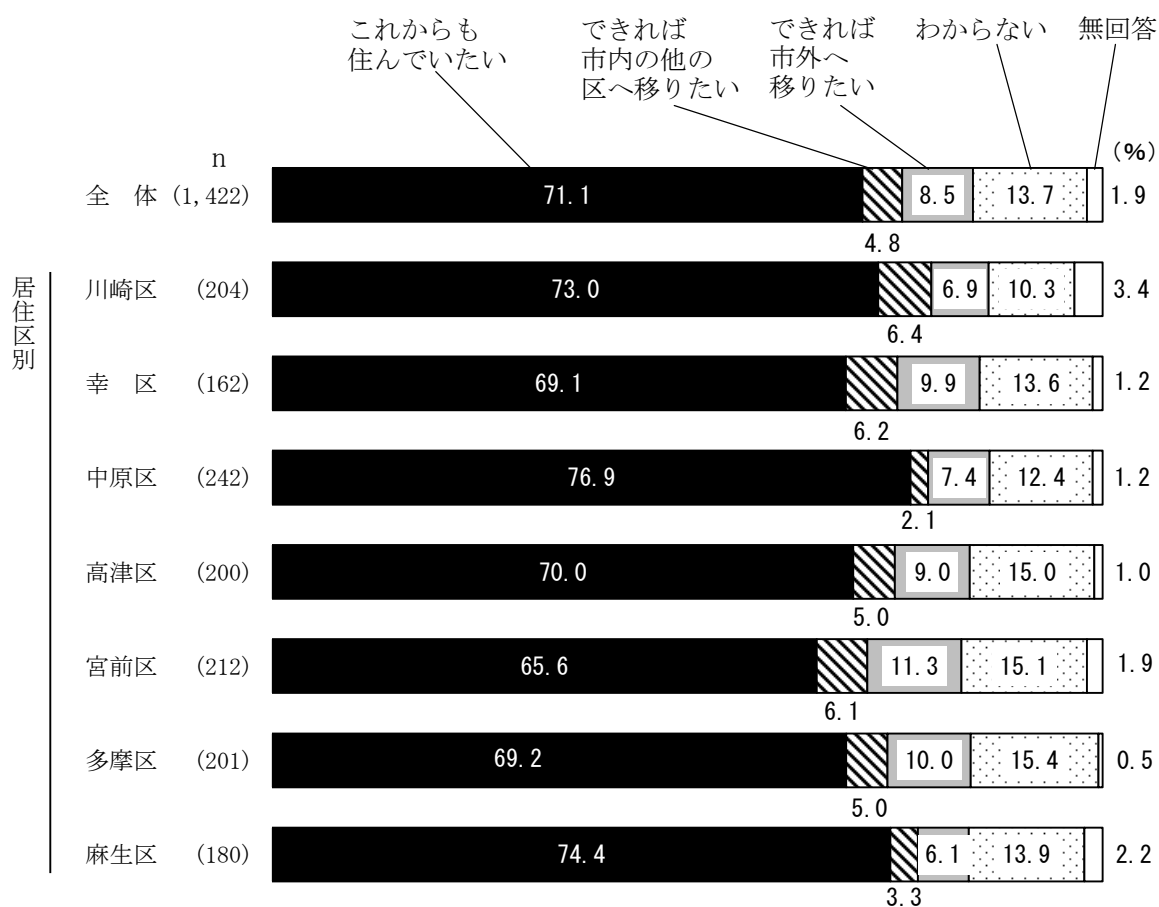
「これからも住んでいたい」は、平成25年度7割を超え、「できれば市内の他の区へ移りたい」を合わせた市内在住意向は75.9%となっている。(図表1-5)

図表1-6 定住意向(性/年齢別)



性/年齢別では、「これからも住んでいたい」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。男女ともに70歳以上が8割台と多くなっている。(図表1-6)

図表 1-7 定住意向 (居住区別)



居住区別では、「これからも住んでいたい」は、中原区 (76.9%) が最も多くなっている。次いで、麻生区 (74.4%)、川崎区 (73.0%) の順となっている。(図表 1-7)

1-3 転居意向の理由

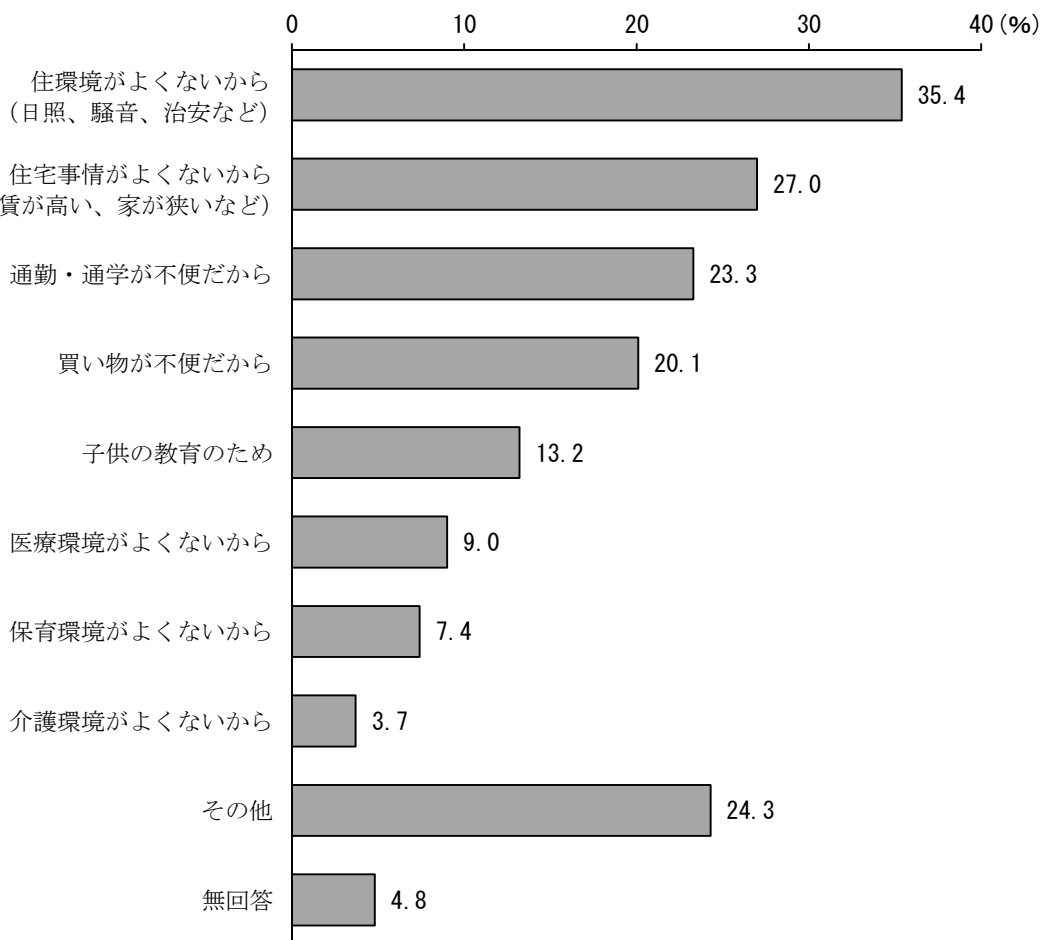
◎「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」が35.4%

(問2で「2 できれば市内の他の区へ移りたい」「3 できれば市外へ移りたい」のいずれかに答えた方にうかがいます。)

問2-1 今のところから移りたい、または移る理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

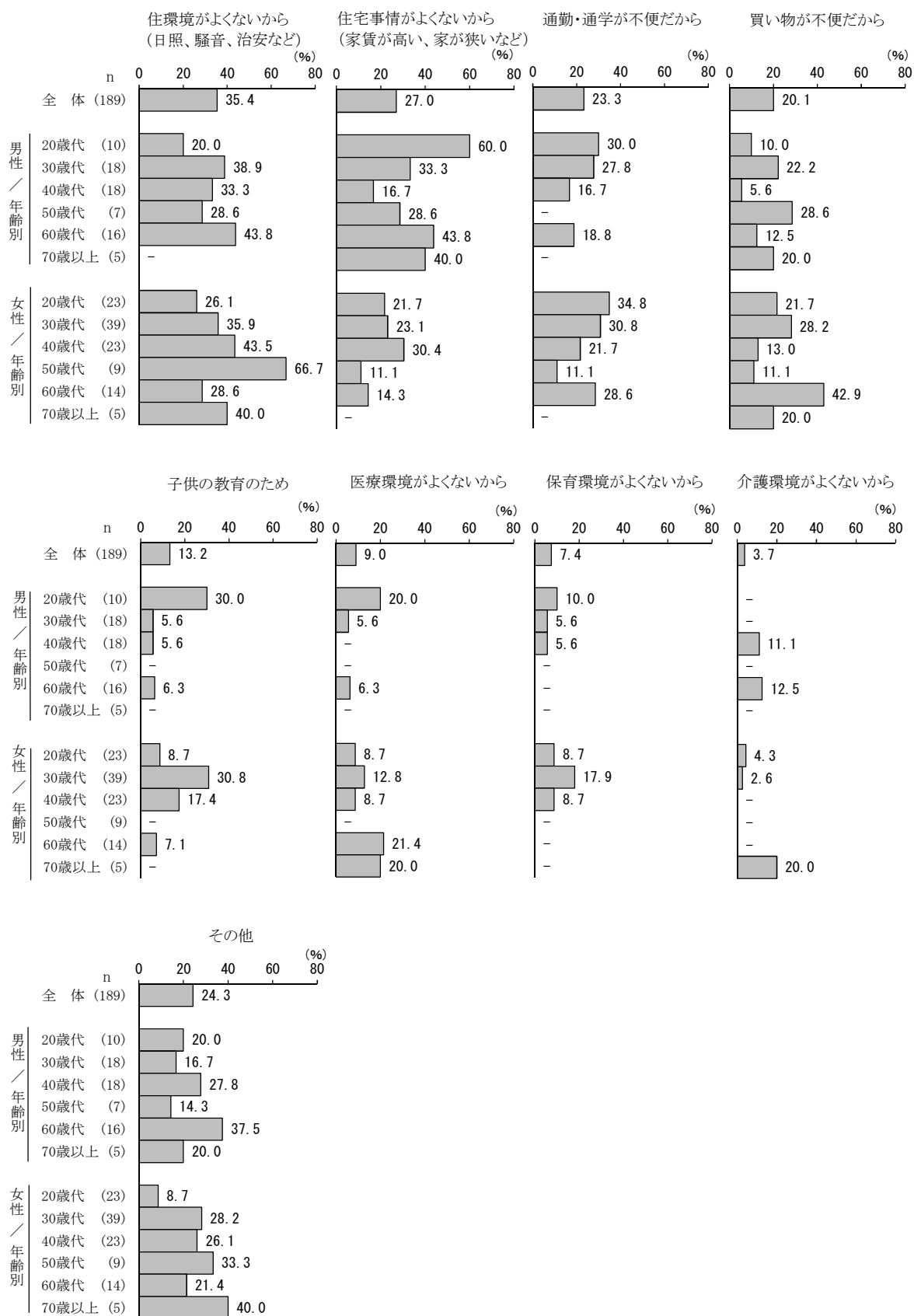
図表1-8 転居意向の理由

(複数回答) n=(189)



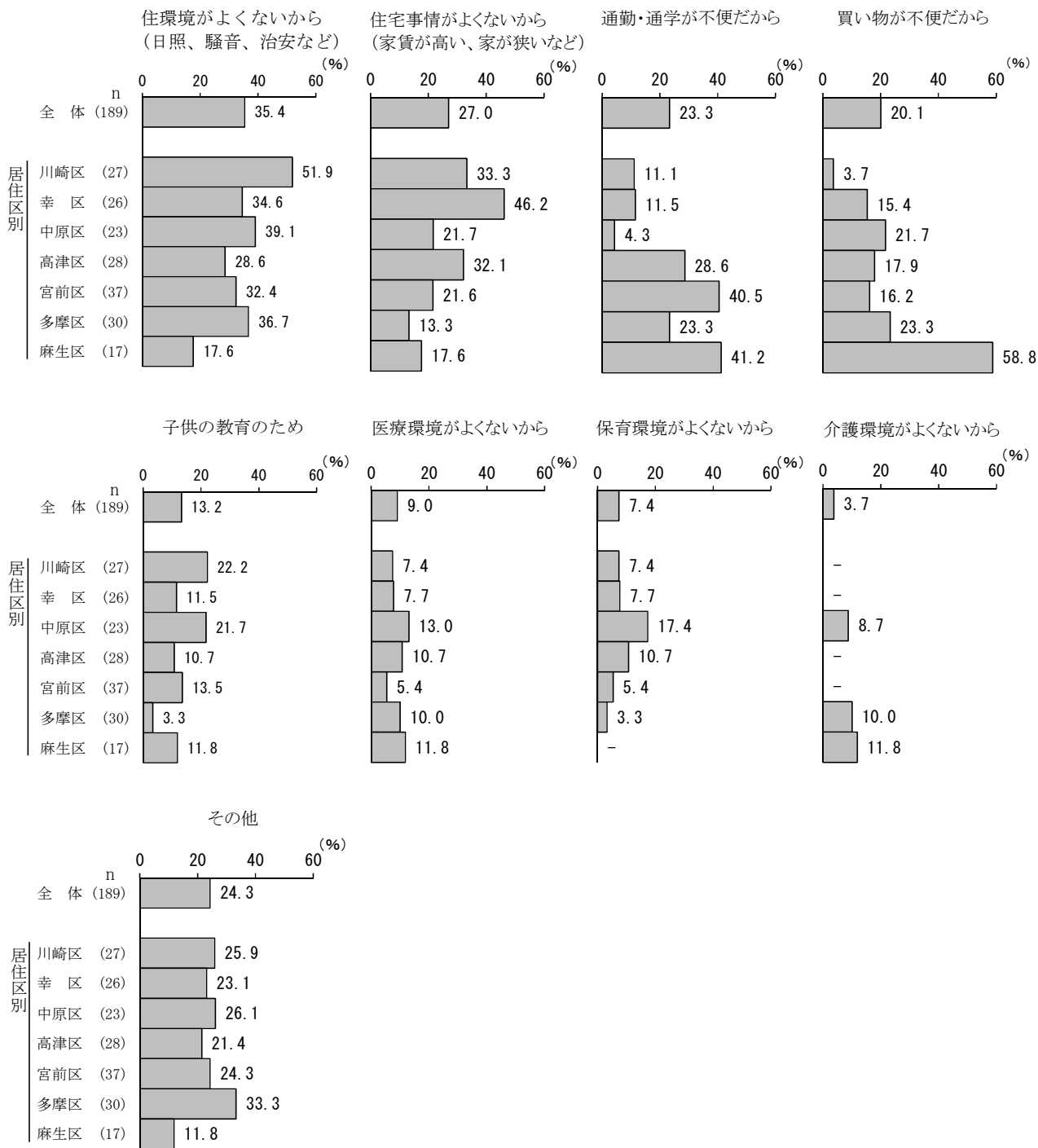
転居意向の理由は、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」(35.4%)が最も多くなっている。次いで、「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」(27.0%)、「通勤・通学が不便だから」(23.3%)、「買い物が不便だから」(20.1%)の順となっている。(図表1-8)

図表1-9 転居意向の理由(性/年齢別)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-9)

図表1-10 転居意向の理由（居住区別）



居住区分では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-10)

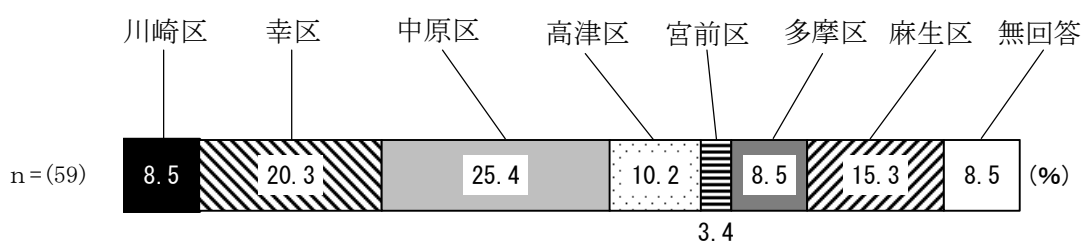
1-4 転居先の希望

◎市内では「中原区」25.4%、市外では「東京23区」40.0%が多い

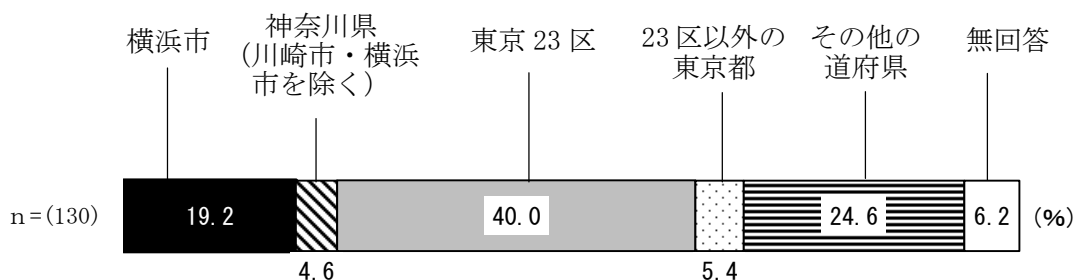
(問2で「2 できれば市内の他の区へ移りたい」「3 できれば市外へ移りたい」のいずれかに答え
た方にうかがいます。)

問2-2 どこに住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

図表1-11 転居先の希望(市内)



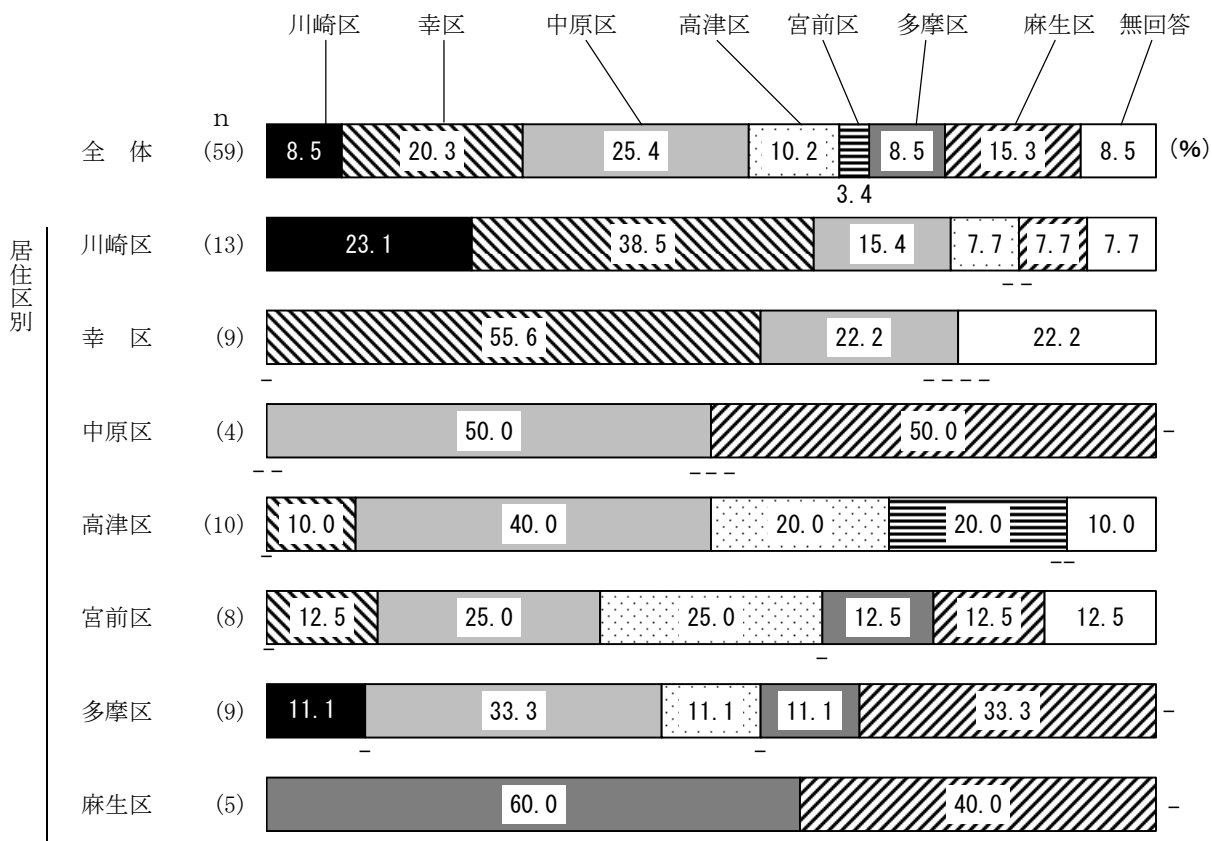
図表1-12 転居先の希望(市外)



転居先の希望(市内)は、「中原区」(25.4%)が最も多くなっている。次いで、幸区(20.3%)、麻生区(15.3%)、高津区(10.2%)の順となっている。(図表1-11)

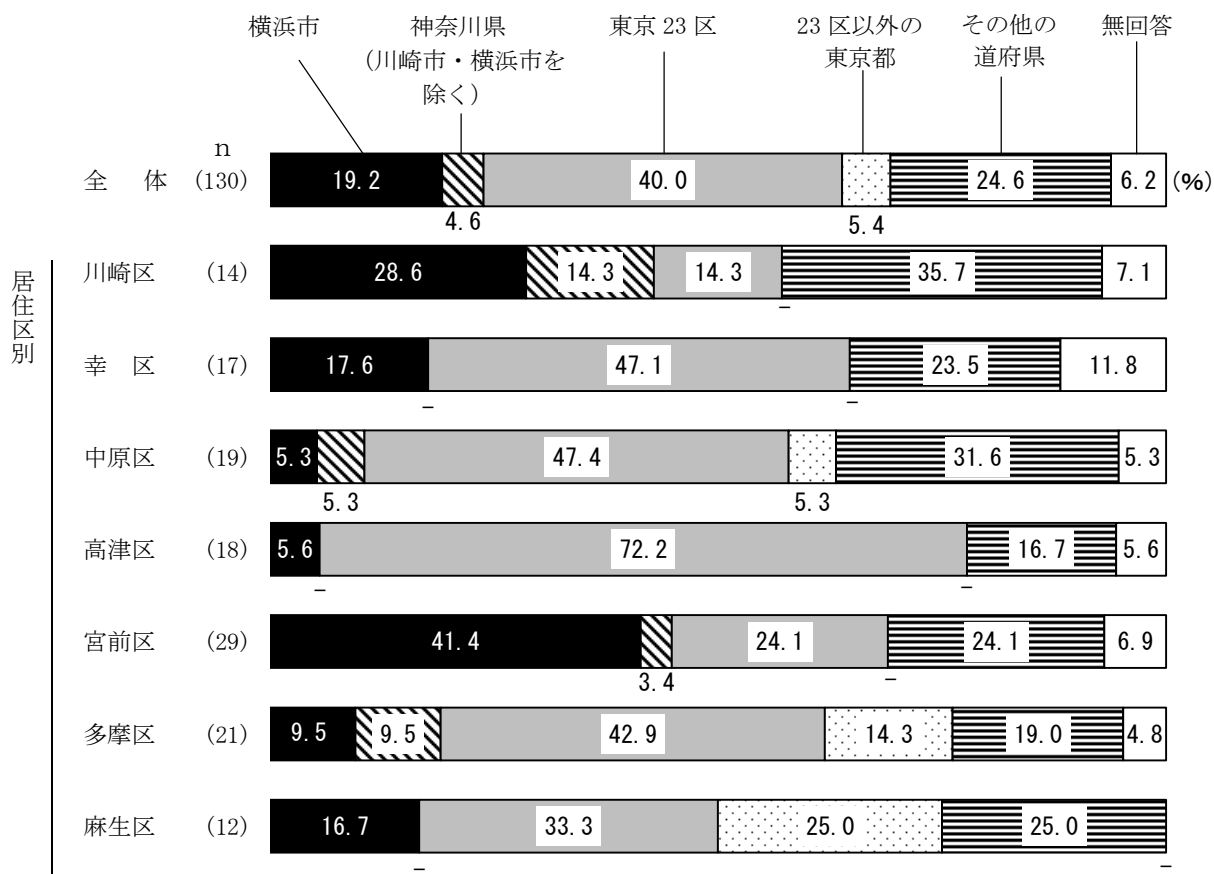
転居先の希望(市外)は、「東京23区」(40.0%)が最も多くなっている。次いで、「その他の道府県」(24.6%)、「横浜市」(19.2%)の順となっている。(図表1-12)

図表 1-13 転居先の希望 (市内、居住区別)



居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表 1-13)

図表1-14 転居先の希望(市外、居住区別)



居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-14)

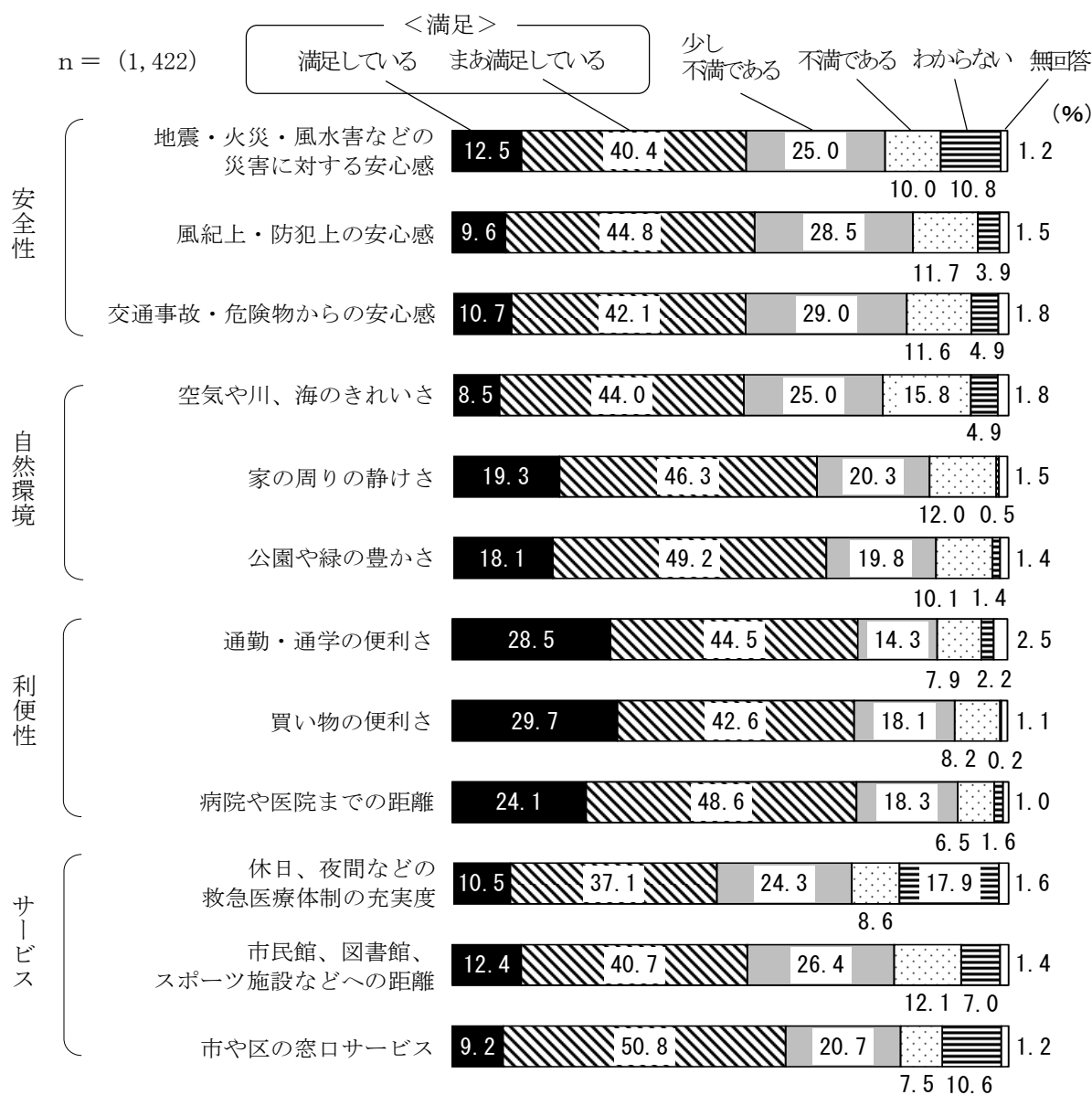
2 生活環境の評価について

2-1 生活環境の満足度

◎<満足>が多いのは、「通勤・通学の便利さ」、「病院や医院までの距離」、「買い物の便利さ」の利便性

問3 お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。
次にあげる項目についてどの程度満足していますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表2-1 生活環境の満足度



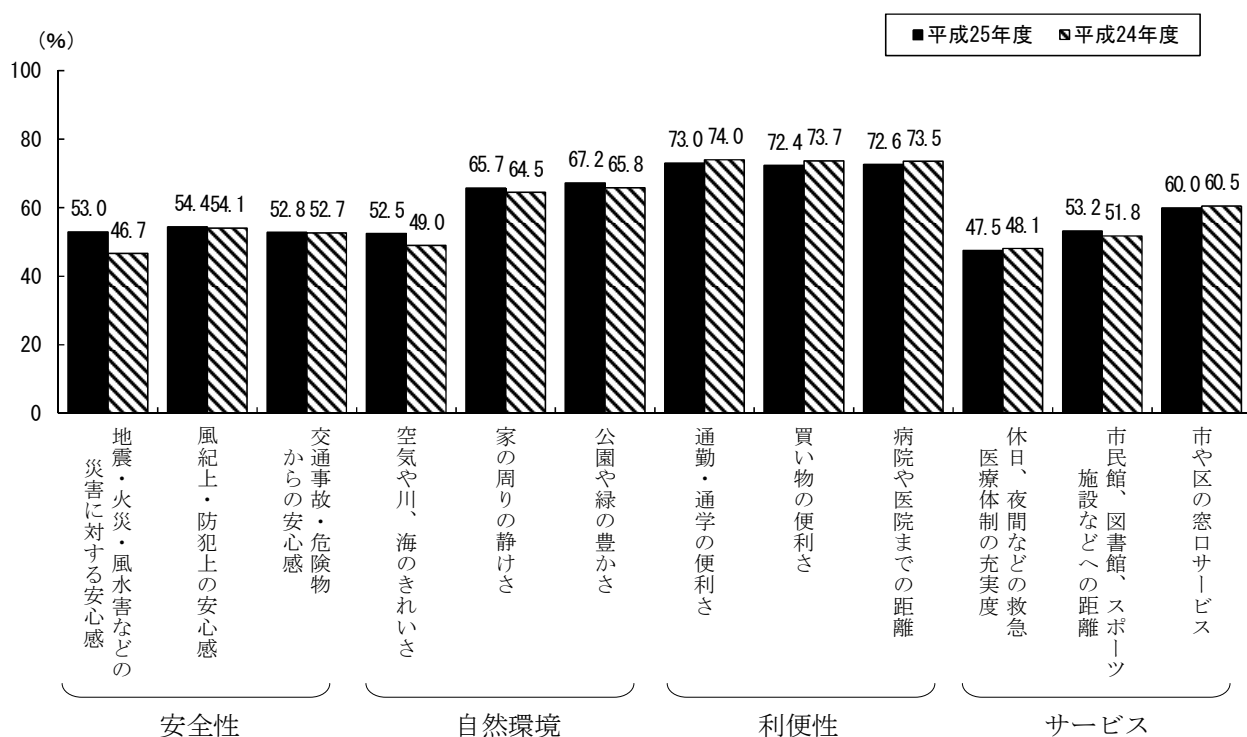
生活環境について、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた<満足>は、『利便性』の「通勤・通学の便利さ」(73.0%)、「病院や医院までの距離」(72.7%)、「買い物の便利さ」(72.3%)が7割台と多くなっている。一方、<満足>が最も少ないのは、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(47.6%)となっている。(図表2-1)

図表2-2 生活環境の満足度（＜満足＞、経年比較）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

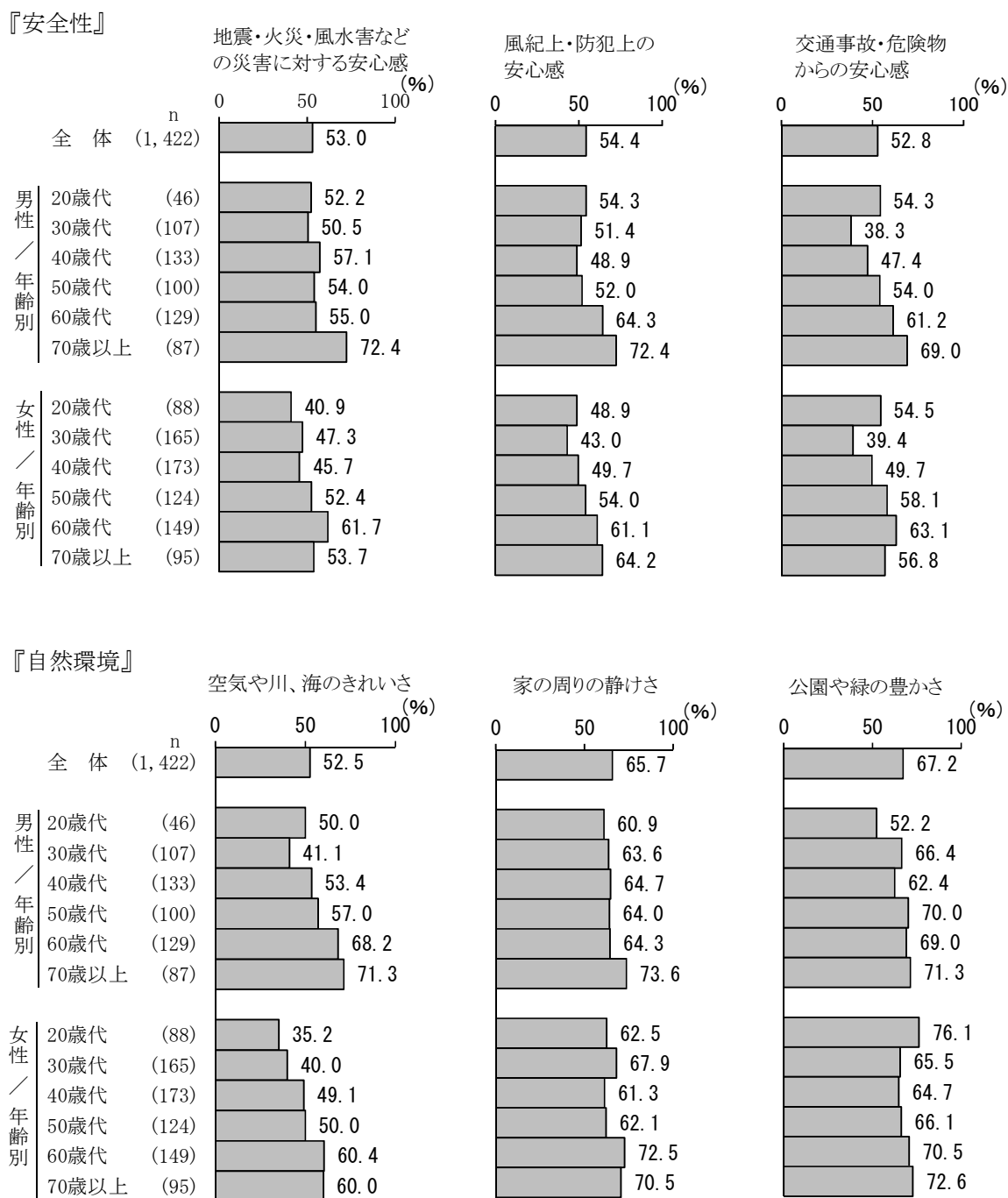
(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
25年度	53.0	54.4	52.8	52.5	65.7	67.2	73.0	72.4	72.6	47.5	53.2	60.0
24年度	46.7	54.1	52.7	49.0	64.5	65.8	74.0	73.7	73.5	48.1	51.8	60.5



平成24年度と比較すると、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」が6.3ポイント増加、「空気や川、海のきれいさ」が3.5ポイント増加など、12項目中7項目が増加している。一方、減少しているものは「買い物の便利さ」が1.3ポイントの減少など、5項目の減少となっている。（図表2-2）

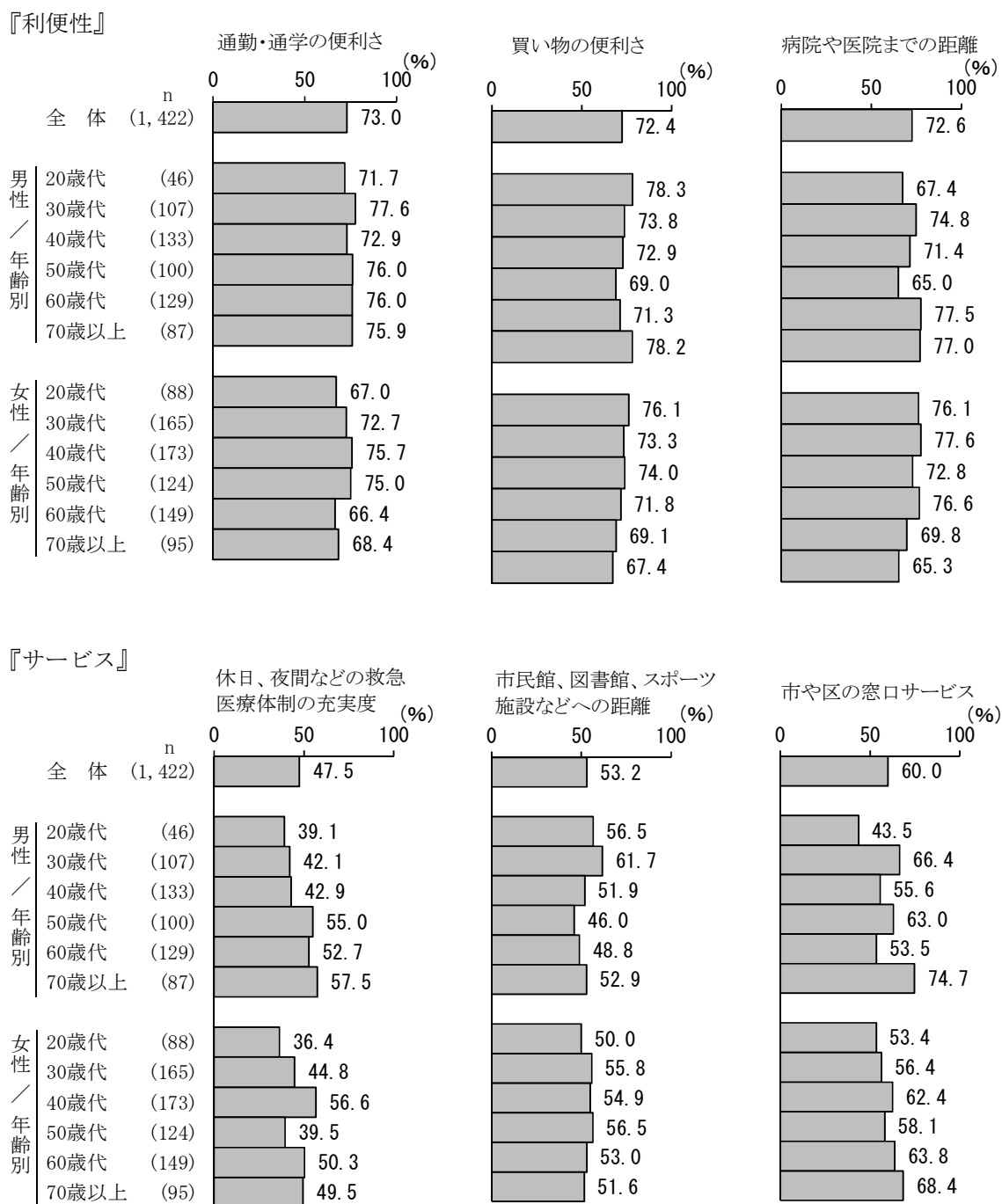
図表2-3 生活環境の満足度 (<満足>、性/年齢別)



性/年齢別で『安全性』をみると、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は、男性では70歳以上(72.4%)、女性では60歳代(61.7%)が最も多くなっている。「風紀上・防犯上の安心感」は、男性70歳以上(72.4%)が最も多くなっている。「交通事故・危険物からの安心感」は、男性30歳代(38.3%)・女性30歳代(39.4%)が3割台と少なくなっている。

『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「家の周りの静けさ」は、男性70歳以上(73.6%)が最も多くなっている。「公園や緑の豊かさ」は、男性では70歳以上、女性では20歳代、60歳代、70歳以上が7割を超え多くなっている。(図表2-3)

図表2-4 生活環境の満足度 (<満足>、性/年齢別)



『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」は、男性では30歳代(77.6%)、女性では40歳代(75.7%)が最も多くなっている。「買い物の便利さ」は、男性では20歳代(78.3%)、女性でも20歳代(76.1%)が最も多くなっている。「病院や医院までの距離」は、男性では60歳代(77.5%)、女性では30歳代(77.6%)が最も多くなっている。

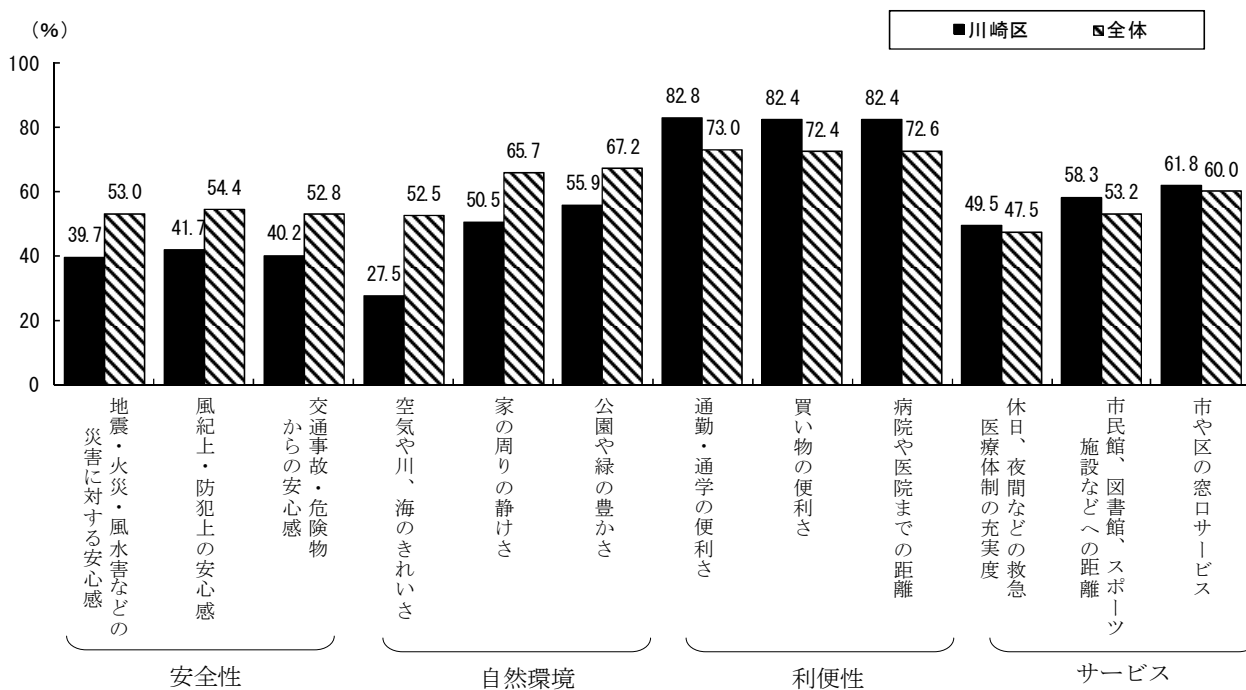
『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は、男性では20歳代(39.1%)、女性でも20歳代(36.4%)が最も少なくなっている。「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は男性30歳代(61.7%)、「市や区の窓口のサービス」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。(図表2-4)

図表2-5 生活環境の満足度 (<満足>、川崎区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
川崎区	39.7	41.7	40.2	27.5	50.5	55.9	82.8	82.4	82.4	49.5	58.3	61.8
全体	53.0	54.4	52.8	52.5	65.7	67.2	73.0	72.4	72.6	47.5	53.2	60.0



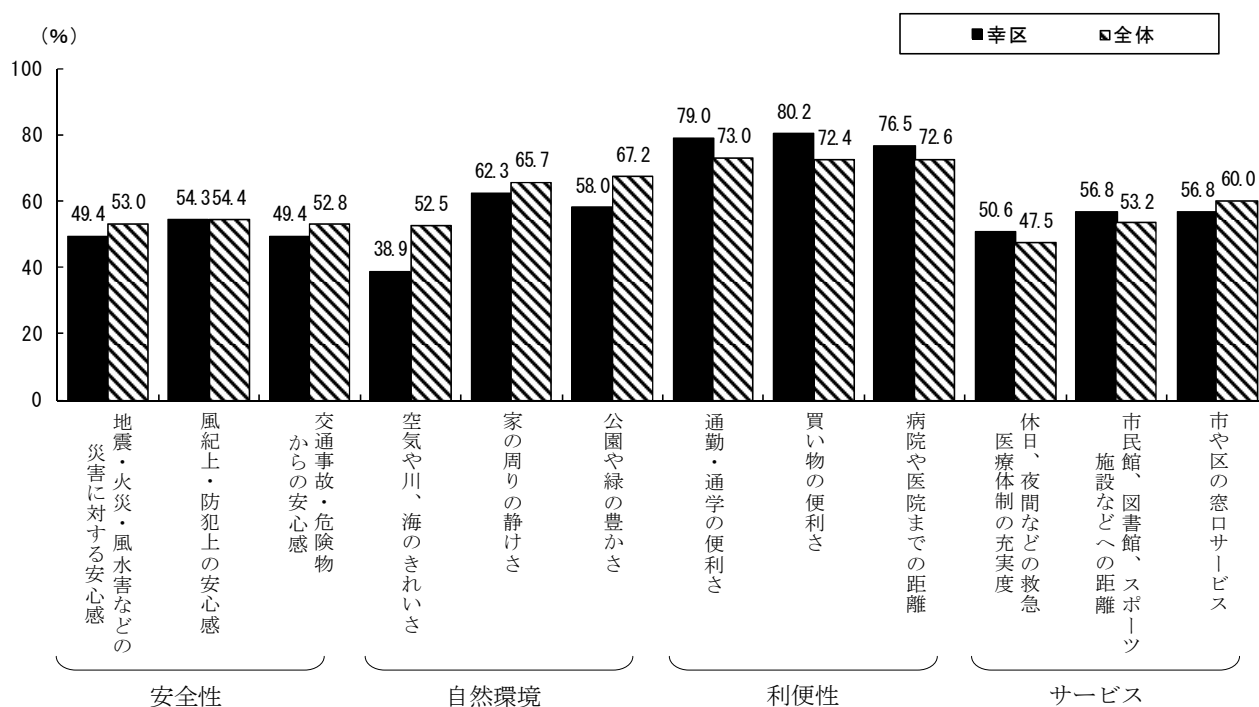
川崎区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』では、どの項目も市全体の満足度を下回っている。「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は 13.3 ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は 12.7 ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は 12.6 ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は 25.0 ポイント、「家の周りの静けさ」は 15.2 ポイント、「公園や緑の豊かさ」は 11.3 ポイント下回っている。一方、『利便性』、『サービス』では、どの項目も市全体の満足度を上回っている。「通勤・通学の便利さ」は 9.8 ポイント、「買い物の便利さ」は 10.0 ポイント、「病院や医院までの距離」は 9.8 ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は 2.0 ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は 5.1 ポイント、「市や区の窓口サービス」は 1.8 ポイント上回っている。(図表2-5)

図表 2-6 生活環境の満足度 (<満足>、幸区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
幸区	49.4	54.3	49.4	38.9	62.3	58.0	79.0	80.2	76.5	50.6	56.8	56.8
全体	53.0	54.4	52.8	52.5	65.7	67.2	73.0	72.4	72.6	47.5	53.2	60.0



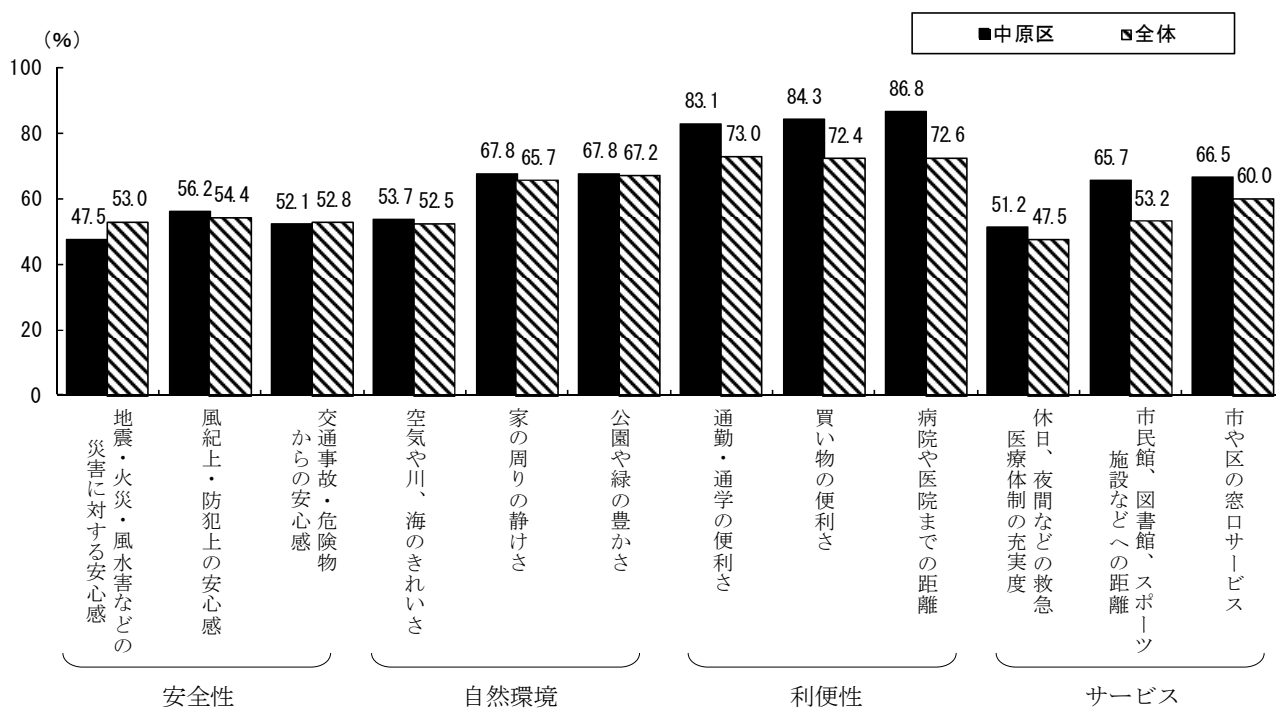
幸区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』では、どの項目も市全体の満足度を下回っている。「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は3.6ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は0.1ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は3.4ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は13.6ポイント、「家の周りの静けさ」は3.4ポイント、「公園や緑の豊かさ」は9.2ポイント下回っている。『利便性』では、どの項目も市全体の満足度を上回っている。「通勤・通学の便利さ」は6.0ポイント、「買い物の便利さ」は7.8ポイント、「病院や医院までの距離」は3.9ポイント上回っている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は3.1ポイントのプラス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は3.6ポイントのプラス、「市や区の窓口サービス」は3.2ポイントのマイナスとなっている。(図表2-6)

図表2-7 生活環境の満足度 (<満足>、中原区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
中原区	47.5	56.2	52.1	53.7	67.8	67.8	83.1	84.3	86.8	51.2	65.7	66.5
全体	53.0	54.4	52.8	52.5	65.7	67.2	73.0	72.4	72.6	47.5	53.2	60.0



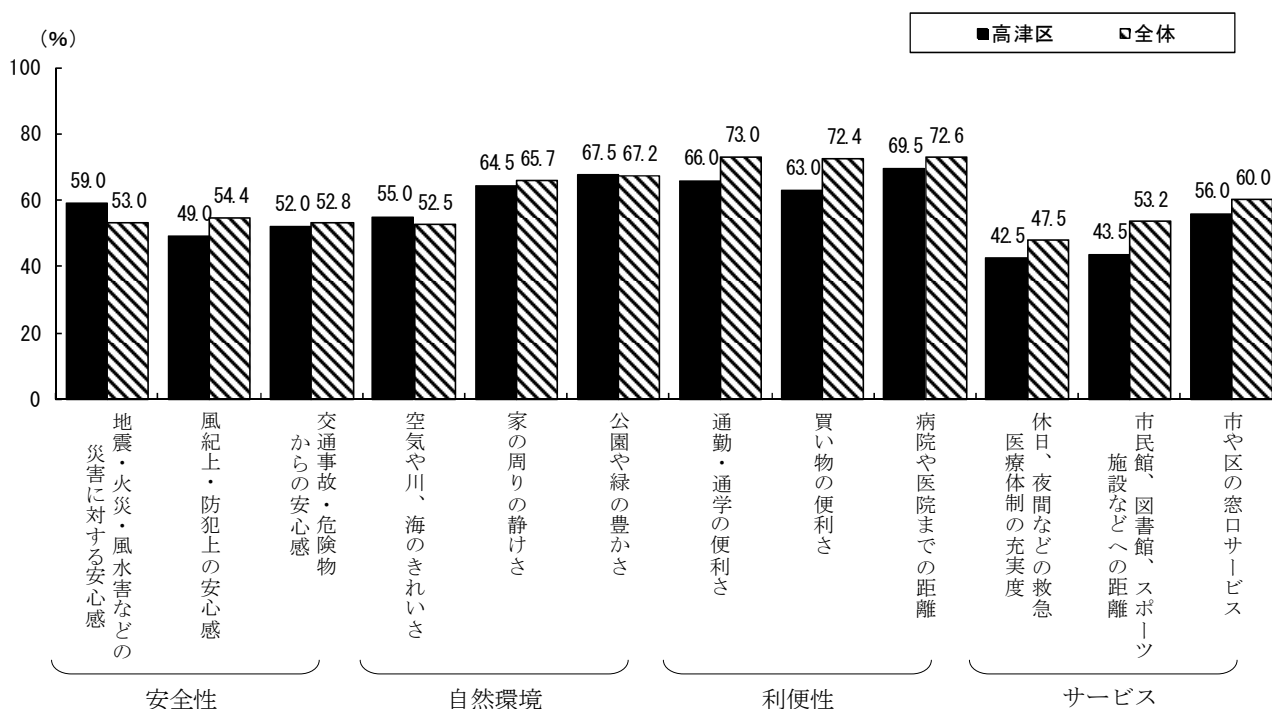
中原区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は 5.5 ポイントのマイナス、「風紀上・防犯上の安心感」は 1.8 ポイントのプラス、「交通事故・危険物からの安心感」は 0.7 ポイントのマイナスとなっている。『自然環境』、『利便性』、『サービス』では、どの項目も市全体の満足度を上回っている。「空気や川、海のきれいさ」は 1.2 ポイント、「家の周りの静けさ」は 2.1 ポイント、「公園や緑の豊かさ」は 0.6 ポイント、「通勤・通学の便利さ」は 10.1 ポイント、「買い物の便利さ」は 11.9 ポイント、「病院や医院までの距離」は 14.2 ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は 3.7 ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は 12.5 ポイント、「市や区の窓口サービス」は 6.5 ポイント上回っている。(図表2-7)

図表2-8 生活環境の満足度 (<満足>、高津区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
高津区	59.0	49.0	52.0	55.0	64.5	67.5	66.0	63.0	69.5	42.5	43.5	56.0
全体	53.0	54.4	52.8	52.5	65.7	67.2	73.0	72.4	72.6	47.5	53.2	60.0



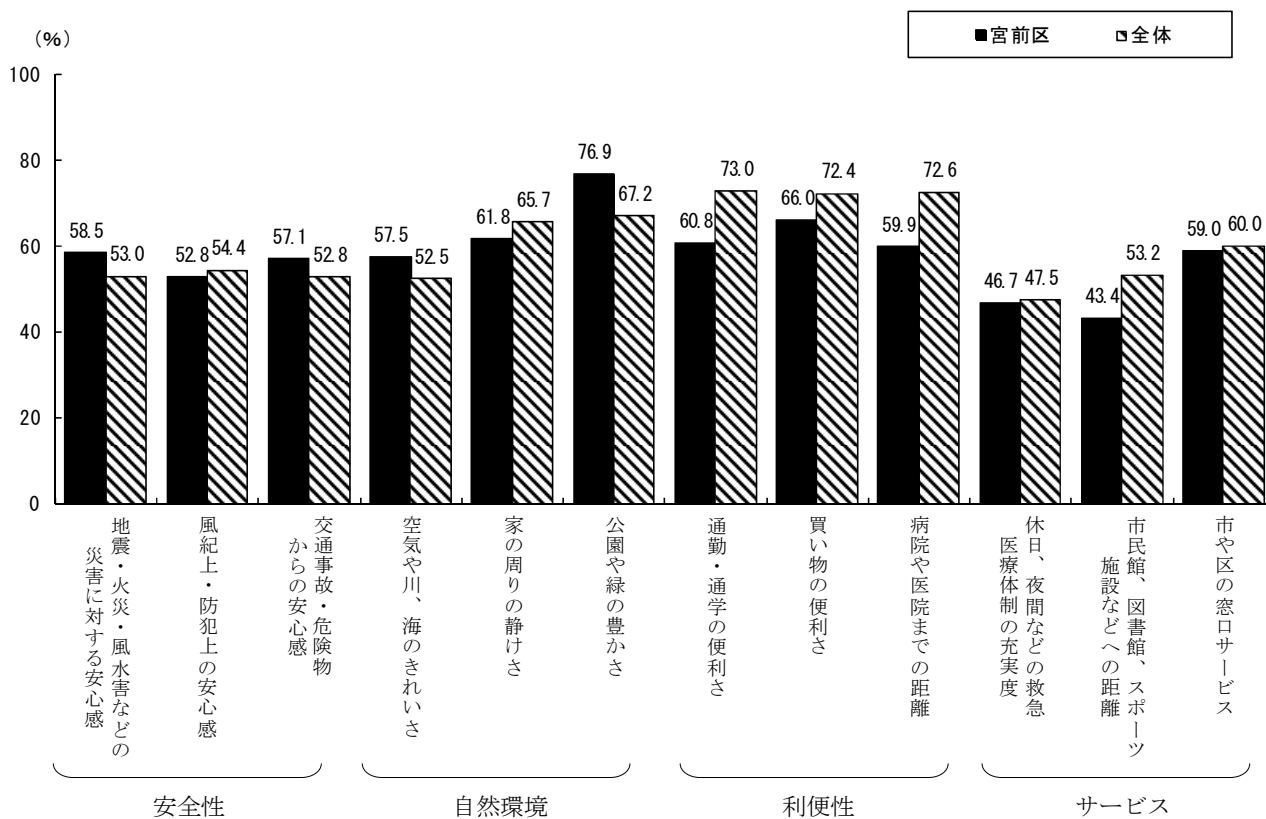
高津区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は6.0ポイントのプラス、「風紀上・防犯上の安心感」は5.4ポイントのマイナス、「交通事故・危険物からの安心感」は0.8ポイントのマイナスとなっている。『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は2.5ポイントのプラス、「家の周りの静けさ」は1.2ポイントのマイナス、「公園や緑の豊かさ」は0.3ポイントのプラスとなっている。『利便性』、『サービス』では、どの項目も市全体の満足度を下回っている。「通勤・通学の便利さ」は7.0ポイント、「買い物の便利さ」は9.4ポイント、「病院や医院までの距離」は3.1ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は5.0ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は9.7ポイント、「市や区の窓口サービス」は4.0ポイント下回っている。(図表2-8)

図表2-9 生活環境の満足度 (<満足>、宮前区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
宮前区	58.5	52.8	57.1	57.5	61.8	76.9	60.8	66.0	59.9	46.7	43.4	59.0
全体	53.0	54.4	52.8	52.5	65.7	67.2	73.0	72.4	72.6	47.5	53.2	60.0



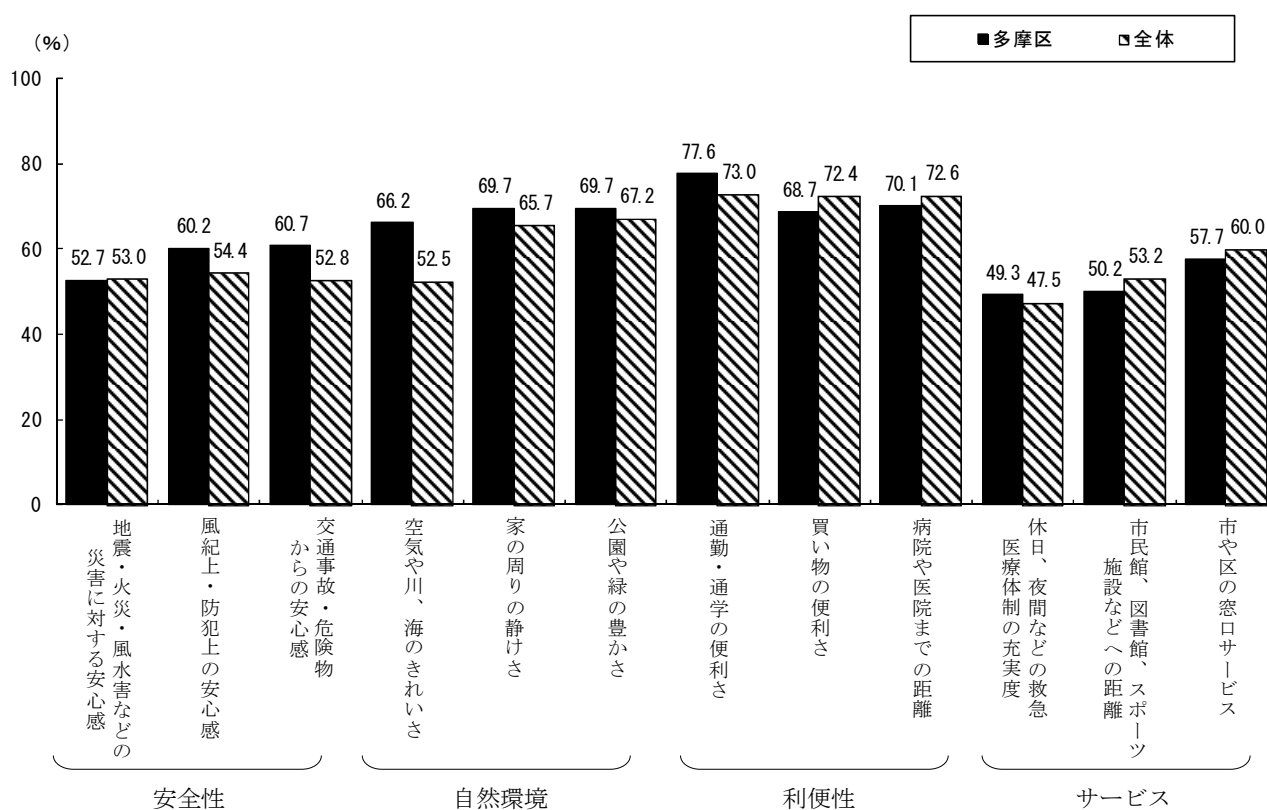
宮前区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は5.5ポイントのプラス、「風紀上・防犯上の安心感」は1.6ポイントのマイナス、「交通事故・危険物からの安心感」は4.3ポイントのプラスとなっている。『自然環境』では、「空気や川、海のきれいさ」は5.0ポイントのプラス、「家の周りの静けさ」は3.9ポイントのマイナス、「公園や緑の豊かさ」は9.7ポイントのプラスとなっている。『利便性』、『サービス』では、どの項目も市全体の満足度を下回っている。「通勤・通学の便利さ」は12.2ポイント、「買い物の便利さ」は6.4ポイント、「病院や医院までの距離」は12.7ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は0.8ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は9.8ポイント、「市や区の窓口サービス」は1.0ポイント下回っている。(図表2-9)

図表2-10 生活環境の満足度（＜満足＞、多摩区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

（％）

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
多摩区	52.7	60.2	60.7	66.2	69.7	69.7	77.6	68.7	70.1	49.3	50.2	57.7
全体	53.0	54.4	52.8	52.5	65.7	67.2	73.0	72.4	72.6	47.5	53.2	60.0



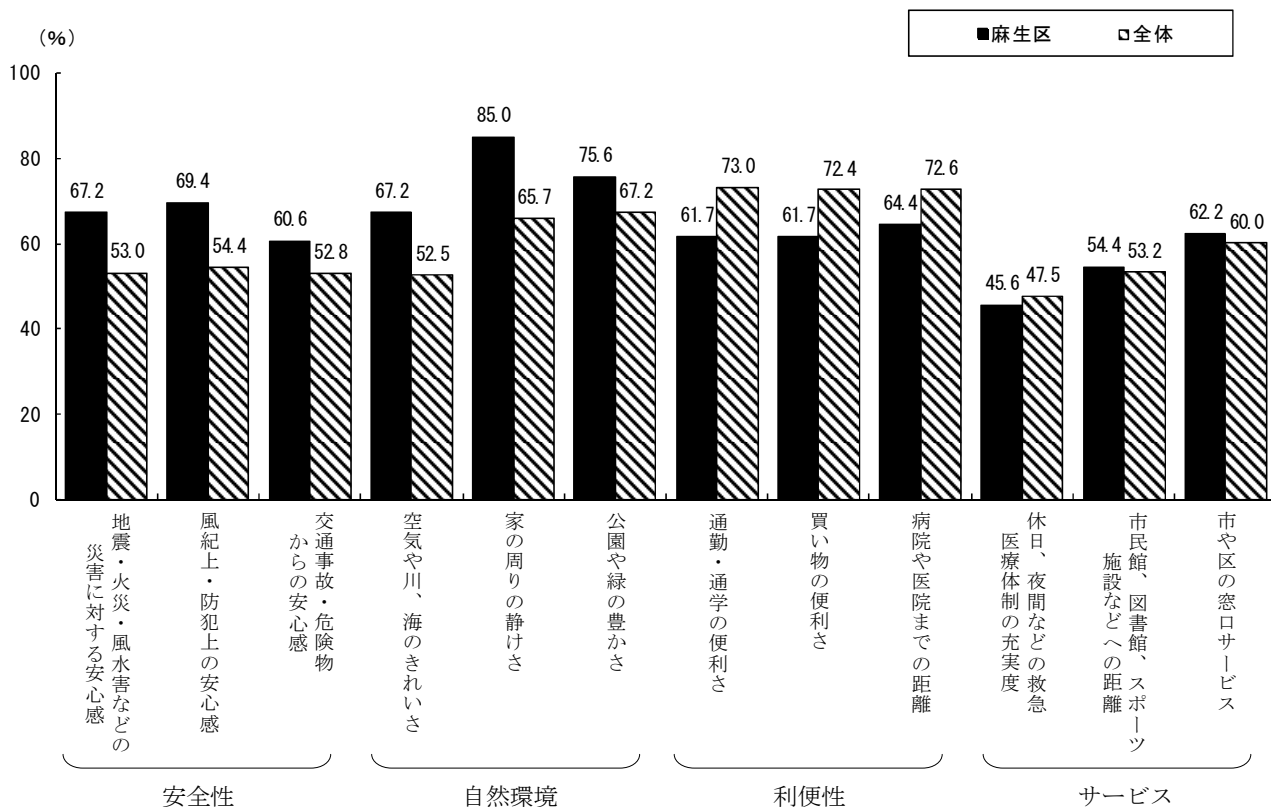
多摩区の生活環境満足度は、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は0.3ポイントのマイナス、「風紀上・防犯上の安心感」は5.8ポイントのプラス、「交通事故・危険物からの安心感」は7.9ポイントのプラスとなっている。『自然環境』では、どの項目も市全体の満足度を上回っている。「空気や川、海のきれいさ」は13.7ポイント、「家の周りの静けさ」は4.0ポイント、「公園や緑の豊かさ」は2.5ポイント上回っている。『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」は4.6ポイントのプラス、「買い物の便利さ」は3.7ポイントのマイナス、「病院や医院までの距離」は2.5ポイントのマイナスとなっている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は1.8ポイントのプラス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は3.0ポイントのマイナス、「市や区の窓口サービス」は2.3ポイントのマイナスとなっている。（図表2-10）

図表2-11 生活環境の満足度 (<満足>、麻生区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

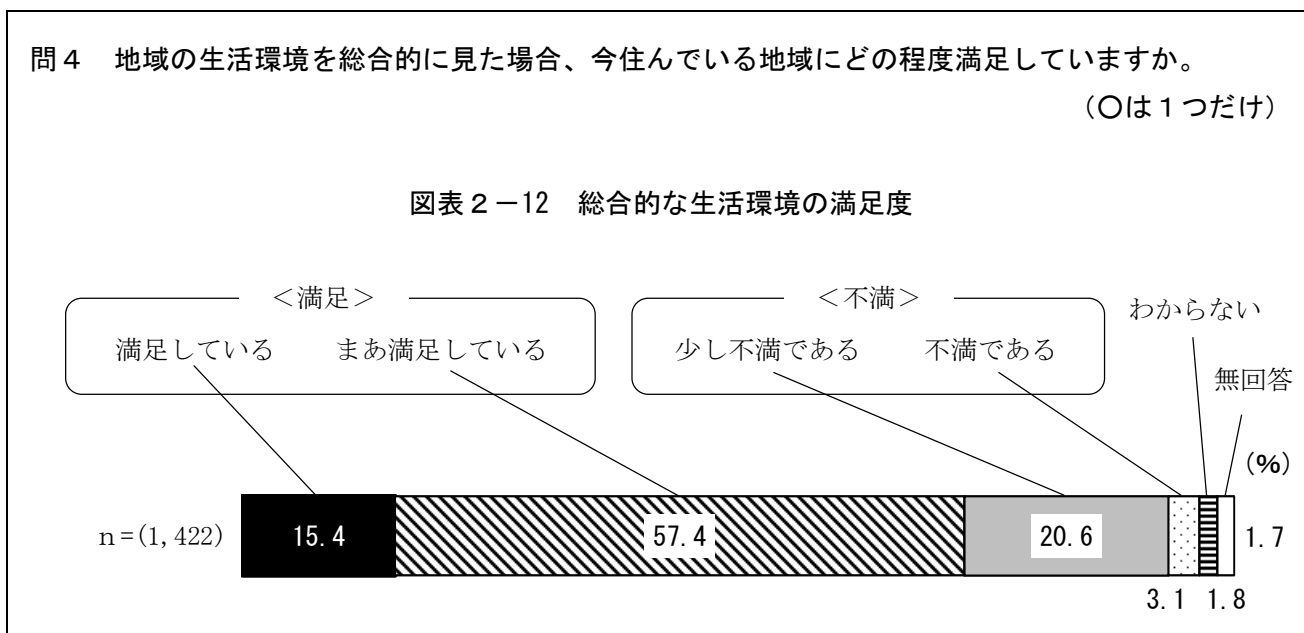
	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
麻生区	67.2	69.4	60.6	67.2	85.0	75.6	61.7	61.7	64.4	45.6	54.4	62.2
全体	53.0	54.4	52.8	52.5	65.7	67.2	73.0	72.4	72.6	47.5	53.2	60.0



麻生区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』では、どの項目も市全体の満足度を上回っている。「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は14.2ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は15.0ポイント、「交通事故・危険物からの安心感」は7.8ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は14.7ポイント、「家の周りの静けさ」は19.3ポイント、「公園や緑の豊かさ」は8.4ポイント上回っている。『利便性』では、どの項目も市全体の満足度を下回っている。「通勤・通学の便利さ」は11.3ポイント、「買い物の便利さ」は10.7ポイント、「病院や医院までの距離」は8.2ポイント下回っている。『サービス』では、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は1.9ポイントのマイナス、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は1.2ポイントのプラス、「市や区の窓口サービス」は2.2ポイントのプラスとなっている。(図表2-11)

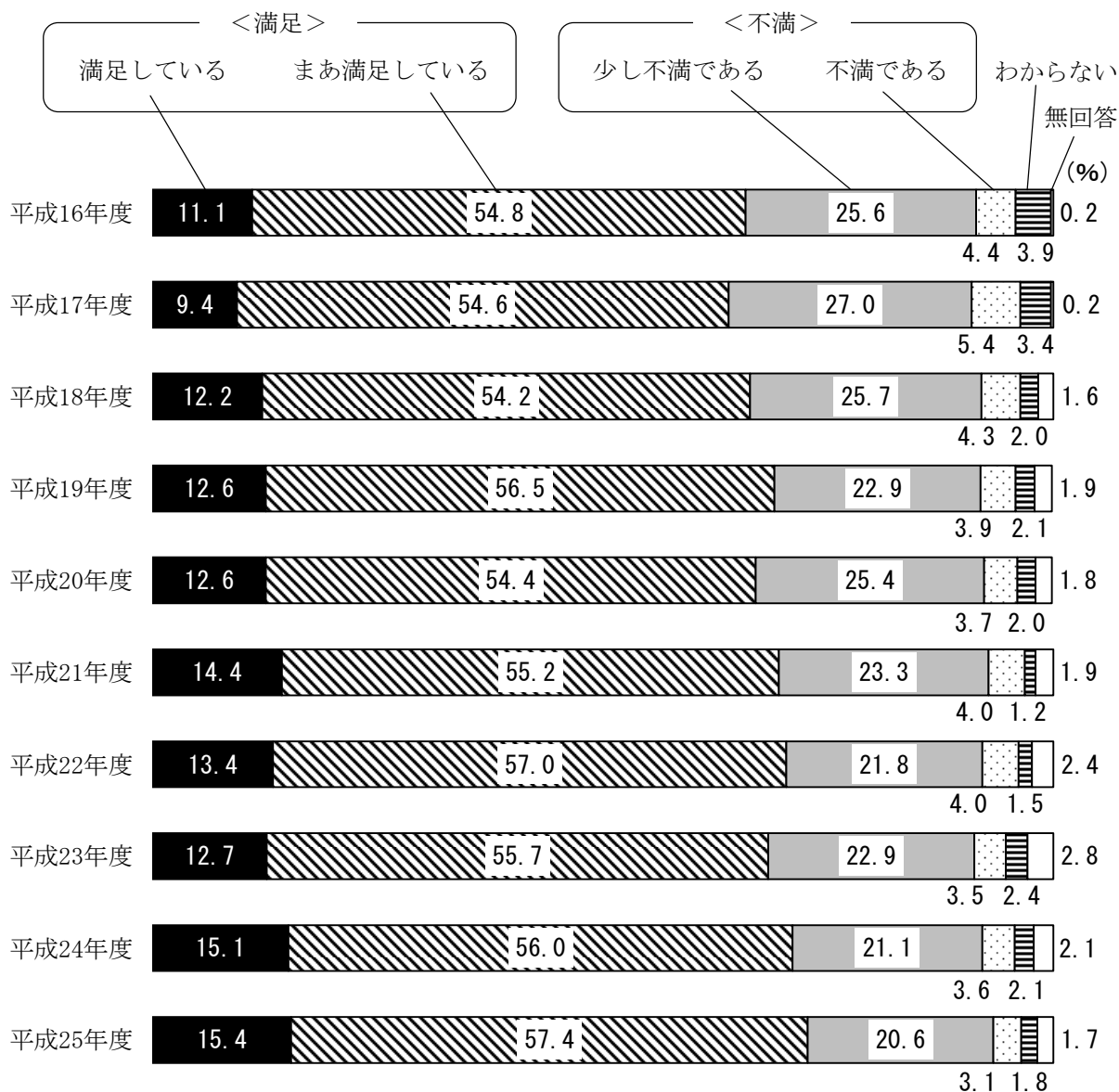
2-2 総合的な生活環境の満足度

◎<満足>が72.8%



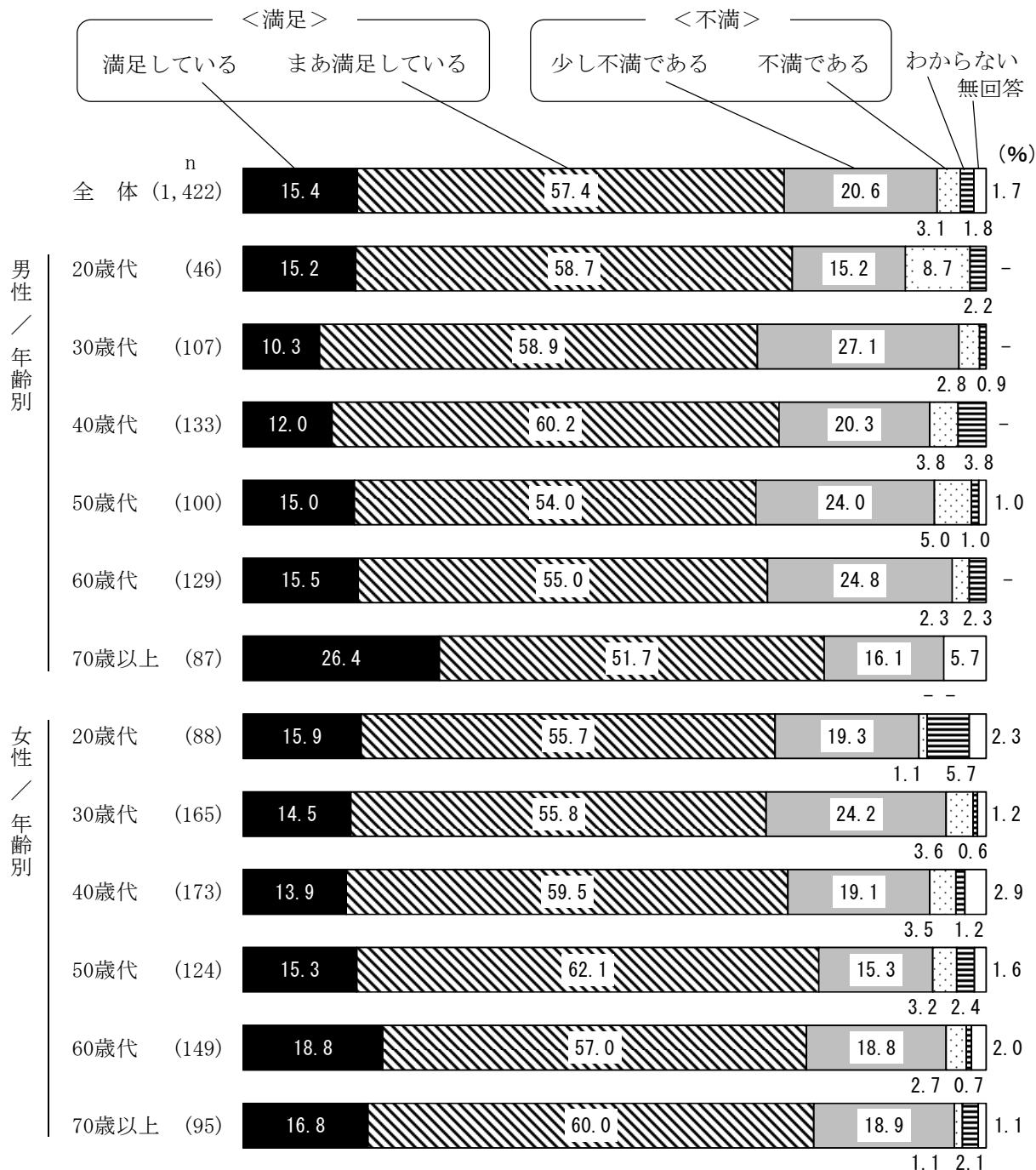
総合的な生活環境は、「満足している」(15.4%)と「まあ満足している」(57.4%)を合わせた<満足>は72.8%となっている。一方、「少し不満である」(20.6%)と「不満である」(3.1%)を合わせた<不満>は23.7%となっている。(図表2-12)

図表 2-13 総合的な生活環境の満足度 (経年比較)



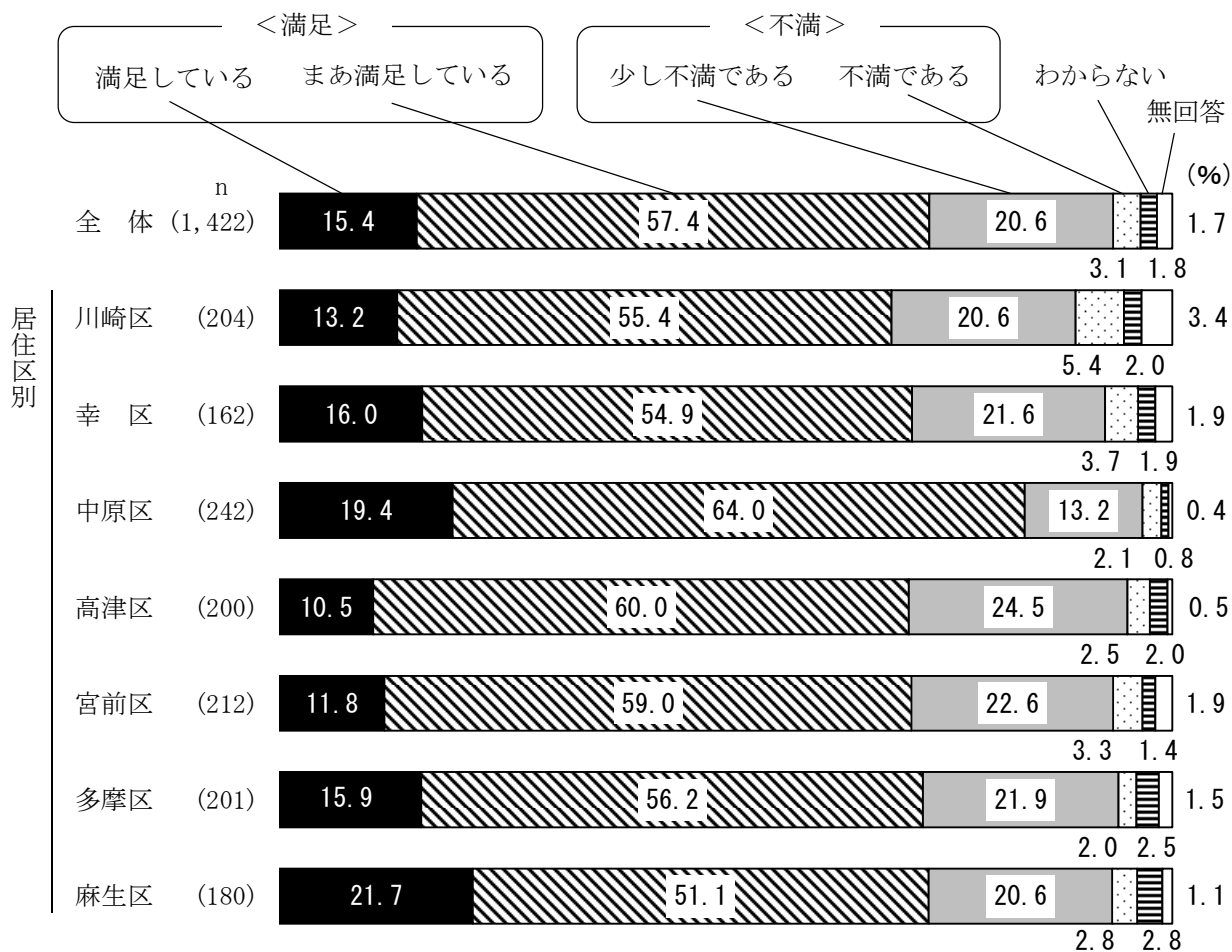
過去の推移では、＜満足＞は、平成16年度以降おおむね増加傾向にあり、平成25年度は前年度に比べ1.7ポイントの増加で7割を超えている。(図表2-13)

図表2-14 総合的な生活環境の満足度(性/年齢別)



性/年齢別では、<満足>は、男性では70歳以上(78.1%)が7割後半と最も多くなっている。次いで、20歳代(73.9%)、40歳代(72.2%)の順となっている。女性では50歳代(77.4%)が最も多くなっている。次いで、70歳以上(76.8%)、60歳代(75.8%)の順となっている。一方、<不満>は、男性では30歳代(29.9%)、女性でも30歳代(27.8%)が最も多くなっている。(図表2-14)

図表 2-15 総合的な生活環境の満足度 (居住区別)



居住区別では、<満足>は、中原区(83.4%)が最も多くなっている。次いで、麻生区(72.8%)、多摩区(72.1%)の順となっている。<不満>は、高津区(27.0%)が最も多くなっている。次いで、川崎区(26.0%)、宮前区(25.9%)の順となっている。(図表 2-15)

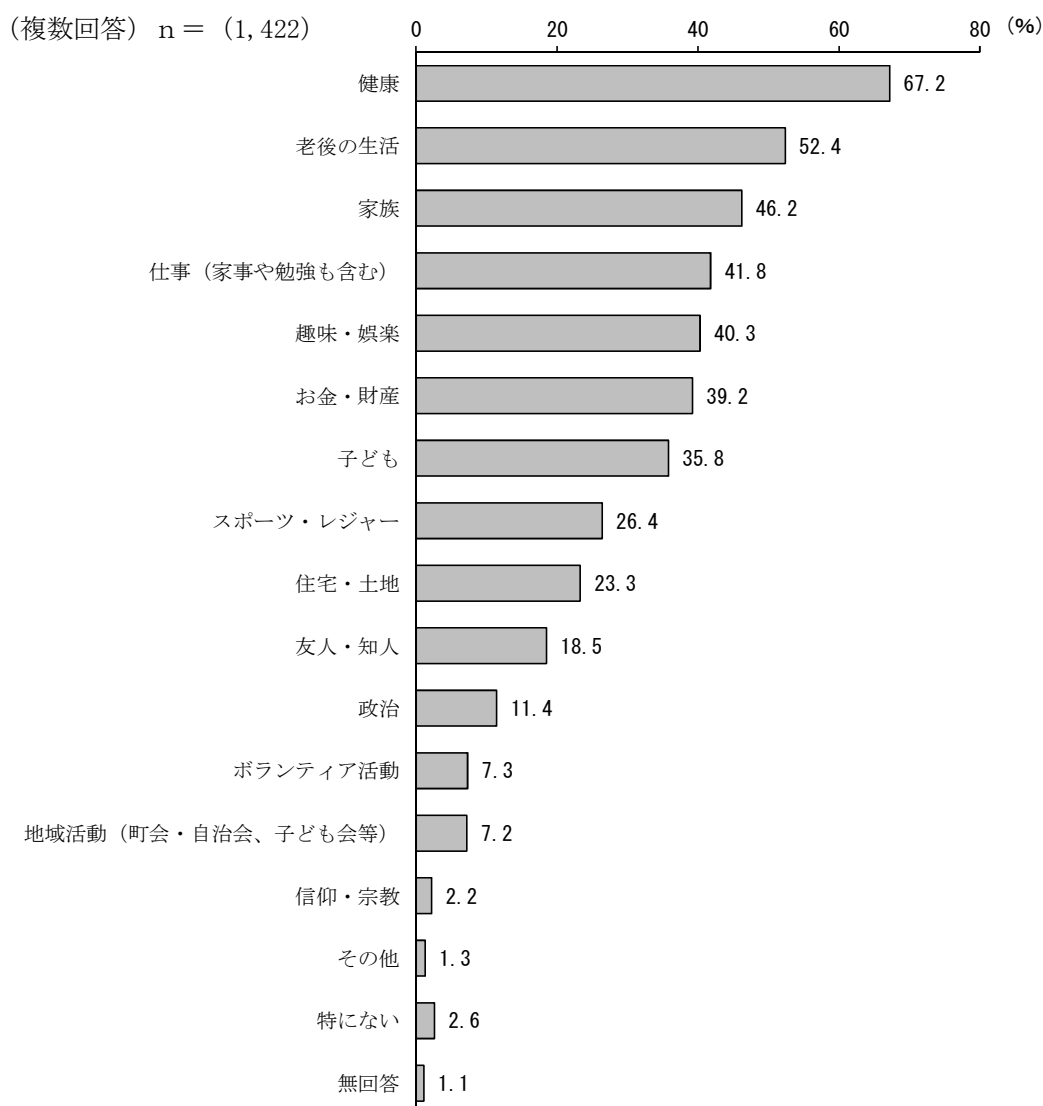
3 関心ごとと行動範囲について

3-1 関心を持っていること

◎「健康」が67.2%

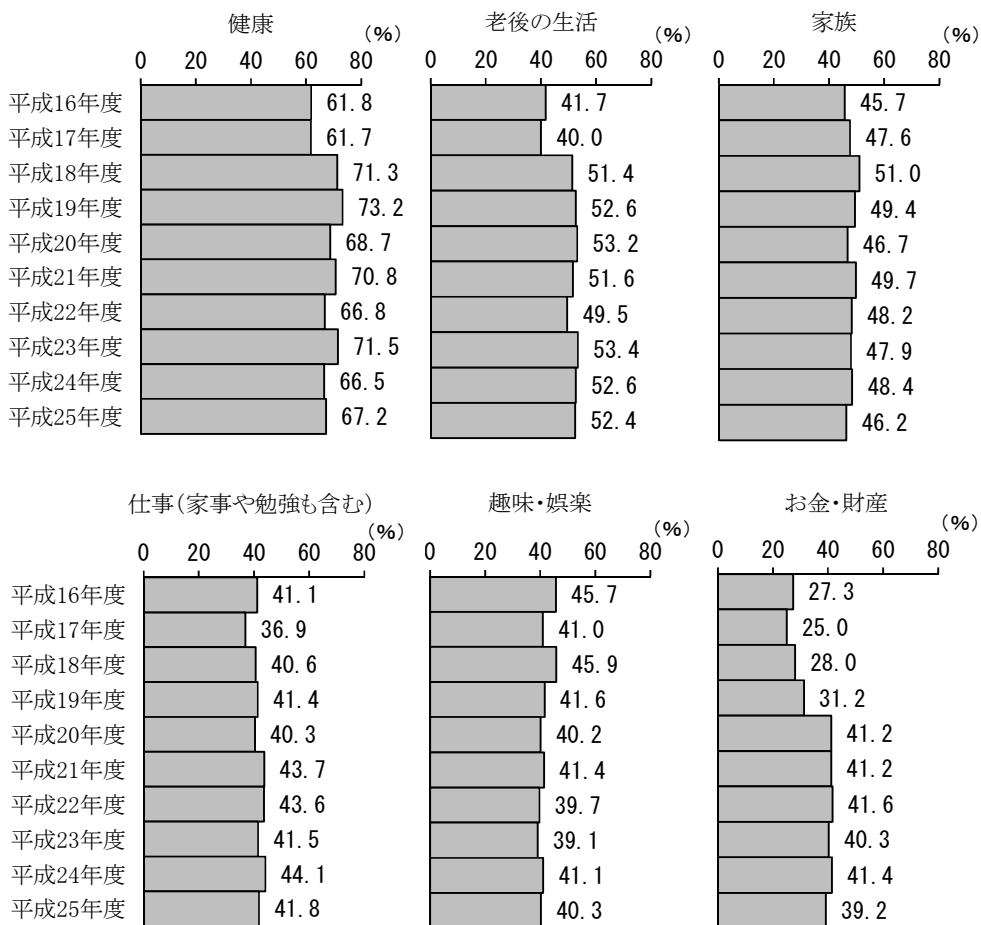
問5 現在特に関心をお持ちのことは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

図表3-1 関心を持っていること



関心を持っていることは、「健康」(67.2%)が最も多くなっている。次いで、「老後の生活」(52.4%)、「家族」(46.2%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(41.8%)、「趣味・娯楽」(40.3%)、「お金・財産」(39.2%)の順となっている。(図表3-1)

図表3-2 関心を持っていること（経年比較、上位6項目）

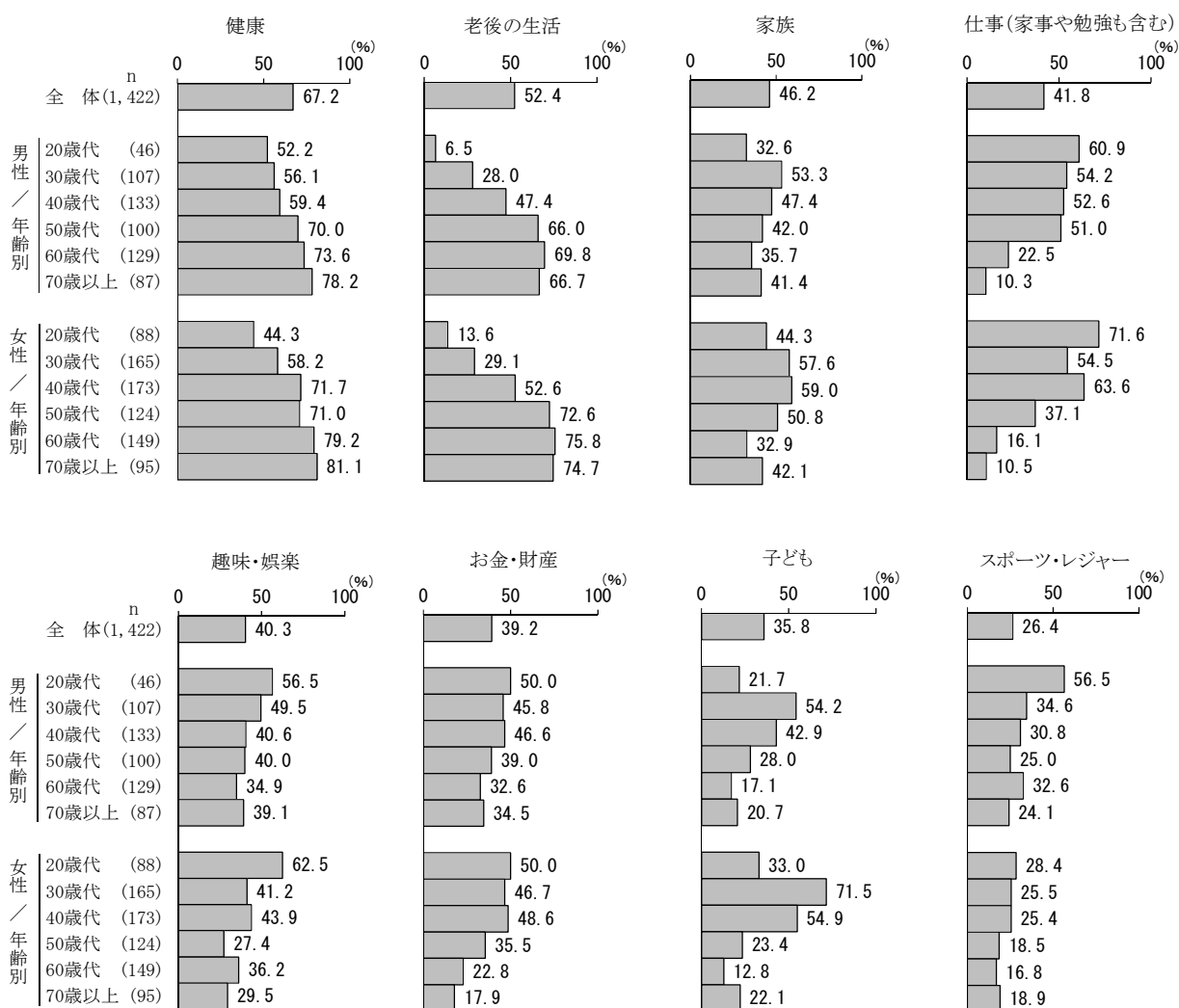


年度	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成16年度		健康 61.8	家族／趣味・娯楽 45.7	老後の生活 41.7	仕事(家事や勉強も含む) 41.1	子ども 34.5	
平成17年度		健康 61.7	家族 47.6	趣味・娯楽 41.0	老後の生活 40.0	子ども 37.7	仕事(家事や勉強も含む) 36.9
平成18年度		健康 71.3	老後の生活 51.4	家族 51.0	趣味・娯楽 45.9	仕事(家事や勉強も含む) 40.6	子ども 35.5
平成19年度		健康 73.2	老後の生活 52.6	家族 49.4	趣味・娯楽 41.6	仕事(家事や勉強も含む) 41.4	子ども 34.0
平成20年度		健康 68.7	老後の生活 53.2	家族 46.7	お金・財産 41.2	仕事(家事や勉強も含む) 40.3	趣味・娯楽 40.2
平成21年度		健康 70.8	老後の生活 51.6	家族 49.7	仕事(家事や勉強も含む) 43.7	趣味・娯楽 41.4	お金・財産 41.2
平成22年度		健康 66.8	老後の生活 49.5	家族 48.2	仕事(家事や勉強も含む) 43.6	お金・財産 41.6	趣味・娯楽 39.7
平成23年度		健康 71.5	老後の生活 53.4	家族 47.9	仕事(家事や勉強も含む) 41.5	お金・財産 40.3	趣味・娯楽 39.1
平成24年度		健康 66.5	老後の生活 52.6	家族 48.4	仕事(家事や勉強も含む) 44.1	お金・財産 41.4	趣味・娯楽 41.1
平成25年度		健康 67.2	老後の生活 52.4	家族 46.2	仕事(家事や勉強も含む) 41.8	趣味・娯楽 40.3	お金・財産 39.2

注：「お金・財産」は平成19年度調査までは「金・財産」であった。

上位の6項目について、平成16年度以降を比較した。平成24年度と比較すると、上位4項目に順位の変動は無いが、「趣味・娯楽」は6位から5位となり、「お金・財産」は5位から6位となった。なお、第1位の「健康」は0.7ポイント増加しており、第2位～第6位の項目はポイントが減少している。(図表3-2)

図表3-3 関心を持っていること(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「健康」および「老後の生活」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「家族」は、男性の30歳代(53.3%)および女性の30歳代から50歳代で5割台と多くなっている。「仕事(家事や勉強も含む)」は、男性では20歳代(60.9%)が6割台と最も多く、女性では20歳代(71.6%)が7割を超え最も多くなっている。「趣味・娯楽」、「お金・財産」、「スポーツ・レジャー」は、男女ともに20歳代が最も多くなっており、「子ども」は、男女ともに30歳代が最も多くなっている。(図表3-3)

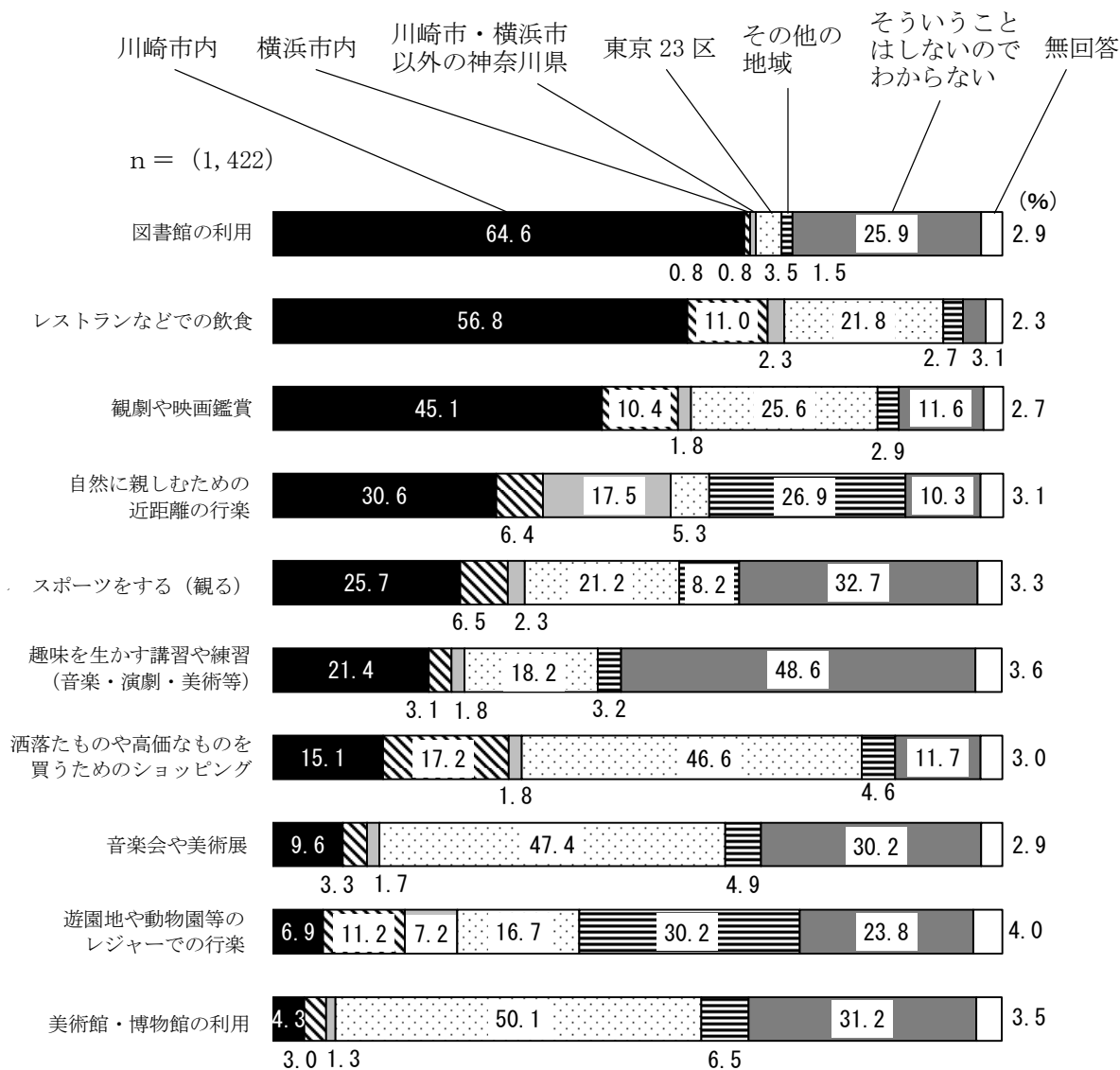
3-2 行動範囲

◎『川崎市内』が多いのは、「図書館の利用」64.6%、「レストランなどでの飲食」56.8%

問6 行楽や文化施設の利用・ショッピングなどをされる場合、主にどこに行かれますか。

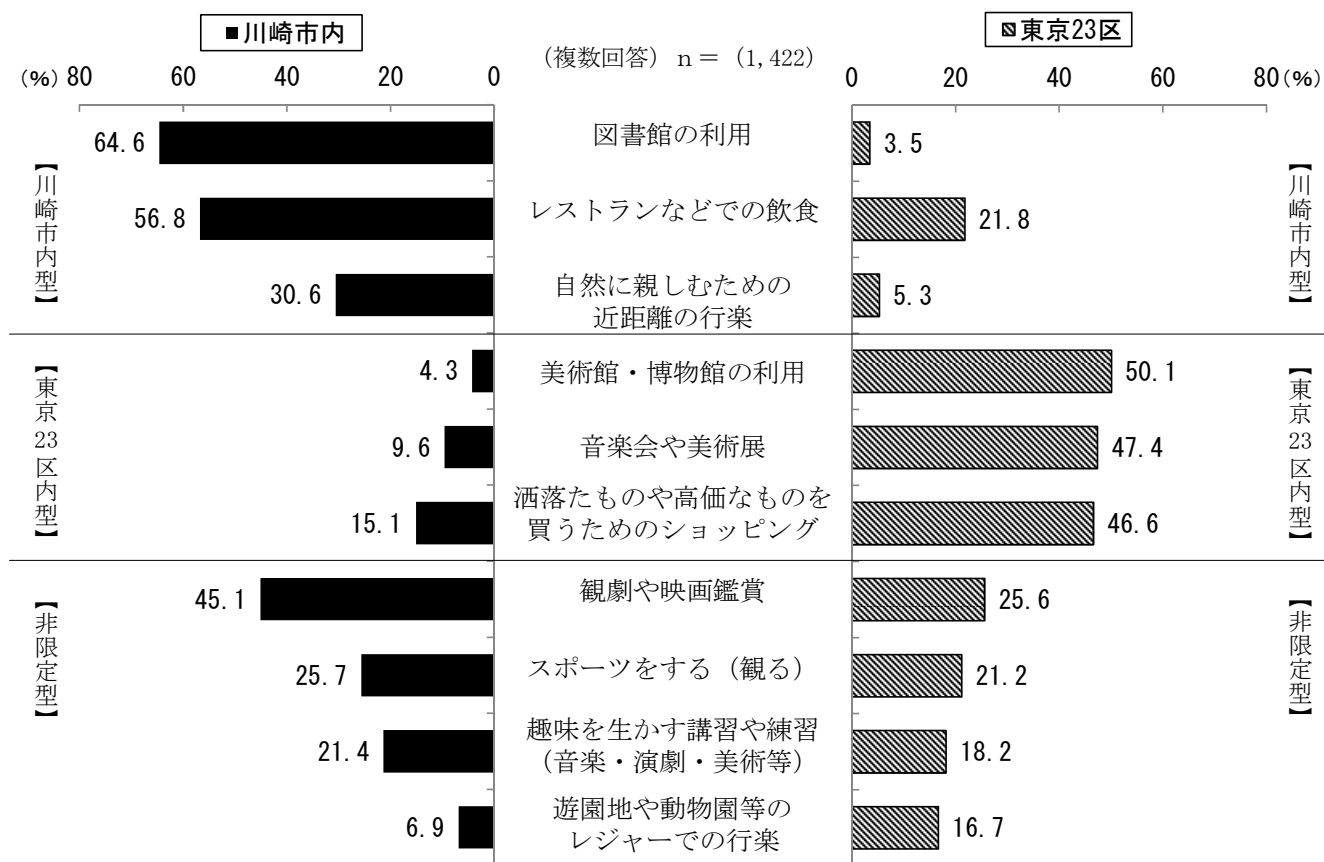
(○はそれぞれ1つずつ)

図表3-4 行動範囲



川崎市民の行動範囲で『川崎市内』が最も多かったのは、「図書館の利用」(64.6%)となっている。次いで、「レストランなどでの飲食」(56.8%)、「観劇や映画鑑賞」(45.1%)の順となっている。一方、『東京23区』が最も多かったのは、「美術館・博物館の利用」(50.1%)となっている。次いで、「音楽会や美術展」(47.4%)、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(46.6%)の順となっている。(図表3-4)

図表3-5 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』との比較)



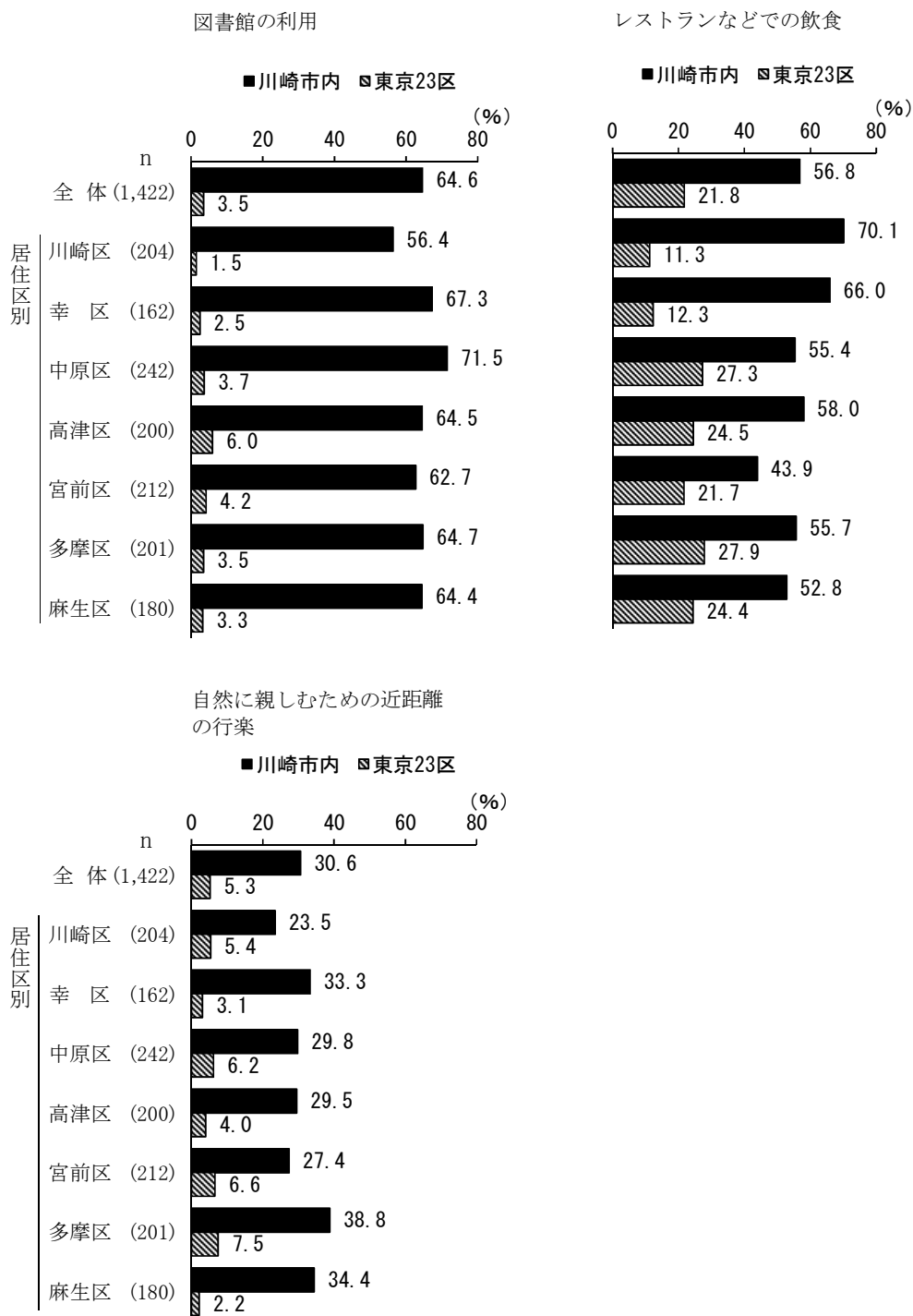
各項目について、行動範囲別に【川崎市内型】、【東京23区内型】、【非限定型】に分類すると以下ようになる。(図表3-5)

【川崎市内型】…………… 図書館の利用
 レストランなどでの飲食
 自然に親しむための近距離の行楽

【東京23区内型】… 美術館・博物館の利用
 音楽会や美術展
 洒落たものや高価なものを買うためのショッピング

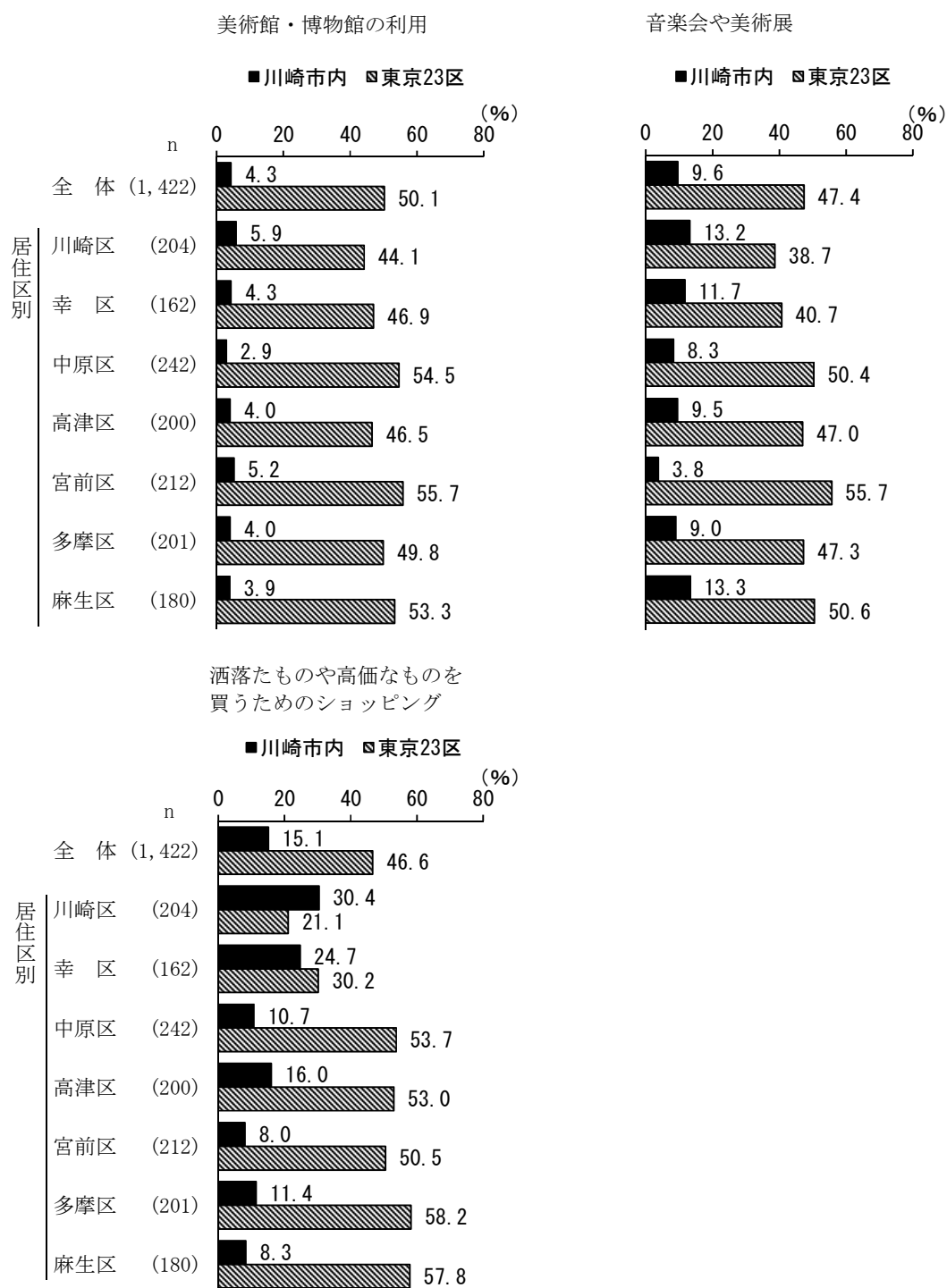
【非限定型】…………… 観劇や映画鑑賞
 スポーツをする(観る)
 趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)
 遊園地や動物園等のレジャーでの行楽

図表3-6 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別【川崎市内型】



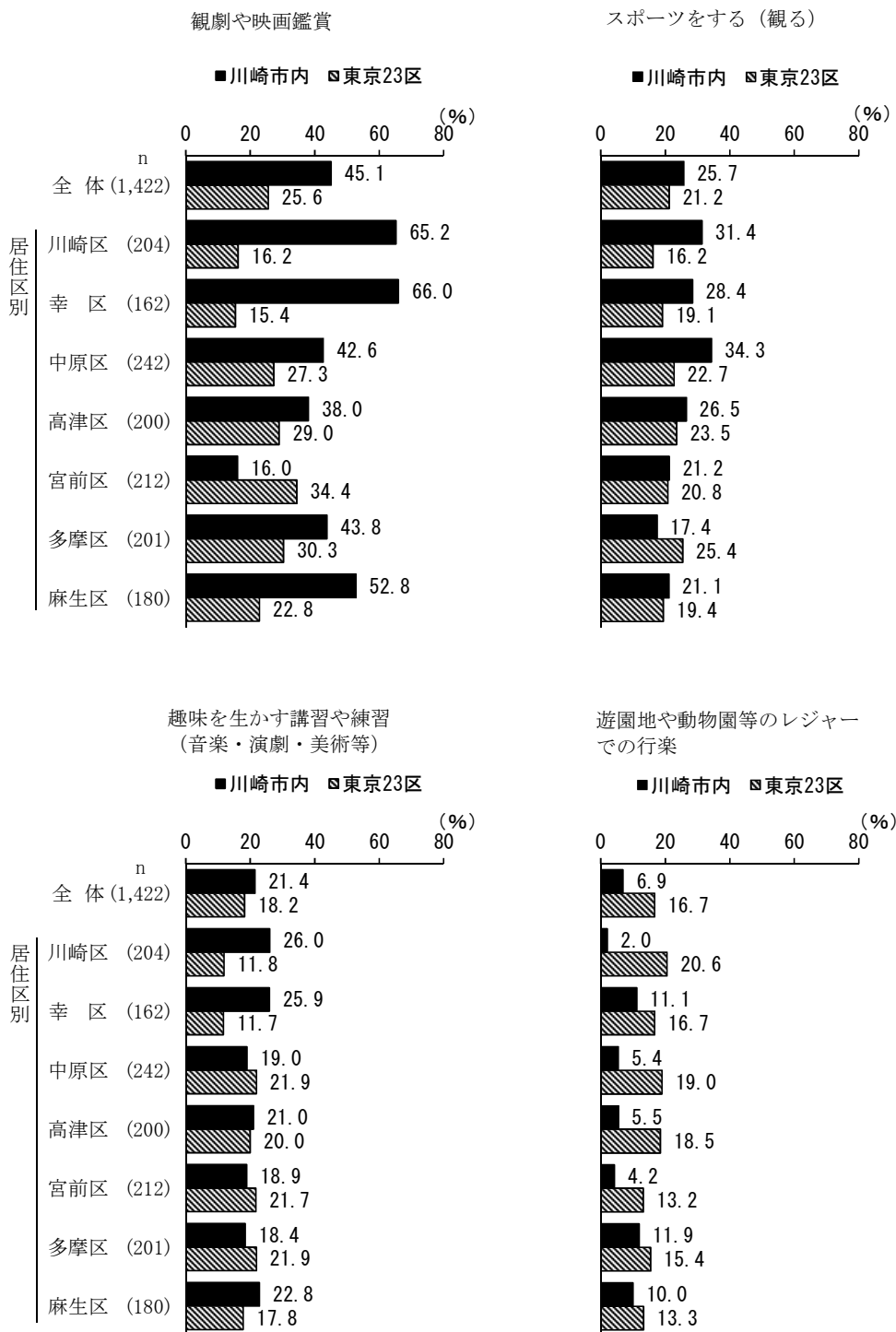
【川崎市内型】に分類した『川崎市内』での利用率が高い3項目を、居住区別で比較すると、「図書館の利用」は、中原区(71.5%)が最も多くなっており、『東京23区』の利用率は、いずれの居住区においても1割未満と少なくなっている。「レストランなどでの飲食」は、川崎区(70.1%)が最も多くなっており、『東京23区』の利用率が最も高いのは多摩区(27.9%)となっている。「自然に親しむための近距離の行楽」は、多摩区(38.8%)が最も多くなっており、『東京23区』の利用率は、いずれの居住区においても1割未満と少なくなっている。(図表3-6)

図表3-7 行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』との比較、居住区別）【東京23区内型】



【東京23区内型】に分類した『東京23区』での利用率が高い3項目を、居住区別で比較すると、「美術館・博物館の利用」は、宮前区（55.7%）が最も多くなっており、『川崎市内』の利用率は、いずれの居住区においても1割未満と少なくなっている。「音楽会や美術展」も、宮前区（55.7%）が最も多くなっており、『川崎市内』の利用率が最も高いのは麻生区（13.3%）となっている。「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」は、多摩区（58.2%）が最も多くなっている。なお、川崎区では『川崎市内』の利用率が3割を超えており、『東京23区』の利用率を上回っている。（図表3-7）

図表3-8 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別【非限定型】



『川崎市内』や『東京23区』に限らず平均的な利用があると思われる【非限定型】4項目を、居住区別で比較すると、「観劇や映画鑑賞」は、幸区(66.0%)、川崎区(65.2%)で『川崎市内』の割合が6割台と多くなっている。「スポーツをする(観る)」は、多摩区を除き、『川崎市内』が『東京23区』を上回っている。「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」は、川崎区と幸区で『川崎市内』の利用率が多い。「遊園地や動物園等のレジャーでの行楽」は、いずれの居住区においても『東京23区』が『川崎市内』を上回っている。(図表3-8)

4 市政に対する評価と要望について

4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

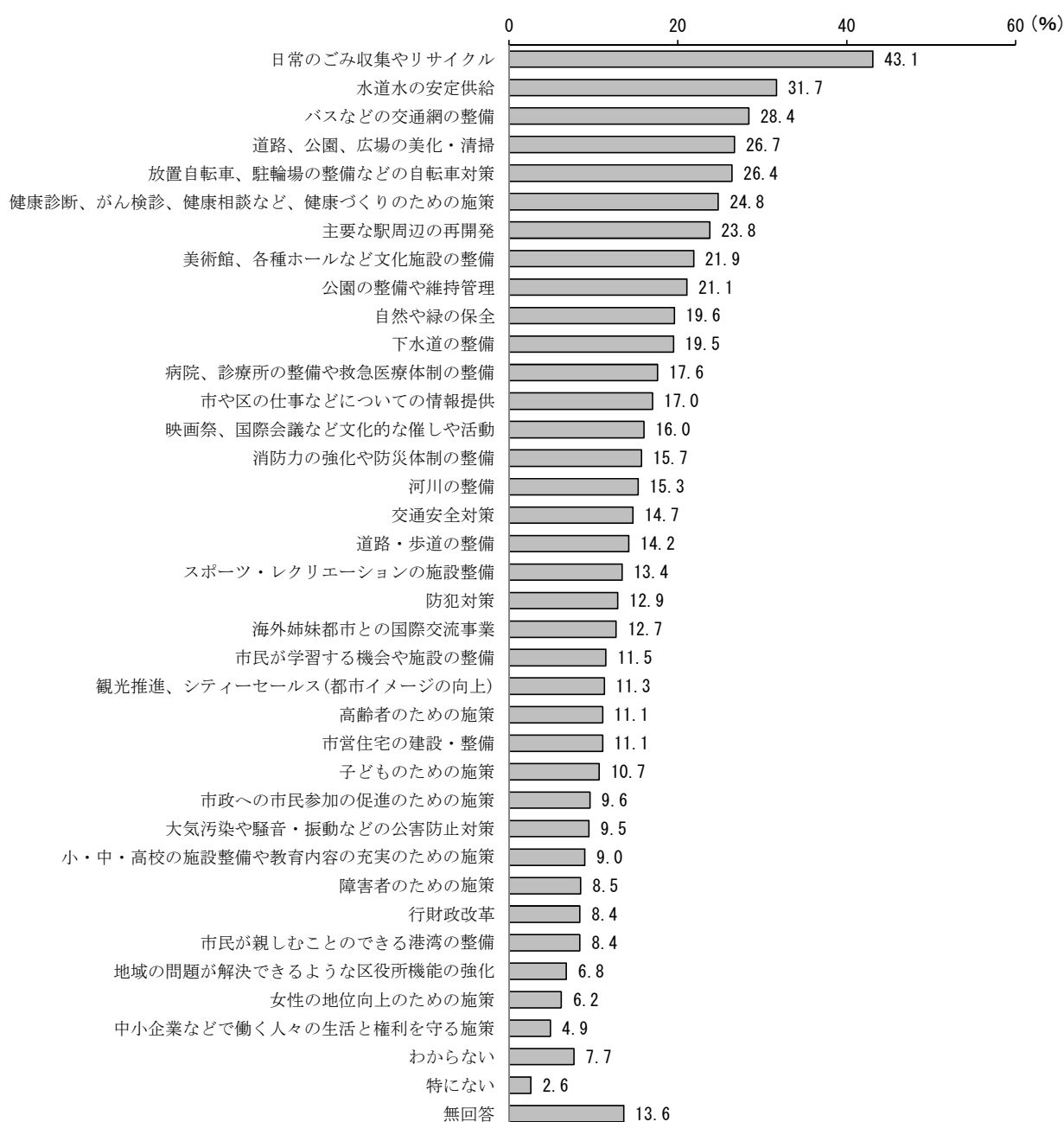
◎「日常のごみ収集やリサイクル」が43.1%

問7 市政について総合的にうかがいます。

次にあげる仕事の中で、よくやっていると思われるものは、どれですか。(あてはまるもの全てに○)

図表4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

(複数回答) n = (1,422)



(第2回アンケート)

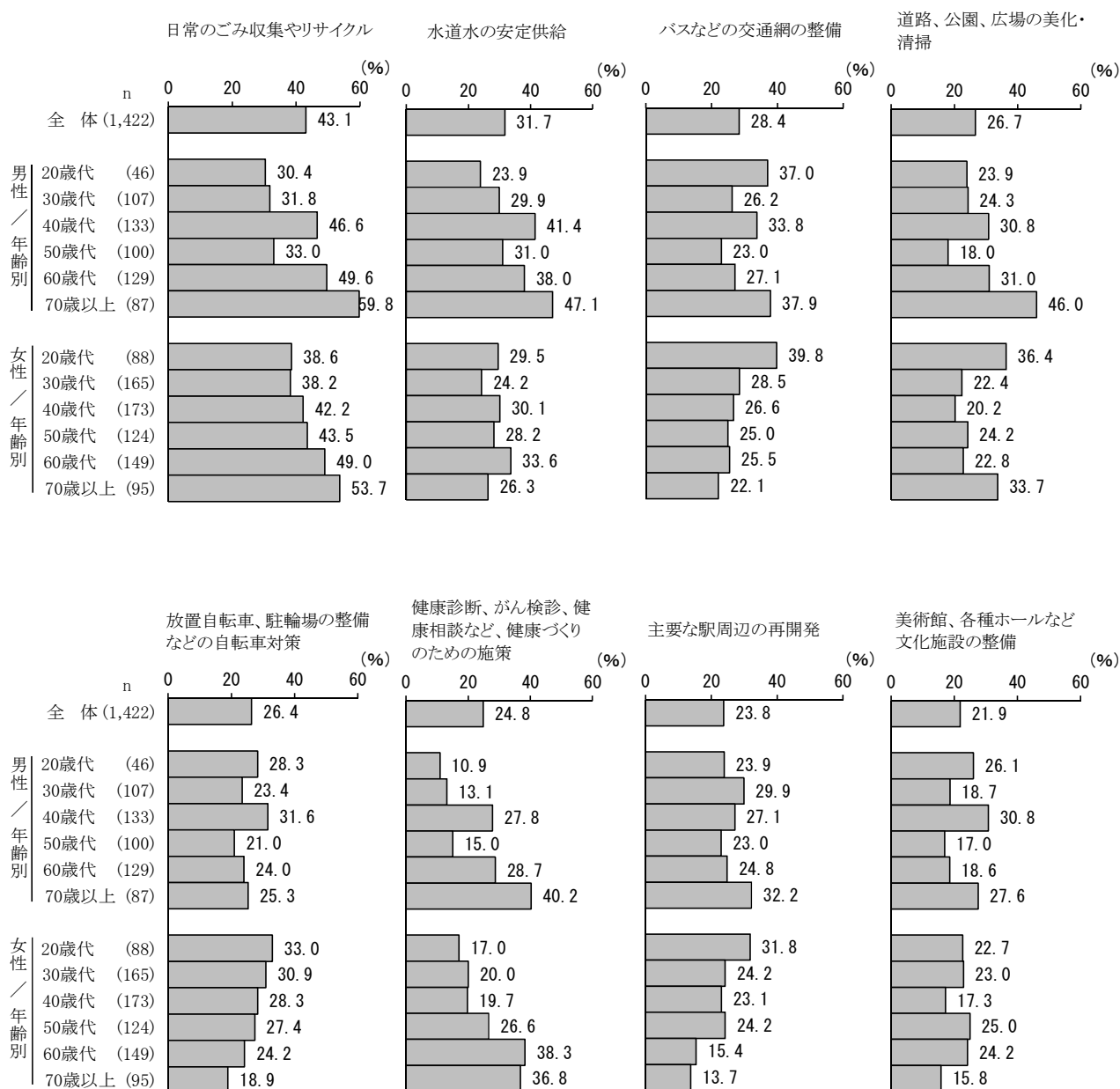
市政の仕事でよくやっていると思うことは、「日常のごみ収集やリサイクル」(43.1%)が最も多くなっている。次いで、「水道水の安定供給」(31.7%)、「バスなどの交通網の整備」(28.4%)、「道路、公園、広場の美化・清掃」(26.7%)の順となっている。(図表4-1)

図表4-2 市政の仕事でよくやっていると思うこと(前年比較)

	(%)	
	平成25年度	平成24年度
日常のごみ収集やリサイクル	43.1	50.6
水道水の安定供給	31.7	35.2
バスなどの交通網の整備	28.4	27.4
道路、公園、広場の美化・清掃	26.7	25.4
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	26.4	24.1
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	24.8	26.4
主要な駅周辺の再開発	23.8	25.1
美術館、各種ホールなど文化施設の整備	21.9	22.9
公園の整備や維持管理	21.1	25.3
自然や緑の保全	19.6	21.1
下水道の整備	19.5	21.5
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	17.6	18.3
市や区の仕事などについての情報提供	17.0	18.5
映画祭、国際会議など文化的な催しや活動	16.0	16.9
消防力の強化や防災体制の整備	15.7	16.6
河川の整備	15.3	16.9
交通安全対策	14.7	15.2
道路・歩道の整備	14.2	16.3
スポーツ・レクリエーションの施設整備	13.4	14.6
防犯対策	12.9	12.3
海外姉妹都市との国際交流事業	12.7	13.5
市民が学習する機会や施設の整備	11.5	12.2
観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)	11.3	11.9
高齢者のための施策	11.1	10.1
市営住宅の建設・整備	11.1	12.1
子どものための施策	10.7	11.2
市政への市民参加の促進のための施策	9.6	12.3
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	9.5	9.7
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	9.0	9.1
障害者のための施策	8.5	9.1
行財政改革	8.4	7.6
市民が親しむことのできる港湾の整備	8.4	10.6
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	6.8	6.4
女性の地位向上のための施策	6.2	6.3
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	4.9	5.5
わからない	7.7	6.9
特にない	2.6	3.0
無回答	13.6	11.8

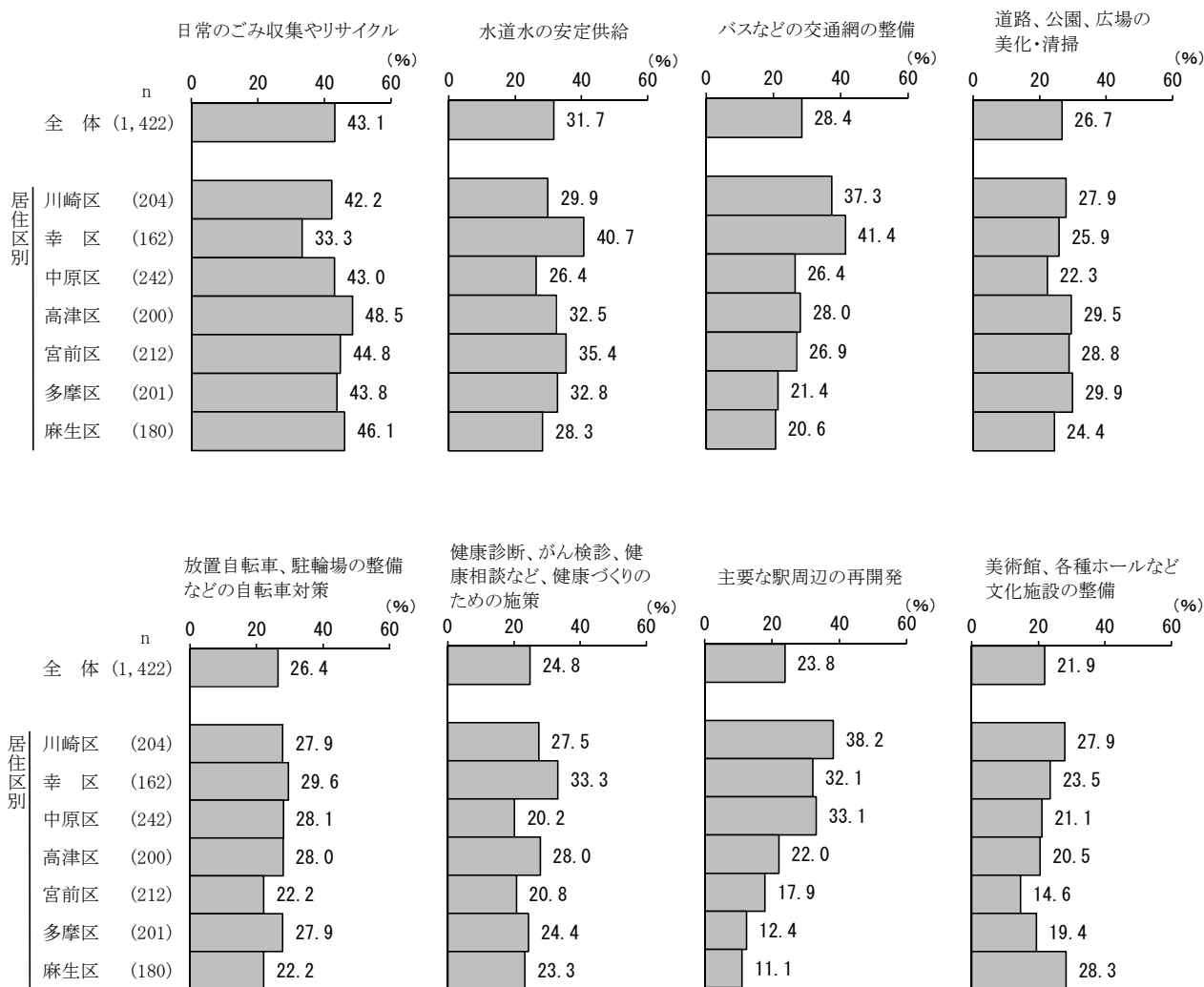
平成24年度と比較すると、「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」(26.4%)が2.3ポイント、「道路、公園、広場の美化・清掃」(26.7%)が1.3ポイント上回っている。一方、「日常のごみ収集やリサイクル」(43.1%)が7.5ポイント、「公園の整備や維持管理」(21.1%)が4.2ポイント下回っている。(図表4-2)

図表4-3 市政の仕事でよくやっていると思うこと(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、男女ともに70歳以上が最も多く、次いで60歳代となっている。「水道水の安定供給」は、男性では70歳以上(47.1%)、女性では60歳代(33.6%)が最も多くなっている。「バスなどの交通網の整備」および「道路、公園、広場の美化・清掃」は、男性では70歳以上、女性では20歳代が最も多くなっている。(図表4-3)

図表4-4 市政の仕事でよくやっていると思うこと（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、高津区（48.5%）が最も多くなっている。「水道水の安定供給」および「バスなどの交通網の整備」は、幸区が4割台で最も多くなっている。「道路、公園、広場の美化・清掃」は中原区（22.3%）が他の居住区に比べ少なくなっている。（図表4-4）

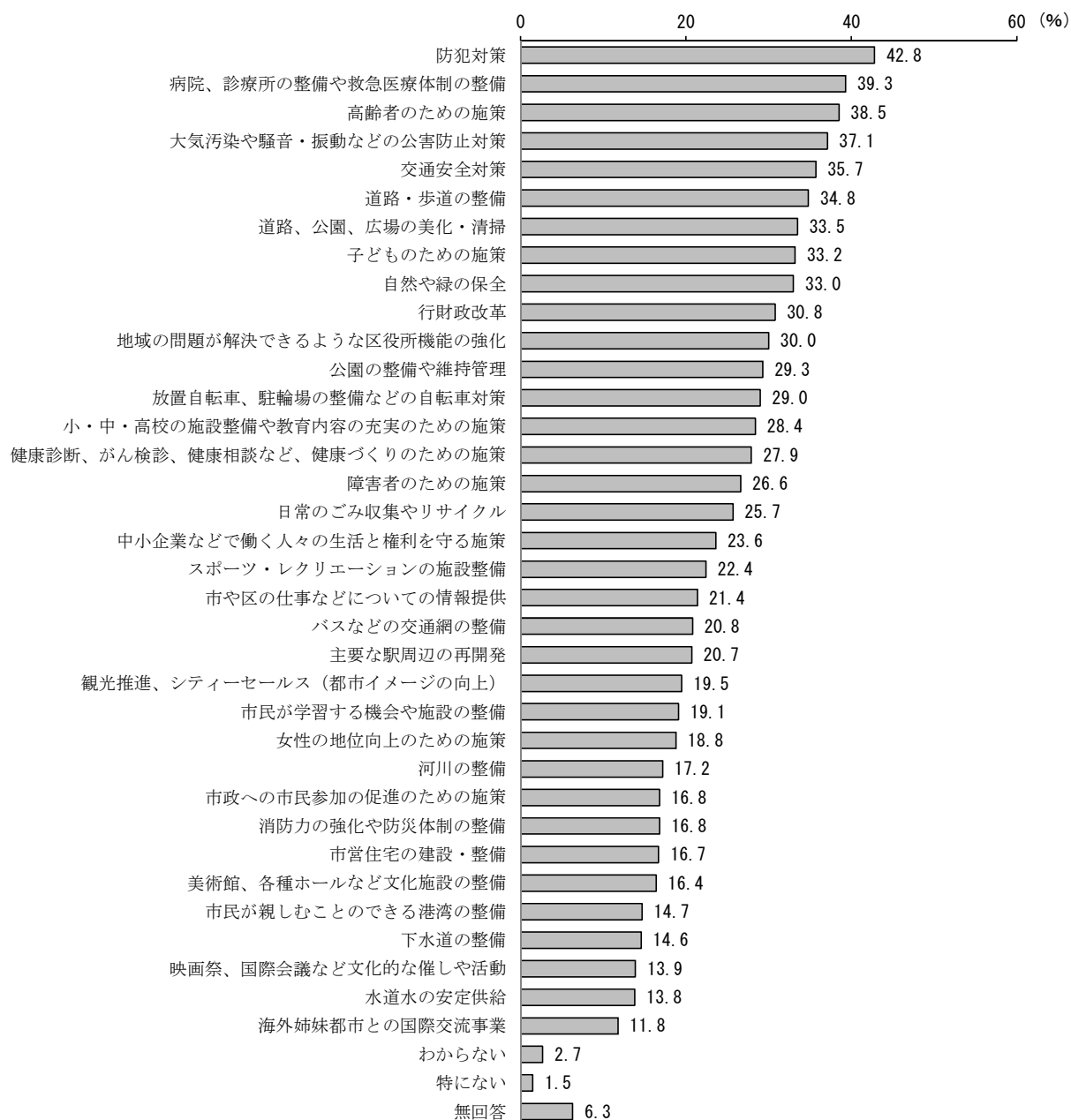
4-2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

◎「防犯対策」が42.8%

問8 また、今後特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(あてはまるもの全てに○)

図表4-5 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

(複数回答) n = (1,422)



市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことは、「防犯対策」(42.8%)が最も多くなっている。次いで、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(39.3%)、「高齢者のための施策」(38.5%)、「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」(37.1%)、「交通安全対策」(35.7%)、「道路・歩道の整備」(34.8%)の順となっている。(図表4-5)

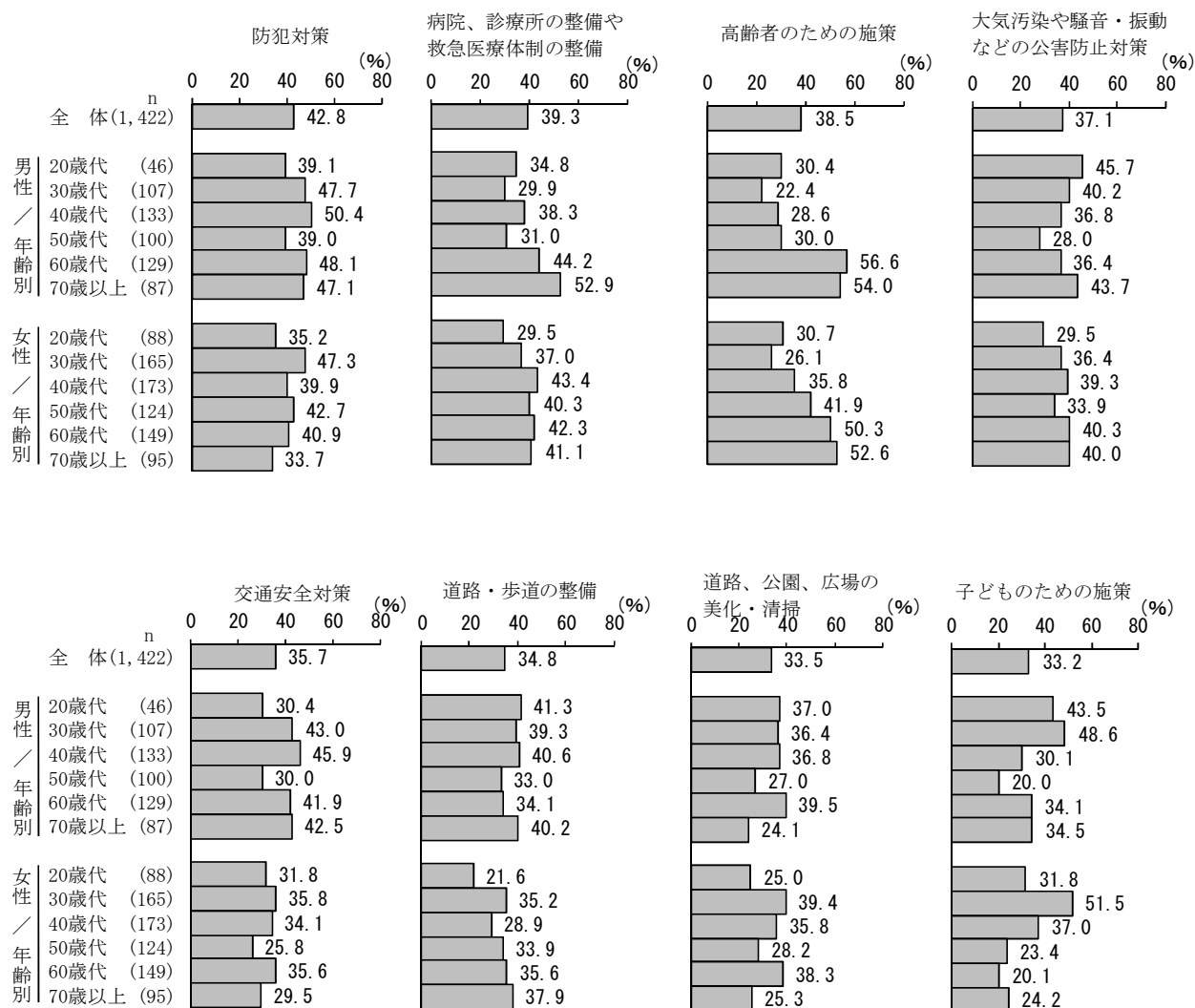
図表4-6 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（前年比較）

(%)

	平成25年度	平成24年度
防犯対策	42.8	45.3
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	39.3	38.0
高齢者のための施策	38.5	38.6
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	37.1	31.9
交通安全対策	35.7	34.8
道路・歩道の整備	34.8	32.4
道路、公園、広場の美化・清掃	33.5	31.2
子どものための施策	33.2	35.7
自然や緑の保全	33.0	31.3
行財政改革	30.8	30.6
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	30.0	29.6
公園の整備や維持管理	29.3	26.7
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	29.0	30.4
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	28.4	27.6
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	27.9	28.9
障害者のための施策	26.6	29.2
日常のごみ収集やリサイクル	25.7	20.3
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	23.6	24.9
スポーツ・レクリエーションの施設整備	22.4	19.1
市や区の仕事などについての情報提供	21.4	21.9
バスなどの交通網の整備	20.8	19.8
主要な駅周辺の再開発	20.7	19.9
観光推進、シティーセールス（都市イメージの向上）	19.5	17.1
市民が学習する機会や施設の整備	19.1	19.5
女性の地位向上のための施策	18.8	20.0
河川の整備	17.2	15.6
市政への市民参加の促進のための施策	16.8	15.8
消防力の強化や防災体制の整備	16.8	16.4
市営住宅の建設・整備	16.7	15.2
美術館、各種ホールなど文化施設の整備	16.4	15.1
市民が親しむことのできる港湾の整備	14.7	13.3
下水道の整備	14.6	11.9
映画祭、国際会議など文化的な催しや活動	13.9	14.0
水道水の安定供給	13.8	13.3
海外姉妹都市との国際交流事業	11.8	13.9
わからない	2.7	2.7
特にない	1.5	1.8
無回答	6.3	7.4

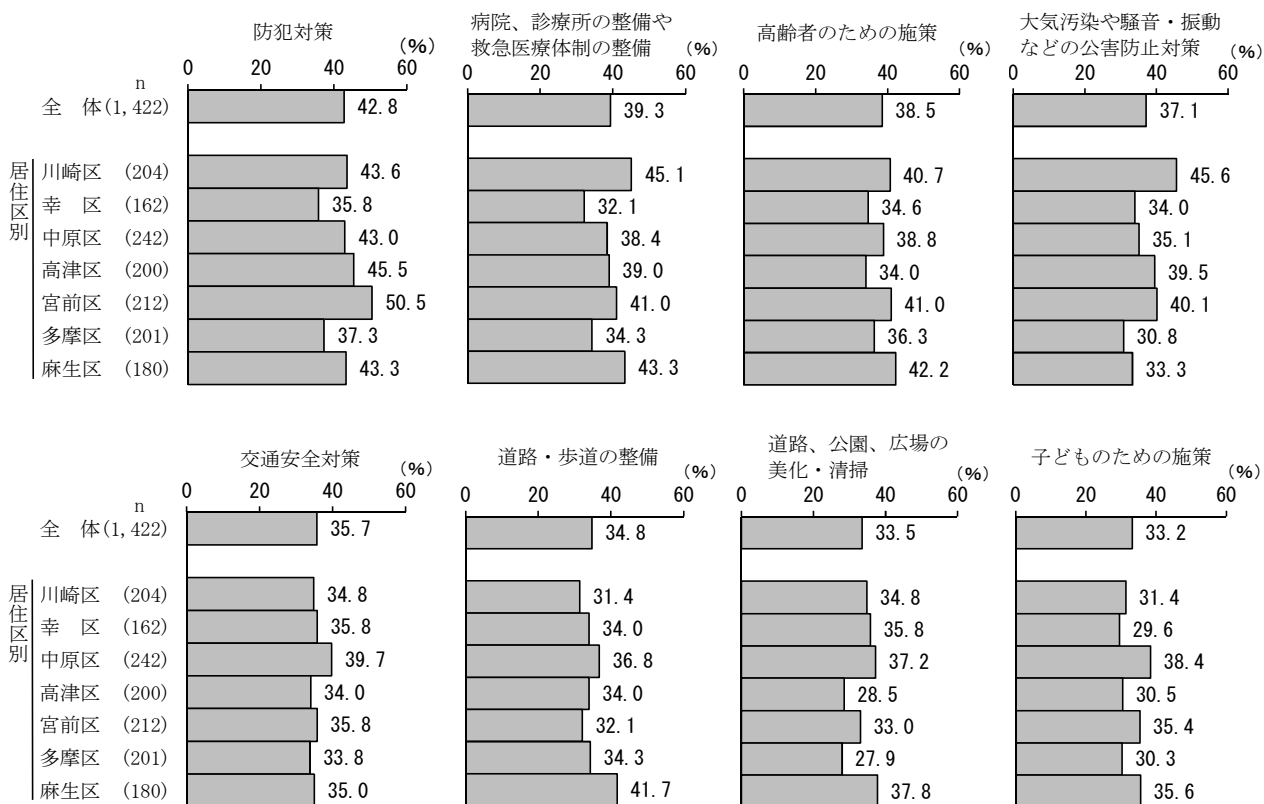
平成24年度と比較すると、「日常のごみ収集やリサイクル」(25.7%)が5.4ポイント、「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」(37.1%)が5.2ポイント上回っている。一方、「障害者のための施策」(26.6%)が2.6ポイント、「防犯対策」(42.8%)および「子どものための施策」(33.2%)がともに2.5ポイント下回っている。(図表4-6)

図表4-7 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「防犯対策」は、男性では40歳代（50.4%）、女性では30歳代（47.3%）が最も多くなっている。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、男性では70歳以上で5割台、「高齢者のための施策」は、男女ともに60歳代、70歳以上で5割台と多くなっている。「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」は、男性では20歳代（45.7%）、女性では60歳代（40.3%）が最も多くなっている。（図表4-7）

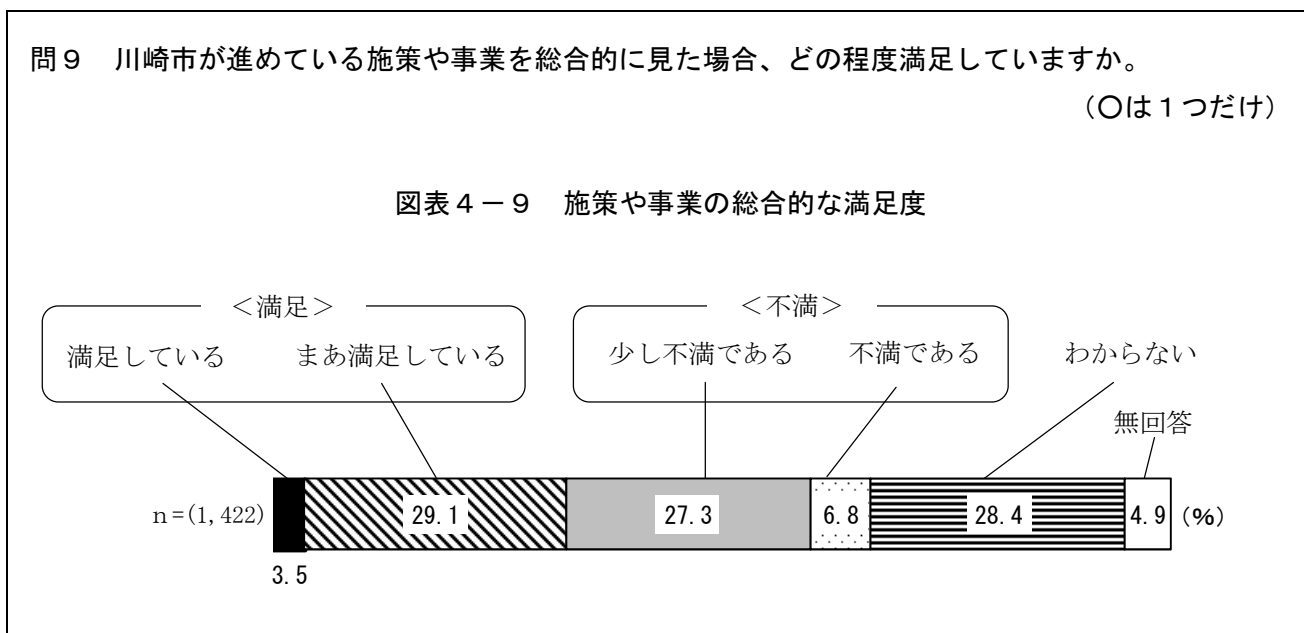
図表4-8 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「防犯対策」は、宮前区（50.5%）が5割を超え最も多くなっている。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、川崎区（45.1%）が最も多く、次いで、麻生区（43.3%）、宮前区（41.0%）の順となっている。「高齢者のための施策」は、麻生区（42.2%）が最も多く、「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」は、川崎区（45.6%）が最も多くなっている。（図表4-8）

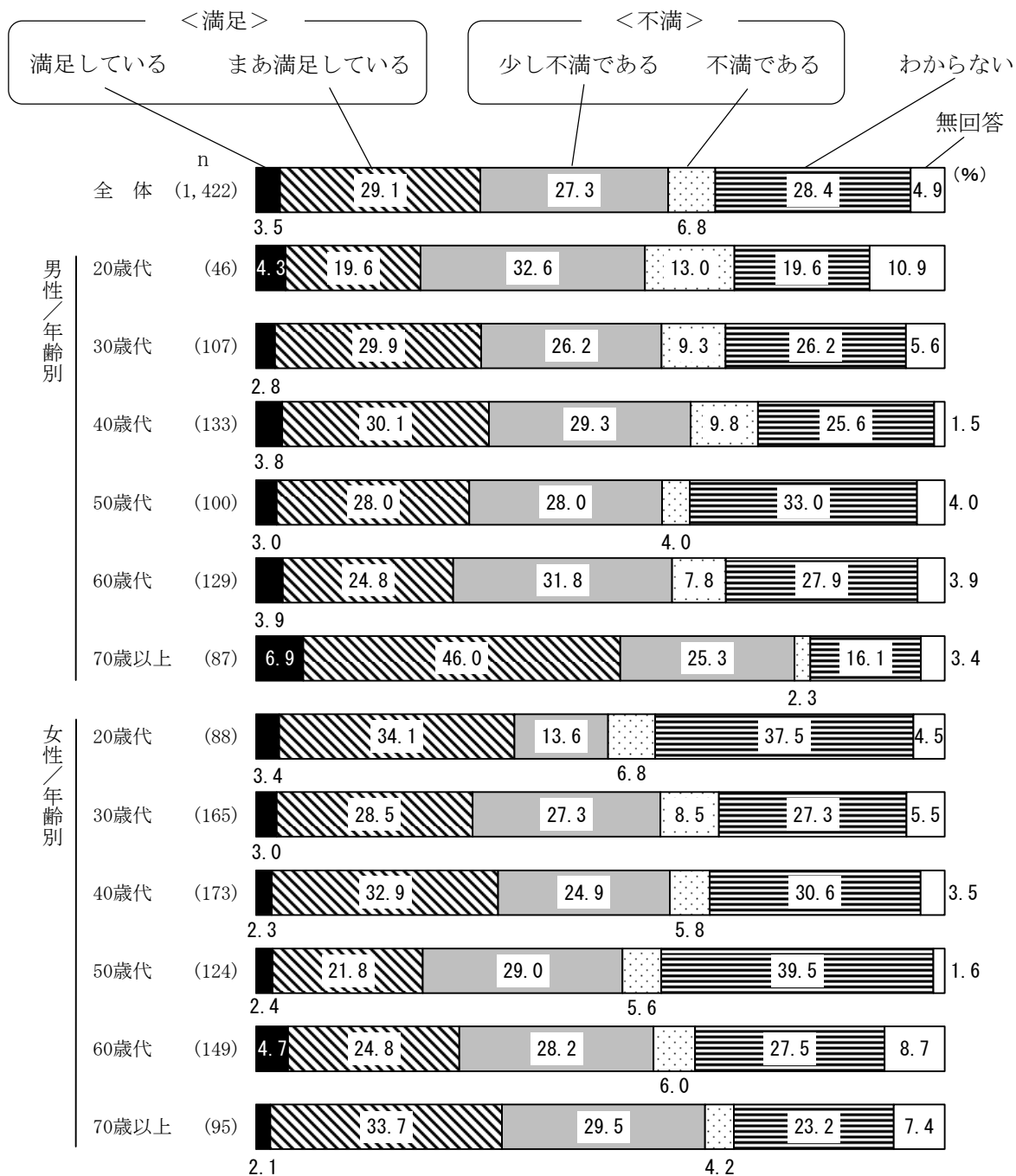
4-3 施策や事業の総合的な満足度

◎<満足>が32.6%



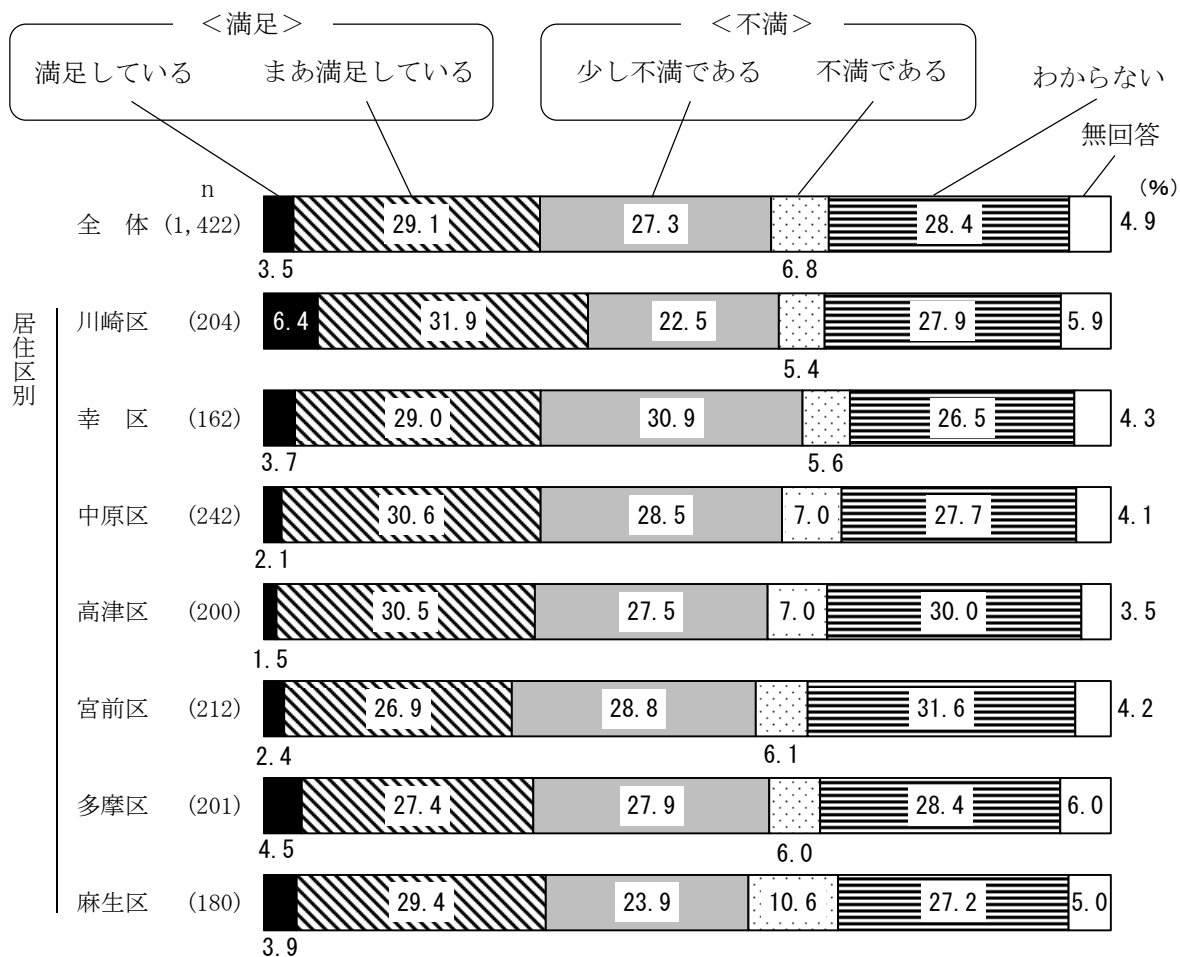
施策や事業の総合的な満足度は、「満足している」(3.5%)と「まあ満足している」(29.1%)を合わせた<満足>は、32.6%となっている。一方、「少し不満である」(27.3%)と「不満である」(6.8%)を合わせた<不満>は、34.1%となっている。(図表4-9)

図表4-10 施策や事業の総合的な満足度(性/年齢別)



性/年齢別では、＜満足＞は、男性では70歳以上(52.9%)、女性では20歳代(37.5%)で最も多くなっている。一方、＜不満＞は、男性では20歳代(45.6%)、女性では30歳代(35.8%)が多くなっている。(図表4-10)

図表4-11 施策や事業の総合的な満足度(居住区別)



居住区別では、<満足>は、川崎区(38.3%)が最も多くなっている。次いで、麻生区(33.3%)、幸区および中原区(32.7%)の順となっている。一方、<不満>は、幸区(36.5%)、中原区(35.5%)の順となっている。(図表4-11)

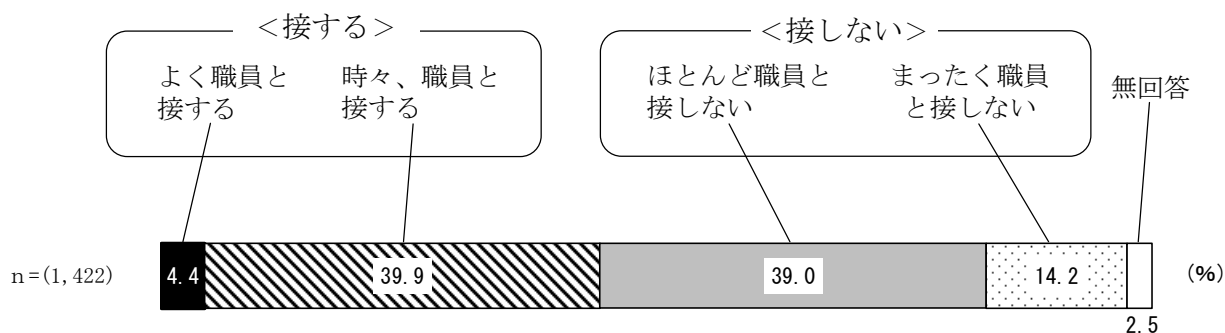
5 市職員に対する市民意識について

5-1 市職員と接する頻度

◎<接する>が44.3%

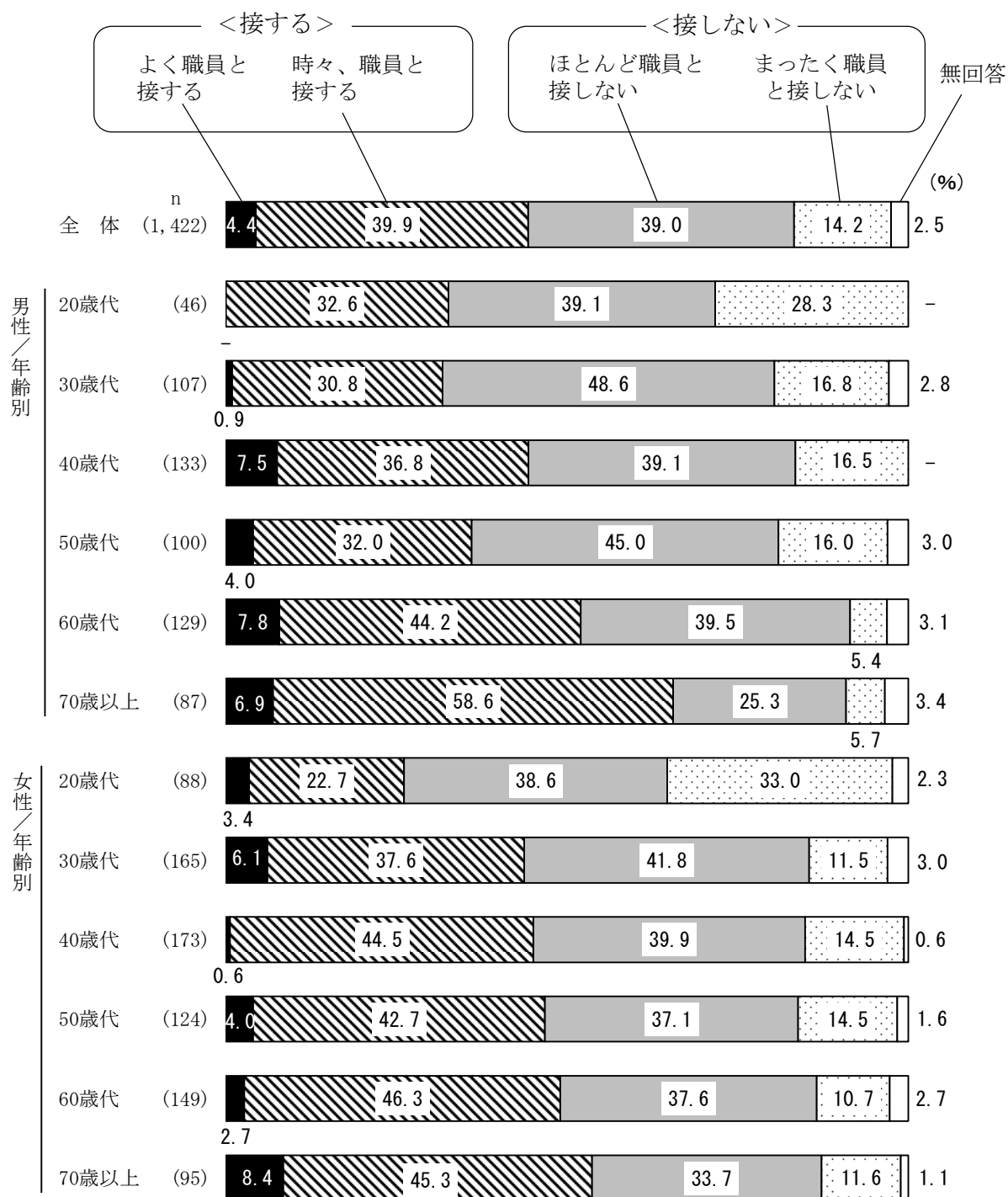
問10 あなたは、日ごろ、市役所や区役所、市の施設等の利用などを通じて、職員と接することがありますか。(○は1つだけ)

図表5-1 市職員と接する頻度



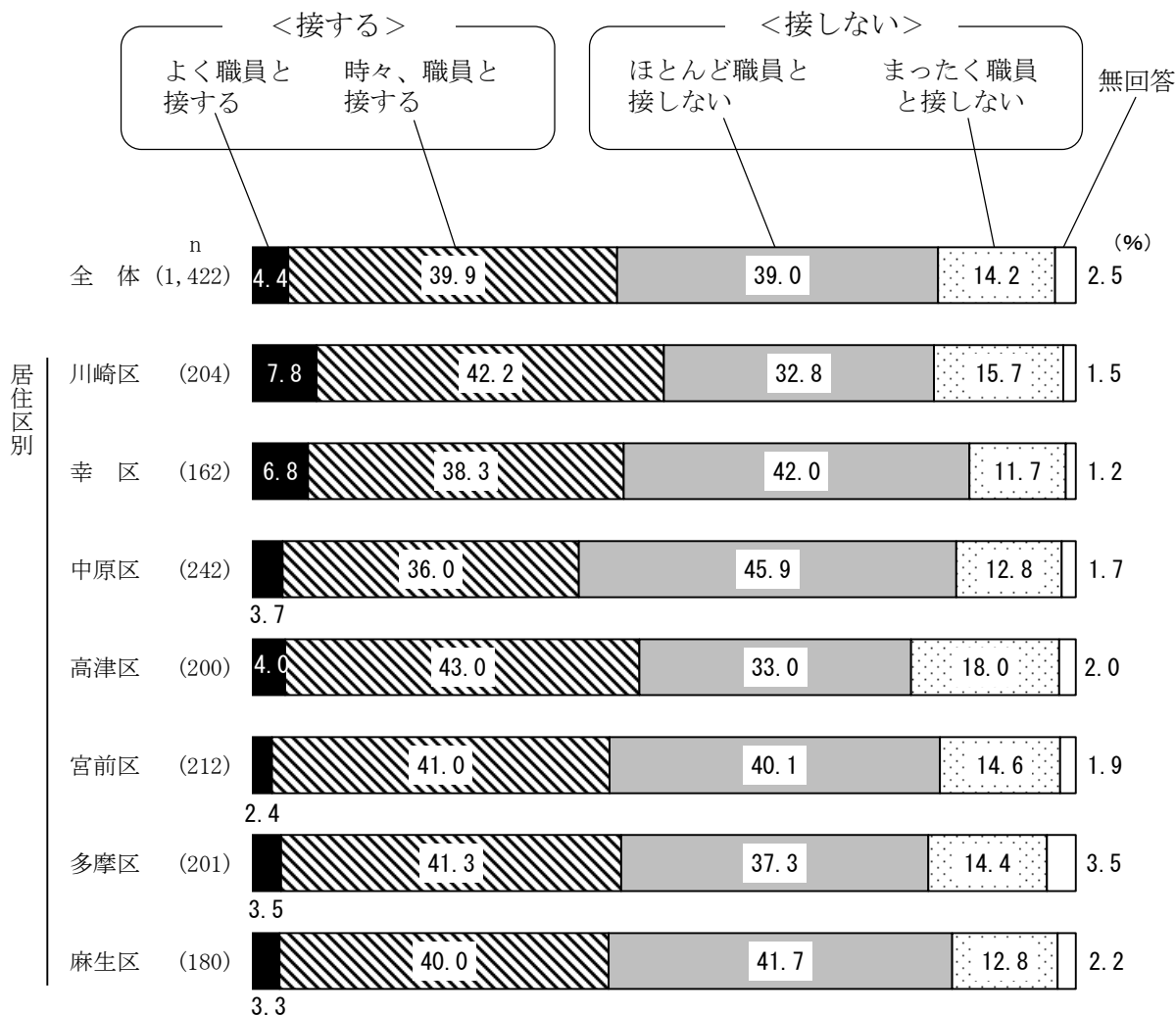
市職員との接する頻度は、「よく職員と接する」(4.4%)と「時々、職員と接する」(39.9%)を合わせた<接する>が44.3%となっている。一方、「ほとんど職員と接しない」(39.0%)と「まったく職員と接しない」(14.2%)を合わせた<接しない>は、53.2%となっている。(図表5-1)

図表5-2 市職員と接する頻度(性/年齢別)



性/年齢別では、<接する>は、男性では、70歳以上が65.5%と最も多い。次いで、60歳代の52.0%、40歳代の44.3%と続いている。女性では、70歳以上が53.7%と最も多く、年齢とともに<接する>割合が高くなる傾向にある。(図表5-2)

図表5-3 市職員と接する頻度(居住区別)



居住区別では、<接する>は、川崎区が50.0%と最も多くなっている。次いで、高津区の47.0%、幸区の45.1%と続いている。<接しない>は、中原区が58.7%と最も多くなっている。次いで、宮前区の54.7%、麻生区の54.5%と続いている。(図表5-3)

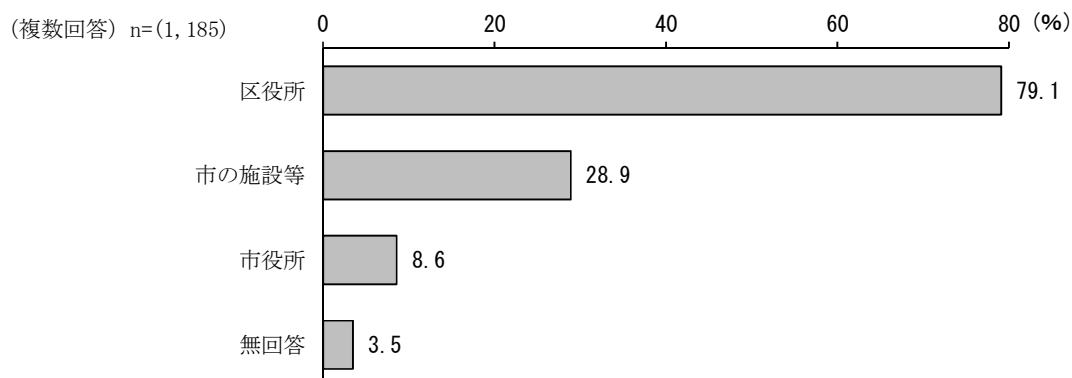
5-2 市職員と接する場所

◎「区役所」が79.1%

問11 (問10で「1 よく職員と接する」または「2 時々、職員と接する」「3 ほとんど職員と接しない」と回答した方にうかがいます。)

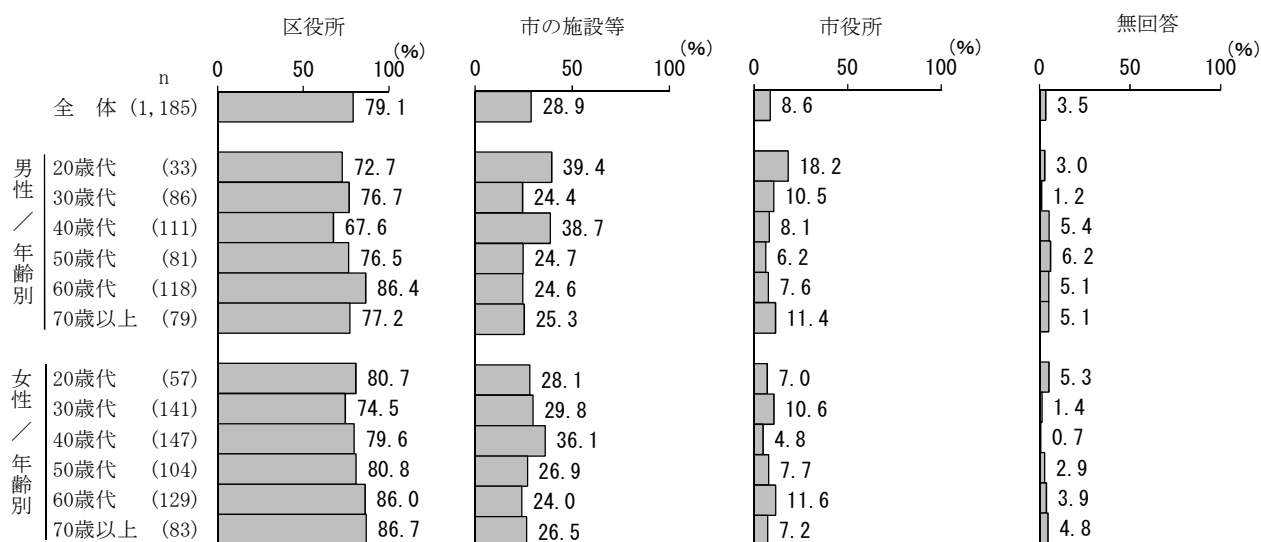
あなたは、具体的にどこを利用して職員と接しますか。(あてはまるもの全てに○)

図表5-4 市職員と接する場所



市職員との接触場所は、「区役所」が79.1%と最も多い。次いで、「市の施設等」が28.9%、「市役所」が8.6%となっている。(図表5-4)

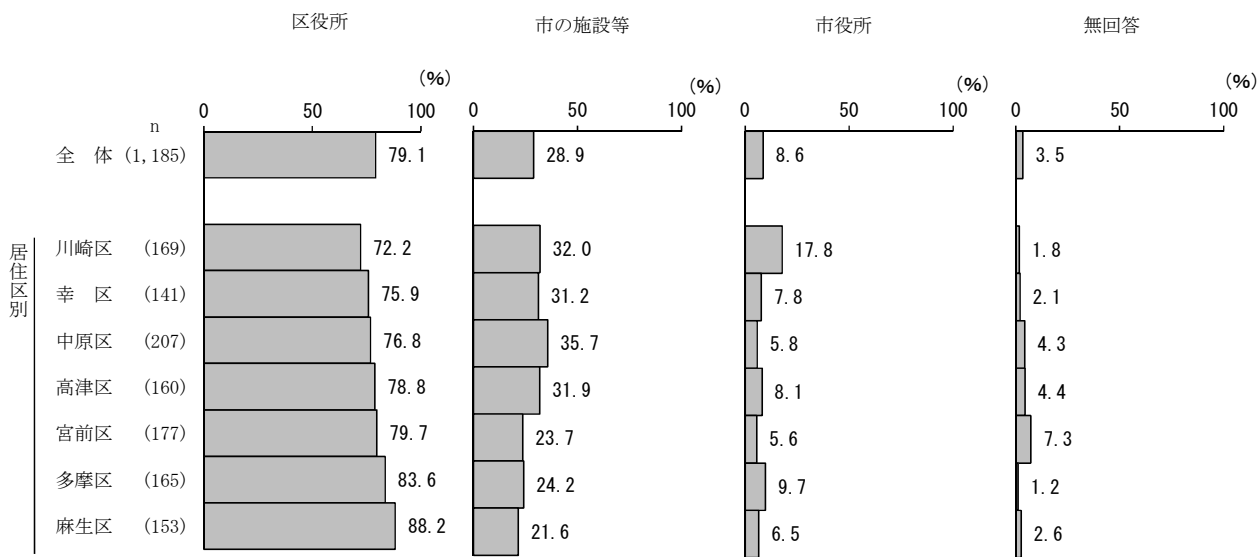
図表5-5 市職員と接する場所(性/年齢別)



性/年齢別では、「区役所」は、男性では40歳代を除く全年代を通して7割前半から8割前半ばとなっている。女性では、全年代を通して7割半ばから8割半ばとなっている。「市の施設等」は、男性では20歳代と40歳代、女性では40歳代が他の年齢層に比べ多くなっている。(図表5-5)

(第2回アンケート)

図表5-6 市職員と接する場所(居住区別)



居住区別では、「区役所」は、全ての居住区で7割を超えており、麻生区が88.2%と最も多い。次いで、多摩区(83.6%)、宮前区(79.7%)と続いている。「市の施設等」は、中原区が35.7%と最も多く、次いで、川崎区(32.0%)、高津区(31.9%)の順となっている。(図表5-6)

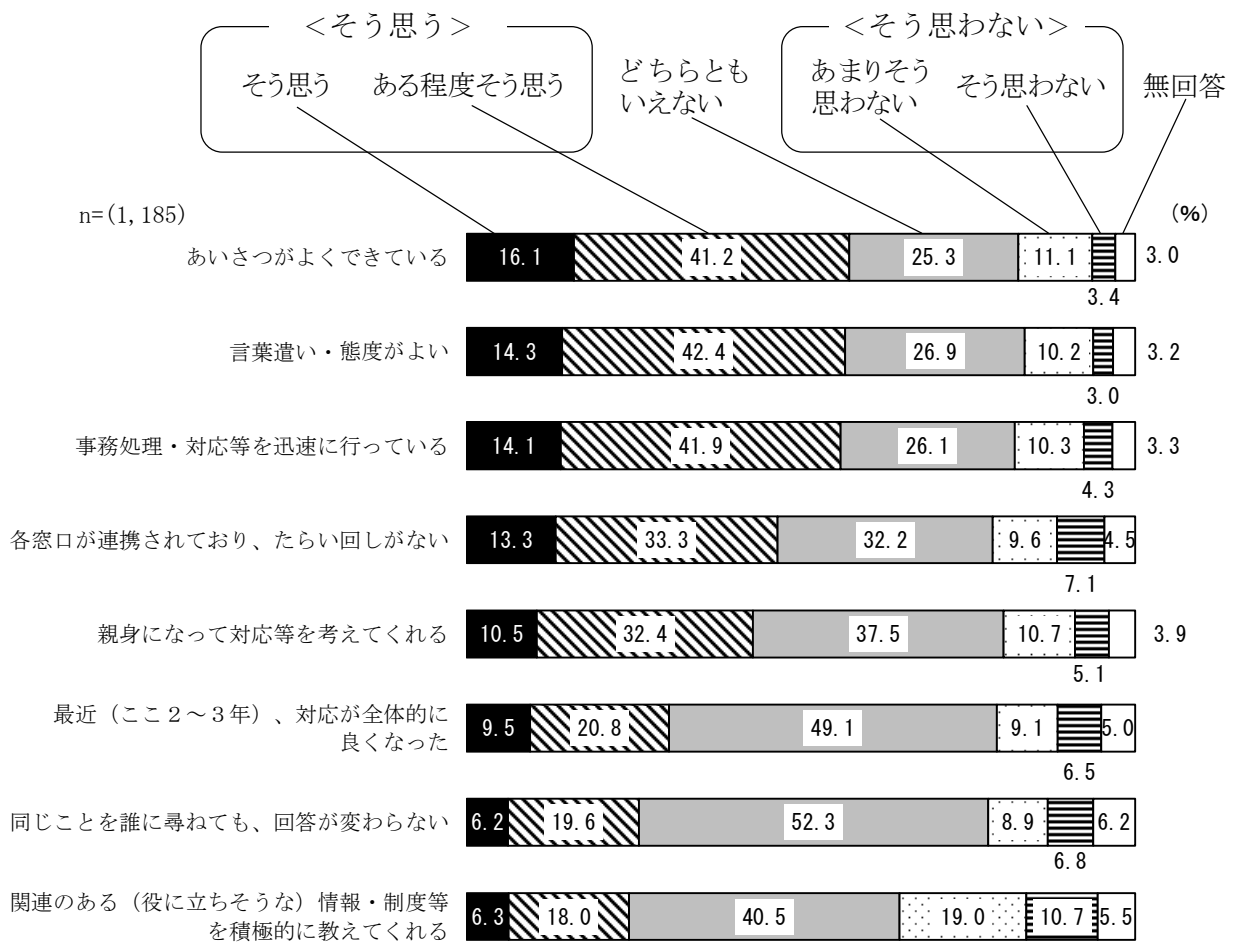
5-3 市職員による市民対応等についての感想

◎<そう思う>は“あいさつがよくできている”が57.3%、“言葉遣い・態度がよい”は56.7%

問12 (問10で「1 よく職員と接する」または「2 時々、職員と接する」「3 ほとんど職員と接しない」と回答した方にうかがいます。)

あなたは、職員による市民対応等について、どのように感じていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

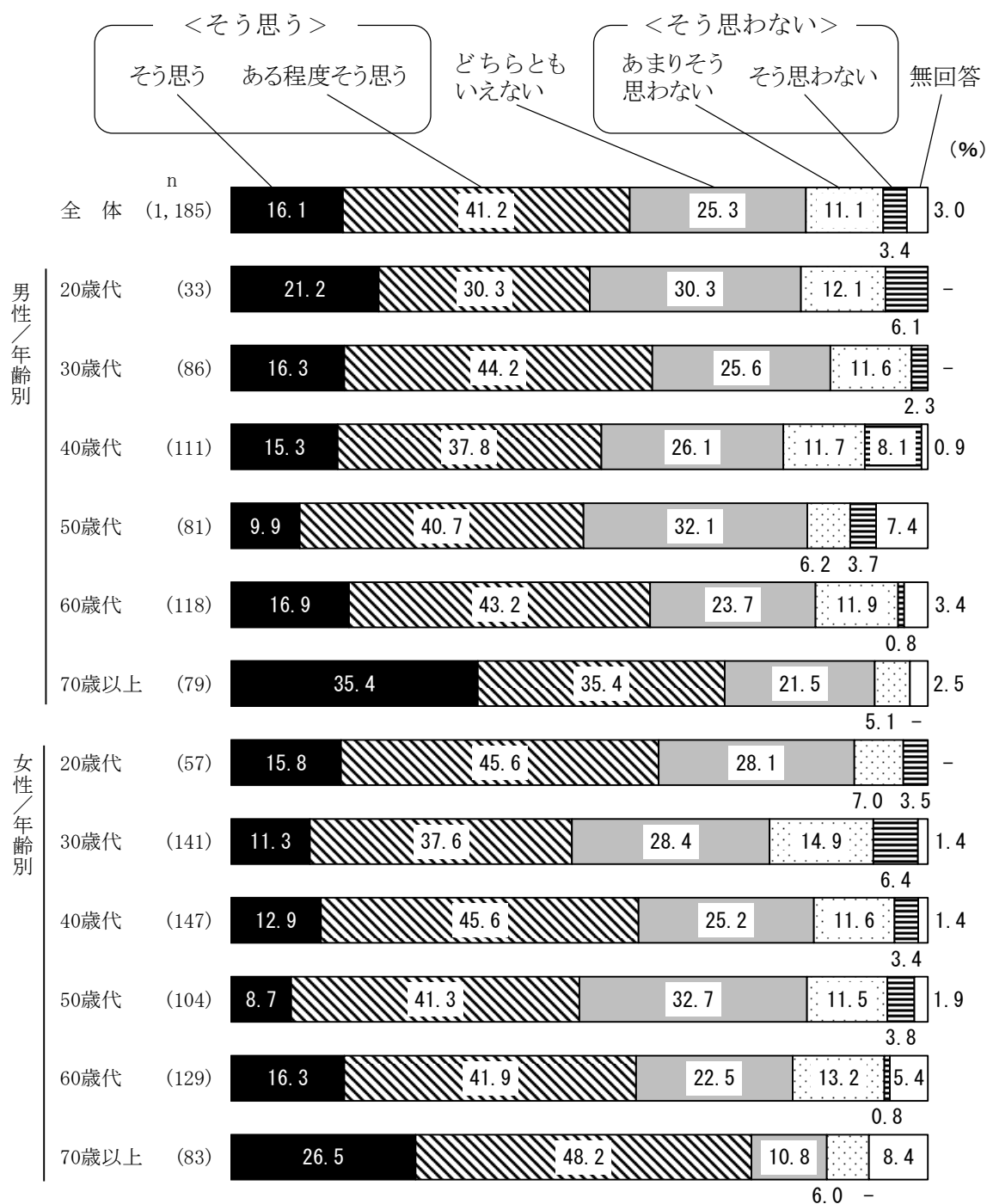
図表5-7 市職員による市民対応等についての感想



市職員による市民対応等についての感想は、「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた<そう思う>が多いのは、「あいさつがよくできている」が57.3%と最も多くなっている。次いで、「言葉遣い・態度がよい」が56.7%、「事務処理・対応等を迅速に行っている」が56.0%、「各窓口が連携されており、たらい回しがない」が46.6%となっている。(図表5-7)

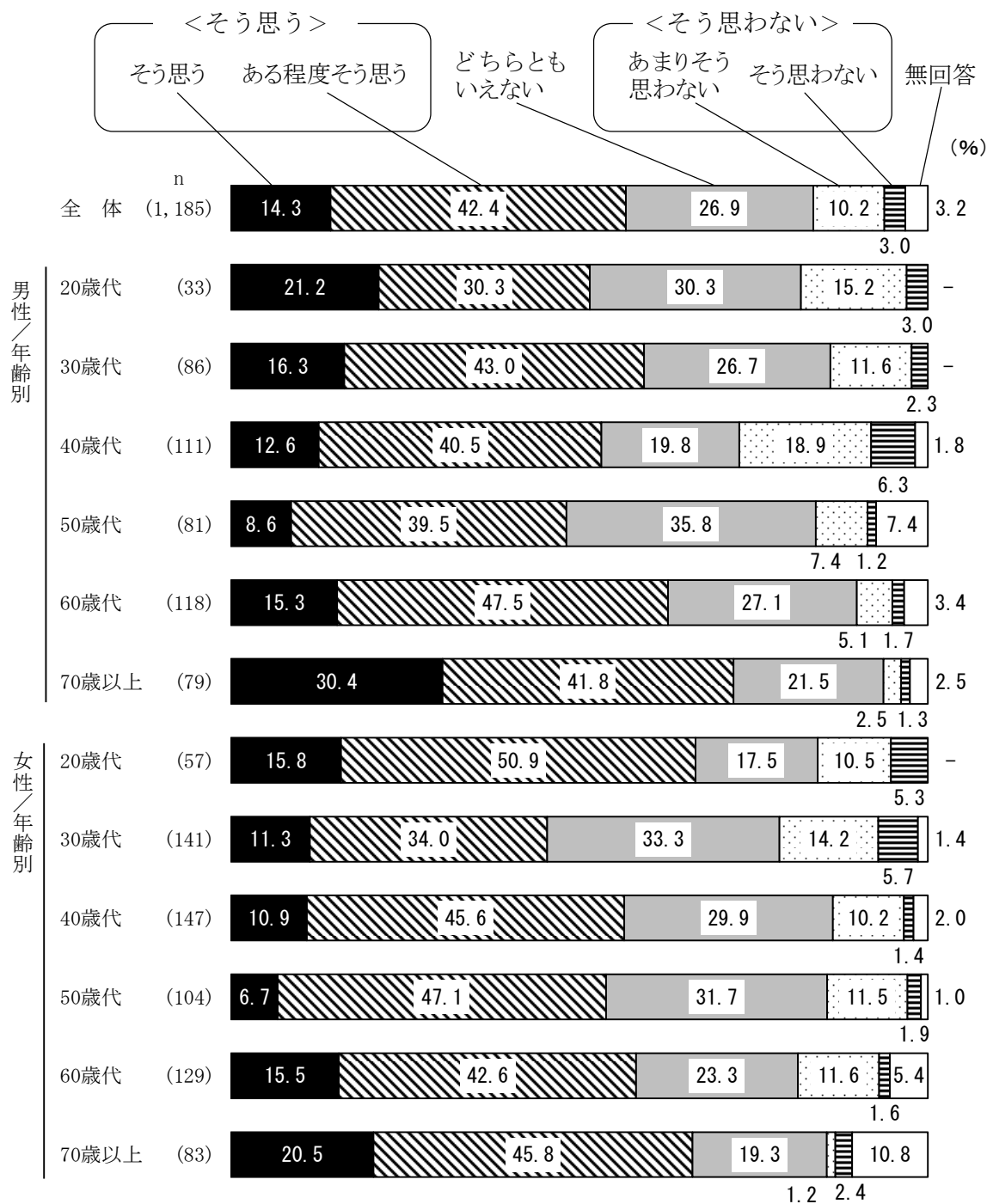
(第2回アンケート)

図表5-8 市職員による市民対応等についての感想 <あいさつがよくてきている> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では70歳以上が70.8%と最も多くなっている。次いで、30歳代が60.5%、60歳代が60.1%と続いている。女性では70歳以上が74.7%と最も多くなっている。次いで、20歳代が61.4%、40歳代が58.5%、60歳代が58.2%と続いている。(図表5-8)

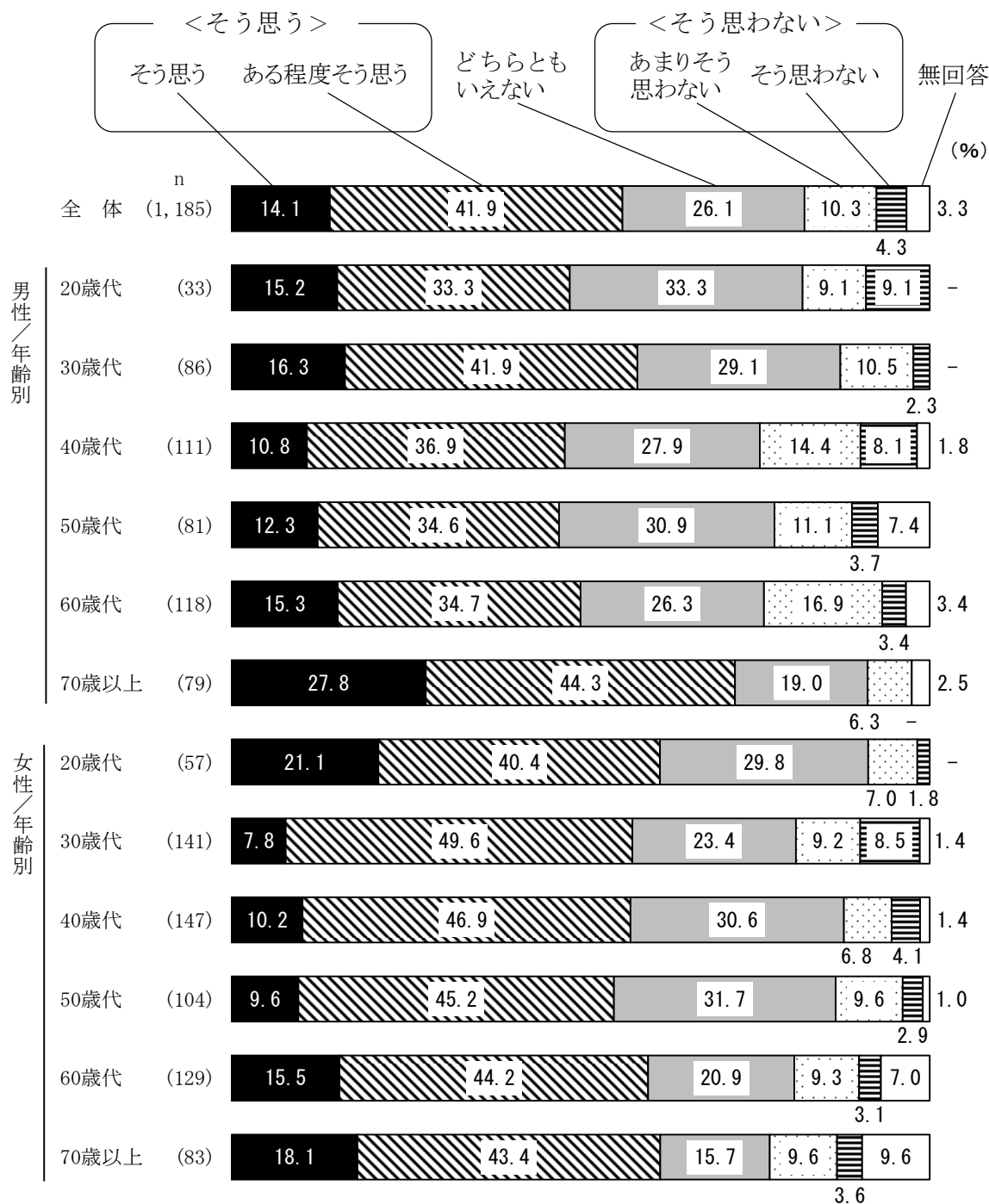
図表5-9 市職員による市民対応等についての感想 <言葉遣い・態度がよい> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね50歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が72.2%と最も多くなっている。次いで、60歳代が62.8%、30歳代が59.3%と続いている。女性ではおおむね30歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、20歳代が66.7%と最も多くなっている。次いで、70歳以上が66.3%、60歳代が58.1%と続いている。(図表5-9)

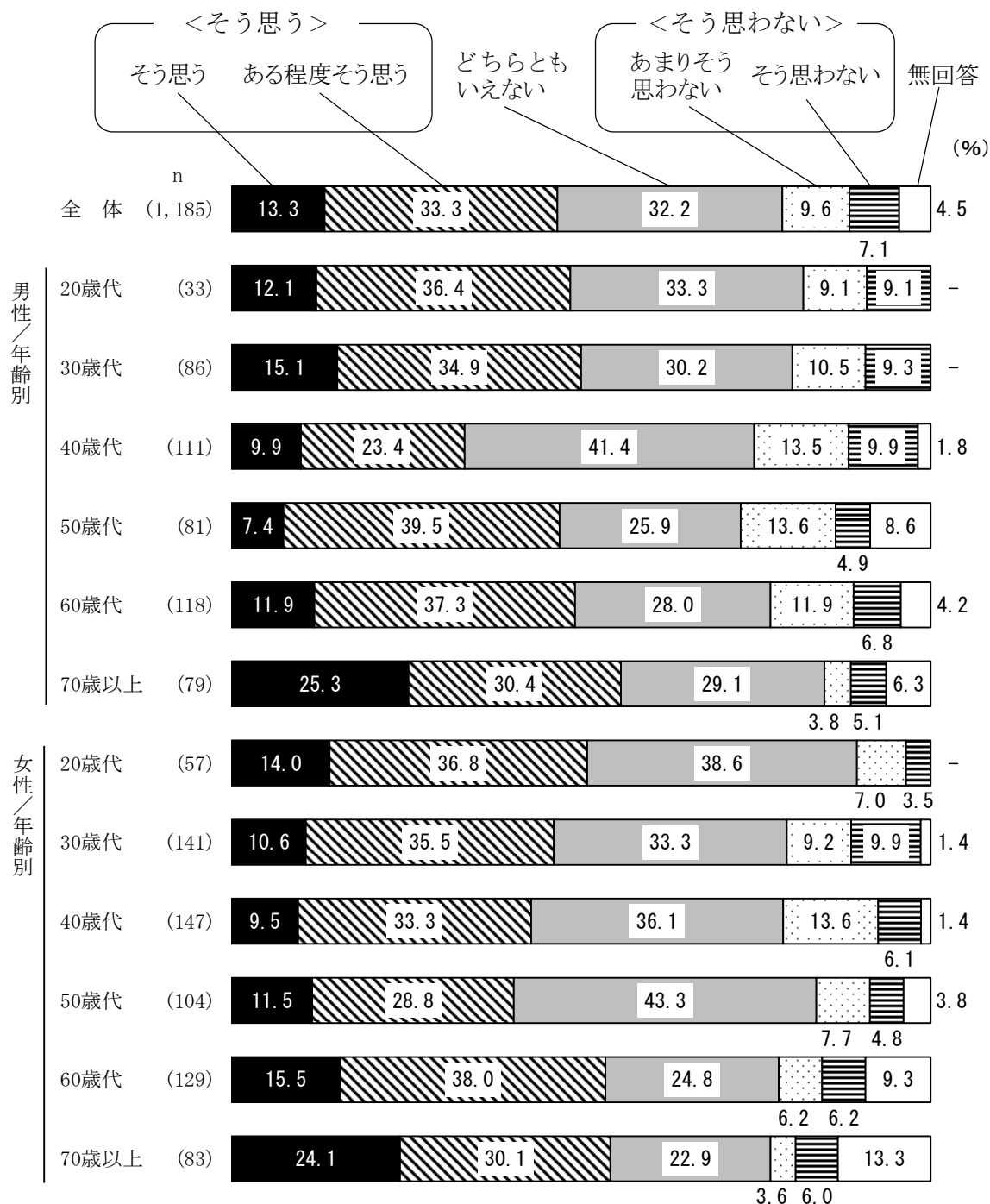
(第2回アンケート)

図表5-10 市職員による市民対応等についての感想 <事務処理・対応等を迅速に行っている> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では70歳以上が72.1%と最も多くなっている。次いで、30歳代が58.2%、60歳代が50.0%と続いている。女性では50歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、20歳代及び70歳以上がともに61.5%と多くなっている。次いで、60歳代が59.7%と多くなっている。(図表5-10)

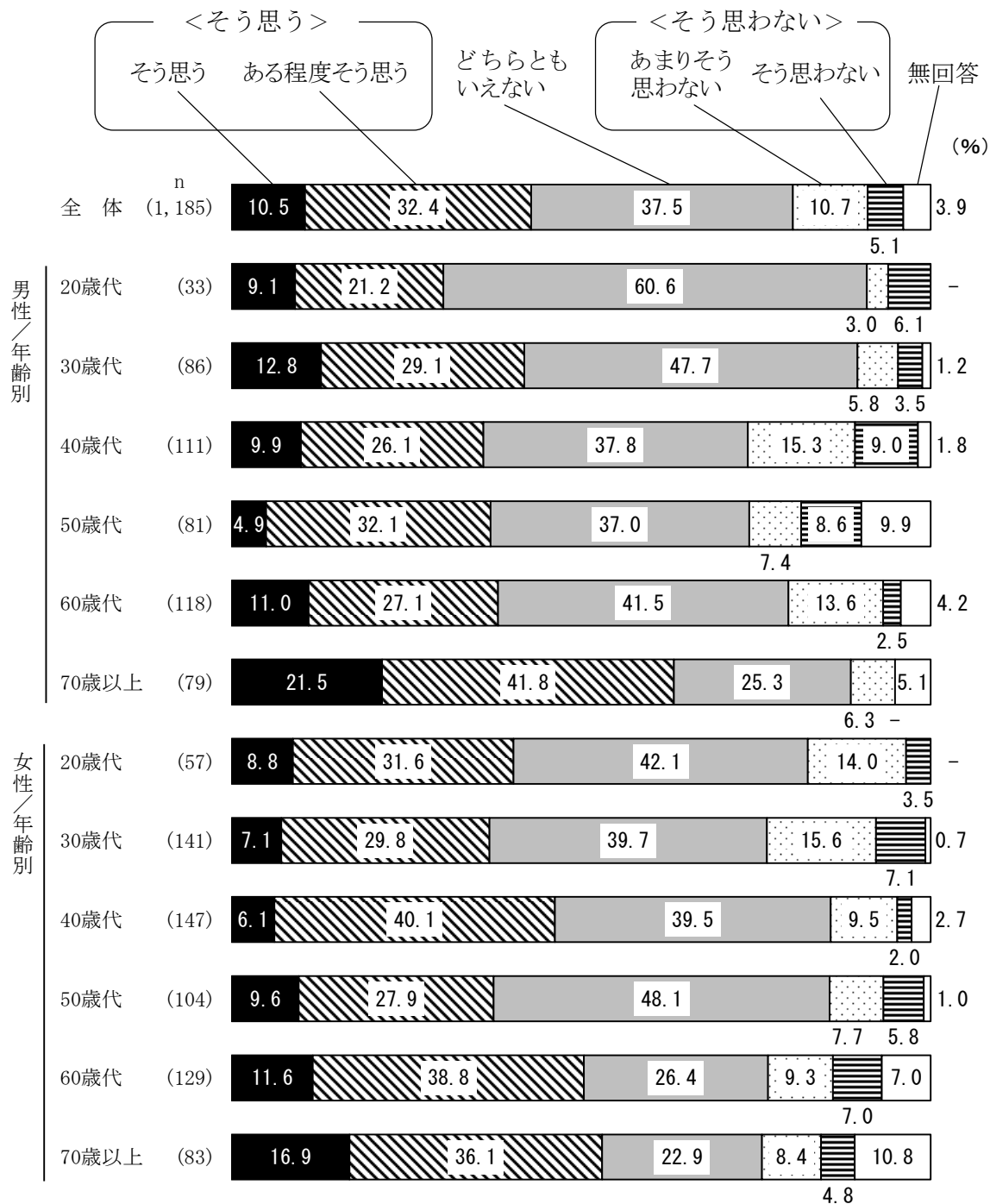
図表5-11 市職員による市民対応等についての感想<各窓口が連携されており、たらい回しがなし>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が55.7%と最も多くなっている。次いで、30歳代が50.0%、60歳代が49.2%と続いている。女性では50歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が54.2%と多くなっている。次いで、60歳代が53.5%、20歳代が50.8%と続いている。(図表5-11)

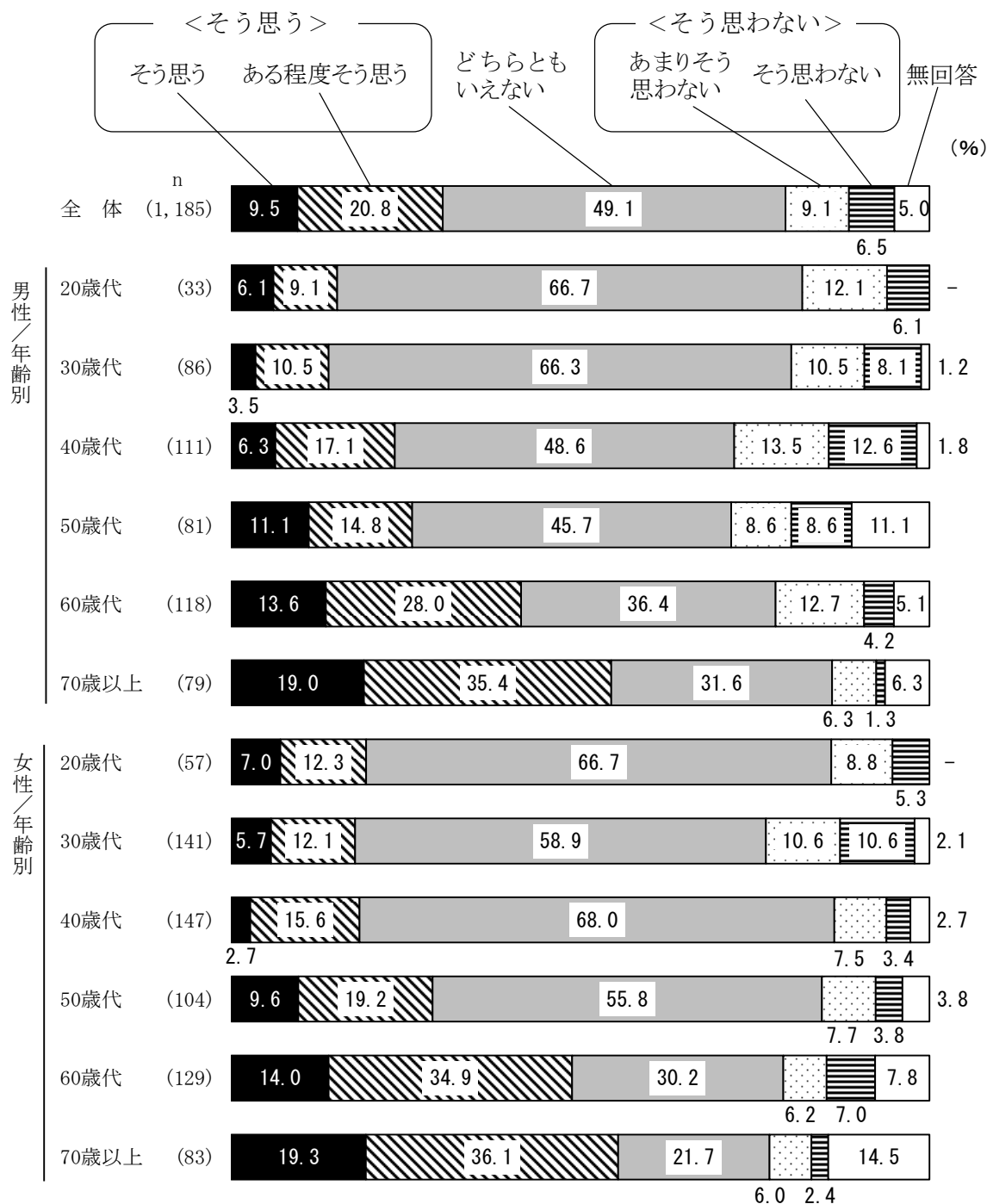
(第2回アンケート)

図表5-12 市職員による市民対応等についての感想 <親身になって対応等を考えてくれる>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では30歳代を除き年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が63.3%と最も多くなっている。次いで、30歳代が41.9%、60歳代が38.1%と続いている。女性ではおおむね30歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が53.0%と多くなっている。次いで、60歳代が50.4%、40歳代が46.2%と続いている。(図表5-12)

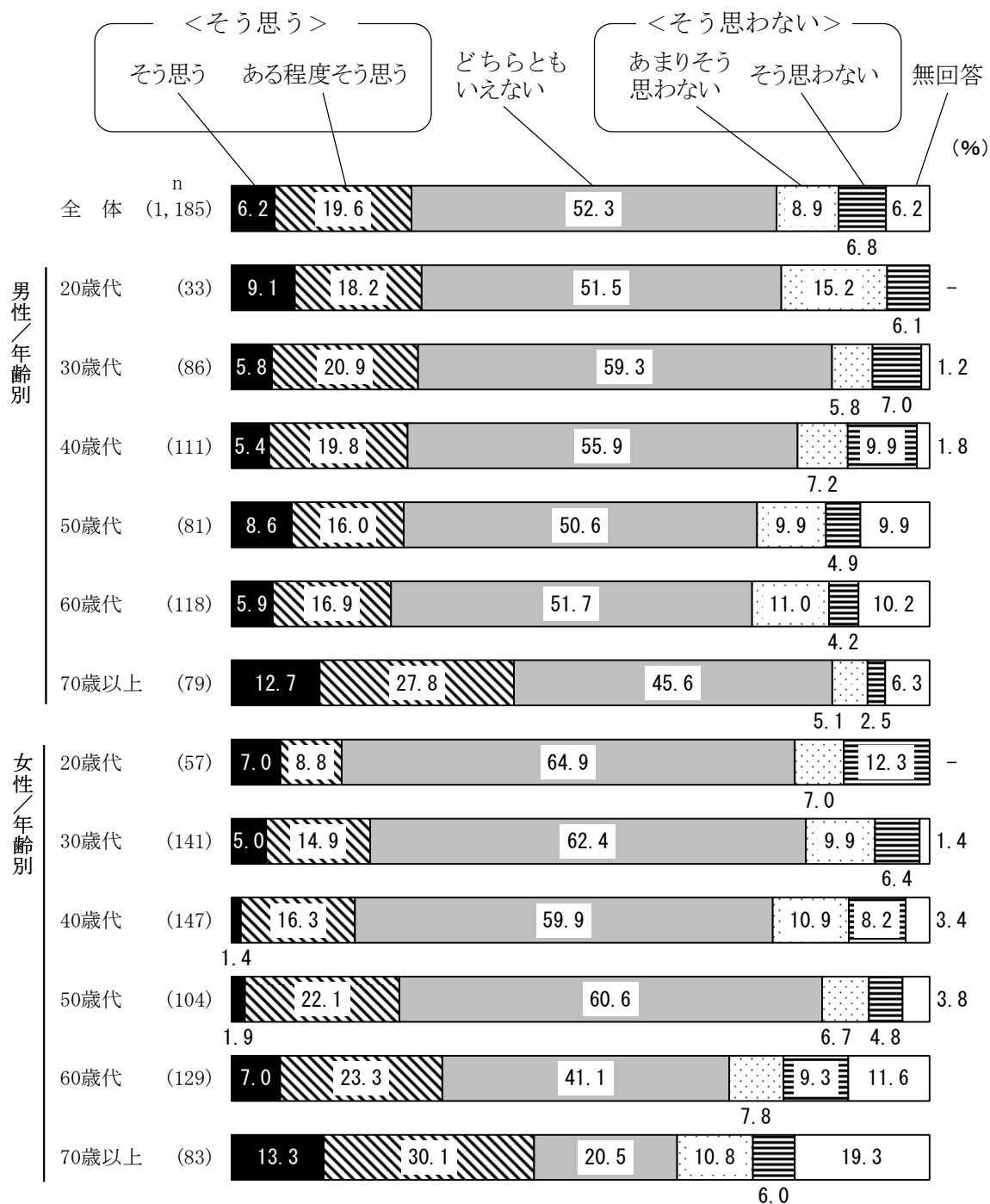
図表5-13 市職員による市民対応等についての感想 <最近(ここ2~3年)、対応が全体的に良くなった>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では30歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が54.4%と最も多くなっている。次いで、60歳代が41.6%、50歳代が25.9%と続いている。一方、20歳代と30歳代は1割台半ばと少なくなっている。女性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が55.4%と多くなっている。次いで、60歳代が48.9%、50歳代が28.8%と続いている。一方、20歳代から40歳代は1割台後半と少なくなっている。(図表5-13)

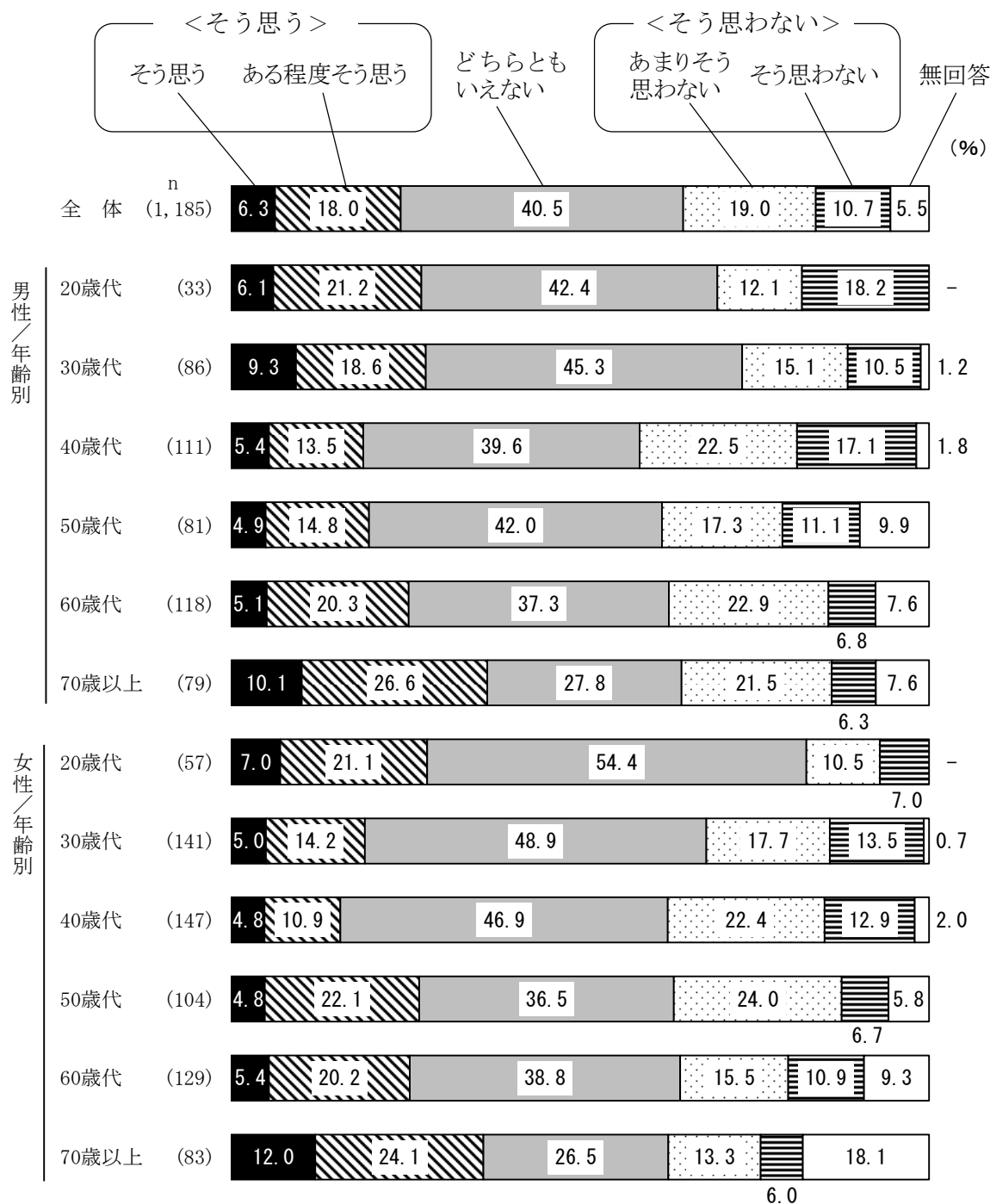
(第2回アンケート)

図表5-14 市職員による市民対応等についての感想 <同じことを誰に尋ねても、回答が変わらない> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では60歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が40.5%と最も多くなっている。次いで、20歳代が27.3%、30歳代が26.7%と続いている。女性ではおおむね年代が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が43.4%と多くなっている。次いで、60歳代が30.3%、50歳代が24.0%と続いている。一方、20歳代は、1割台半ばと少なくなっている。(図表5-14)

図表5-15 市職員による市民対応等についての感想 <関連のある(役に立ちそうな)情報・制度等を積極的に教えてくれる> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が36.7%と最も多くなっている。次いで、30歳代が27.9%、20歳代が27.3%と続いている。女性ではおおむね40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が36.1%と多くなっている。次いで、20歳代が28.1%、50歳代が26.9%と続いている。一方、40歳代は、1割台半ばと少なくなっている。(図表5-15)

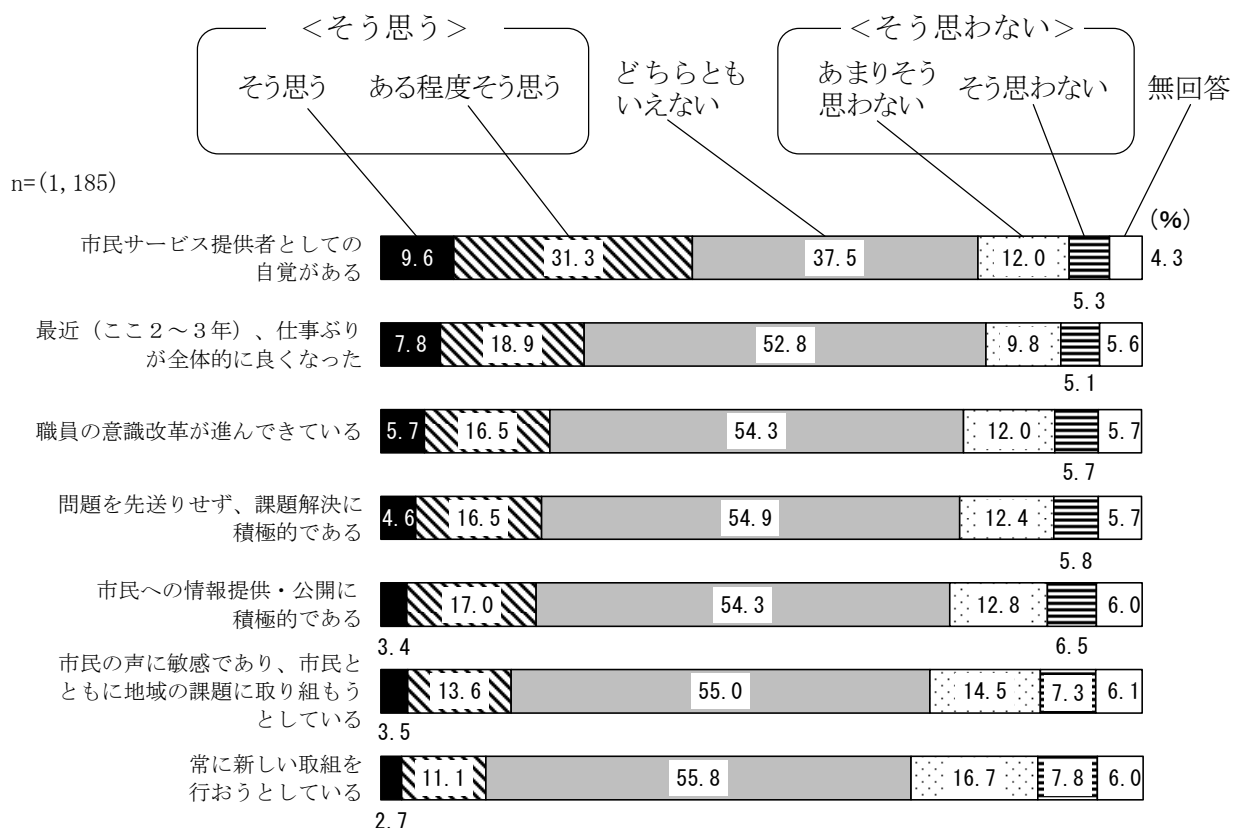
5-4 市職員の仕事ぶりについての印象

◎<そう思う>は「市民サービス提供者としての自覚がある」で40.9%

問13 (問10で「1 よく職員と接する」または「2 時々、職員と接する」「3 ほとんど職員と接しない」と回答した方にうかがいます。)

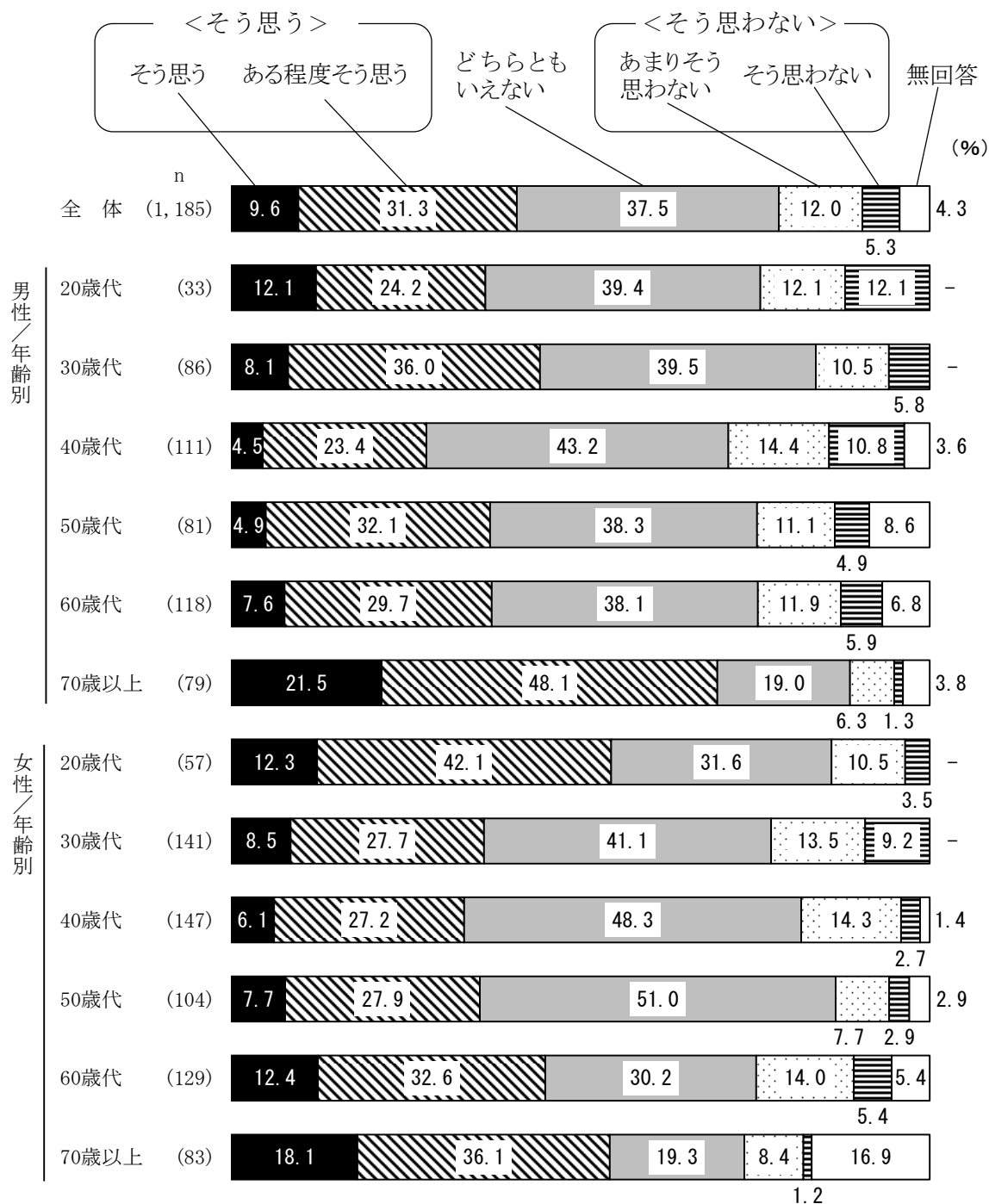
あなたは、市の施策等を通して、職員の仕事ぶりについて、どのような印象を持っていますか。
(〇はそれぞれ1つずつ)

図表5-16 市職員の仕事ぶりについての印象



市職員の仕事ぶりについての印象は、「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた<そう思う>が、「市民サービス提供者としての自覚がある」で40.9%と最も多くなっている。次いで、「最近(ここ2~3年)、仕事ぶりが全体的に良くなった」が26.7%、「職員の意識改革が進んできている」が22.2%となっている。(図表5-16)

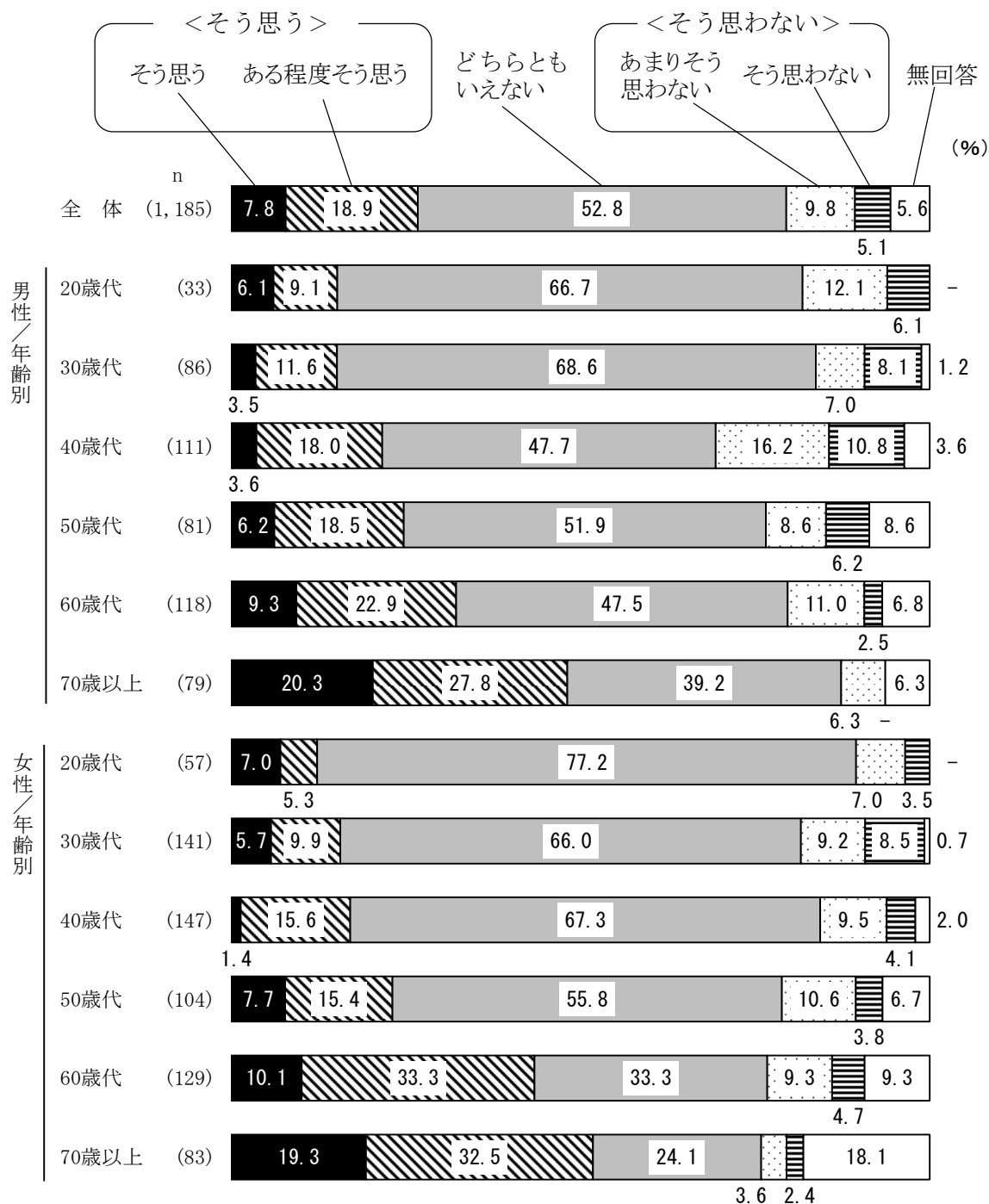
図表5-17 市職員の仕事ぶりについての印象<市民サービス提供者としての自覚がある> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が69.6%と最も多くなっている。次いで、30歳代が44.1%、60歳代が37.3%と続いている。女性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、20歳代が54.4%と多くなっている。次いで、70歳代が54.2%、60歳代が45.0%と続いている。(図表5-17)

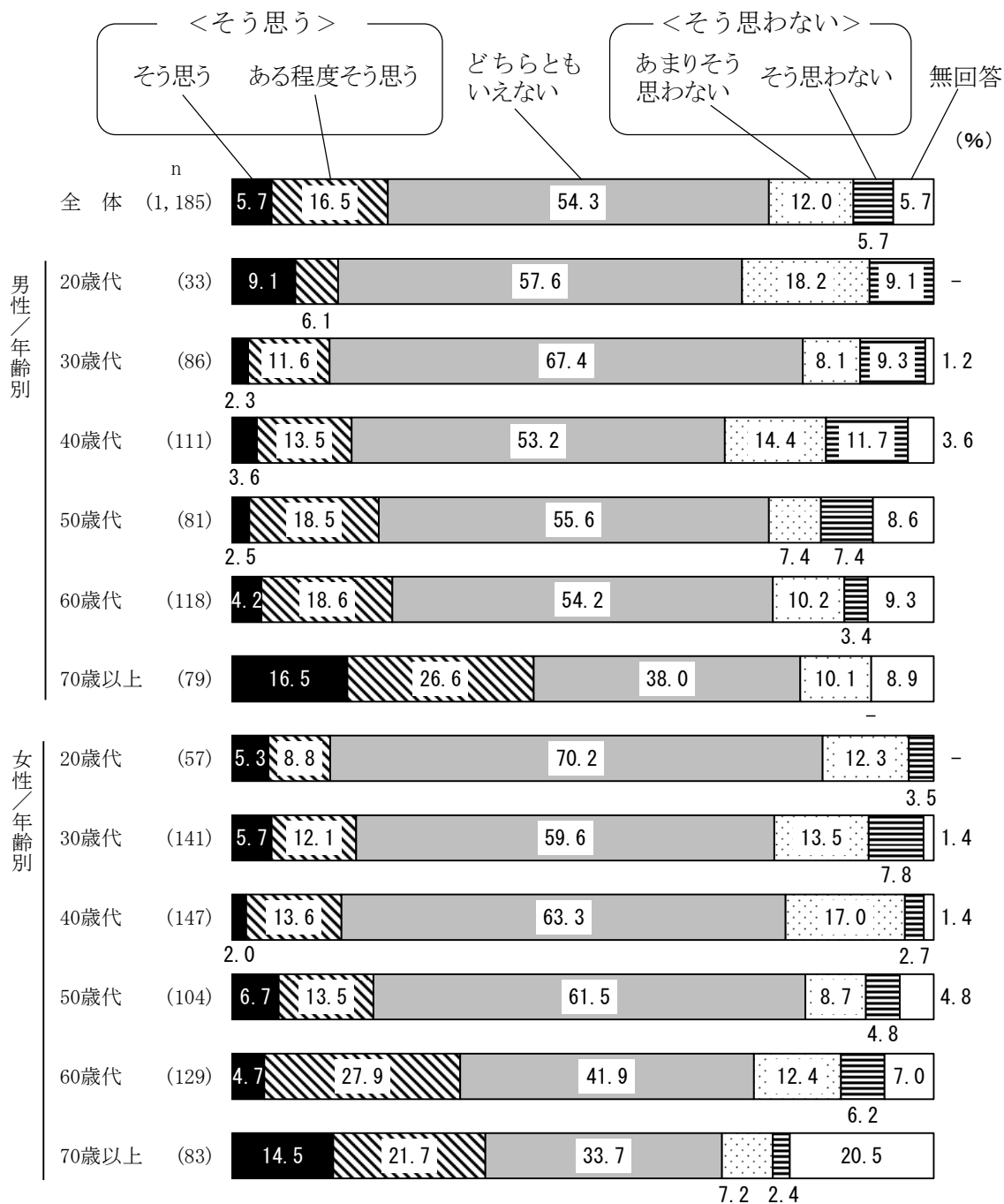
(第2回アンケート)

図表5-18 市職員の仕事ぶりについての印象<最近(ここ2~3年)、仕事ぶりが全体的に良くなった>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね年代が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が48.1%と最も多くなっている。次いで、60歳代が32.2%、50歳代が24.7%と続いている。一方、20歳代と30歳代は1割台半ばと少なくなっている。女性では年代が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が51.8%と多くなっている。次いで、60歳代が43.4%、50歳代が23.1%と続いている。一方、20歳代、30歳代はそれぞれ1割台前半と1割台半ばと少なくなっている。(図表5-18)

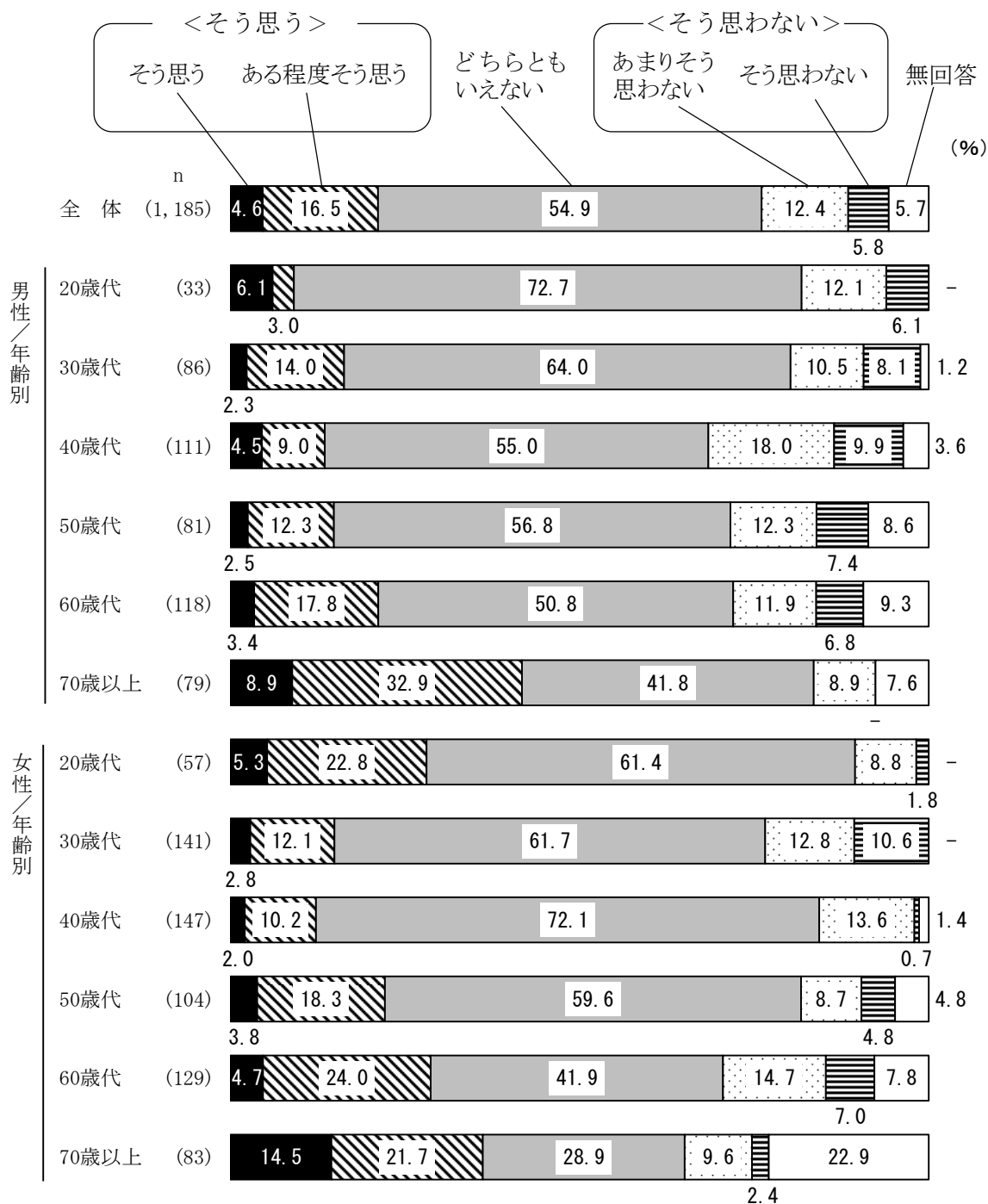
図表5-19 市職員の仕事ぶりについての印象<職員の意識改革が進んできている> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね年代が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が43.1%と最も多くなっている。次いで、60歳代が22.8%、50歳代が21.0%と続いている。一方、20歳代から40歳代は1割台半ば程度と少なくなっている。女性についてもおおむね年代が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が36.2%と多くなっている。次いで、60歳代が32.6%、50歳代が20.2%と続いている。一方、20歳代から40歳代は1割台半ば程度と少なくなっている。(図表5-19)

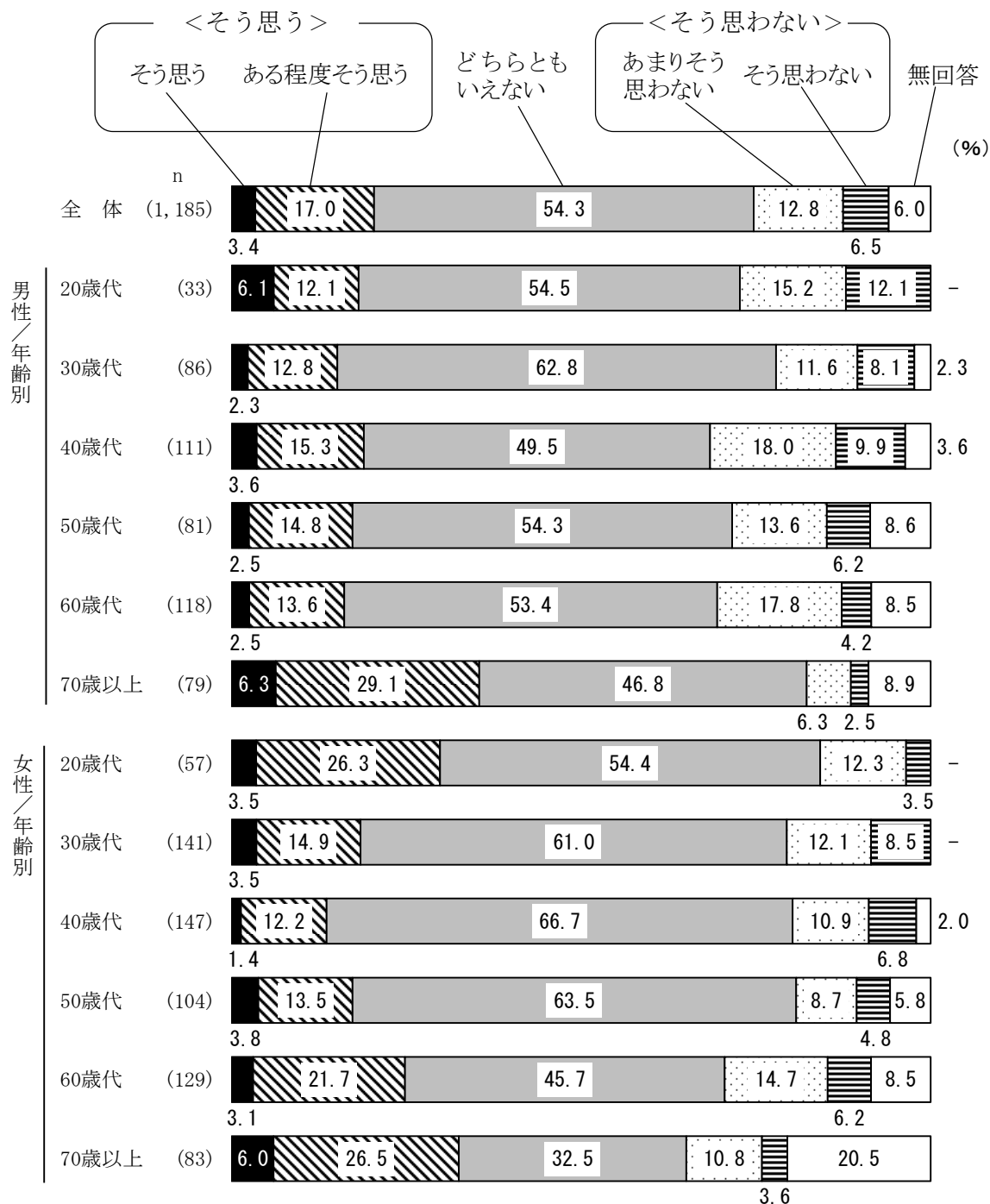
(第2回アンケート)

図表5-20 市職員の仕事ぶりについての印象<問題を先送りせず、課題解決に積極的である> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね年代が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が41.8%と最も多くなっている。次いで、60歳代が21.2%、30歳代が16.3%と続いている。一方、20歳代は1割未満と少なくなっている。女性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が36.2%と多くなっている。次いで、60歳代が28.7%、20歳代が28.1%と続いている。一方、30歳代、40歳代は1割台半ば程度と少なくなっている。(図表5-20)

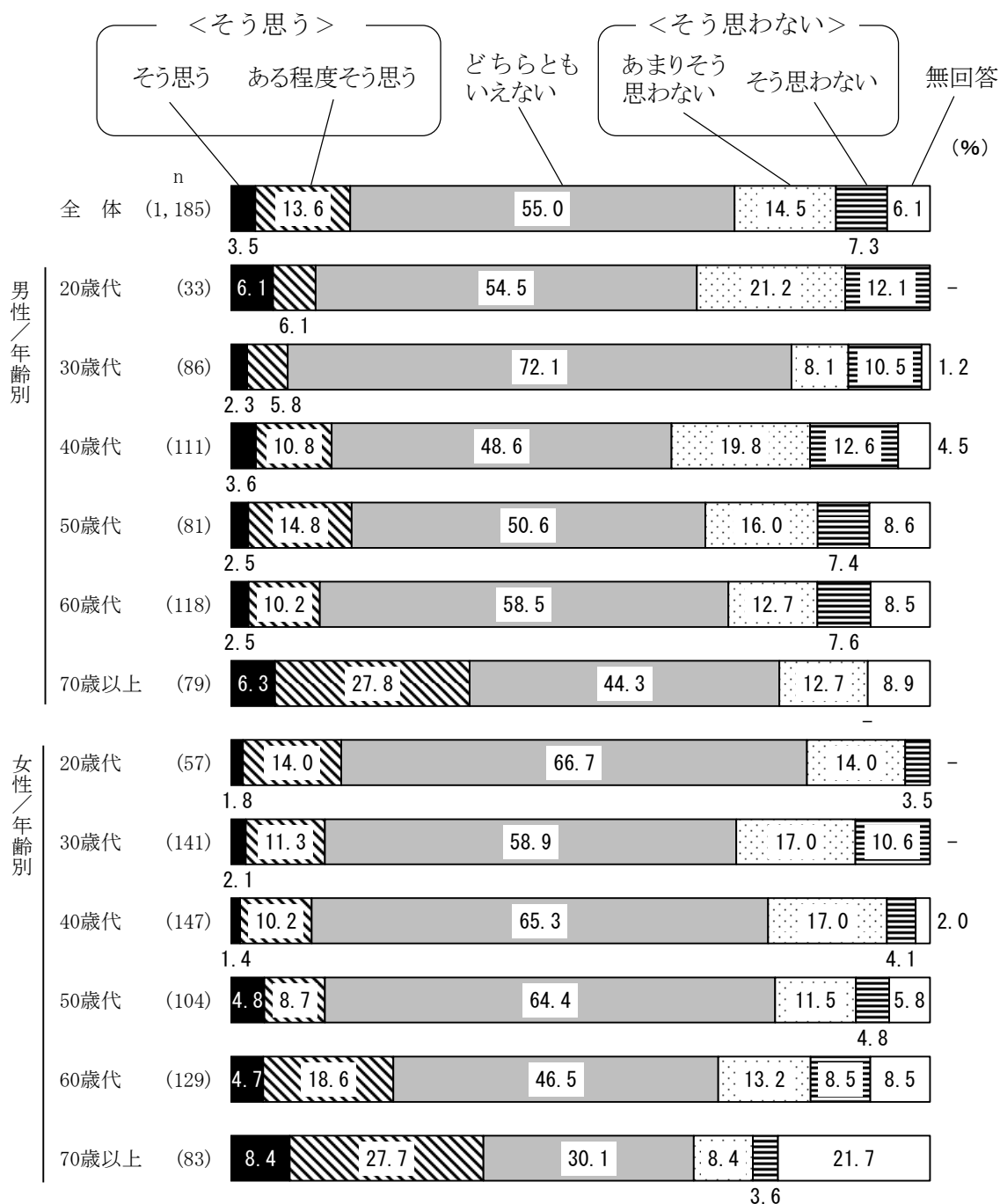
図表5-21 市職員の仕事ぶりについての印象<市民への情報提供・公開に積極的である> (性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では70歳以上が35.4%と最も多くなっている。他の20歳代から60歳代はいずれも1割台半ばから1割台後半と少なくなっている。女性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が32.5%と多くなっている。次いで、20歳代が29.8%、60歳代が24.8%と続いている。一方、30歳代から50歳代は1割台半ばから1割台後半と少なくなっている。(図表5-21)

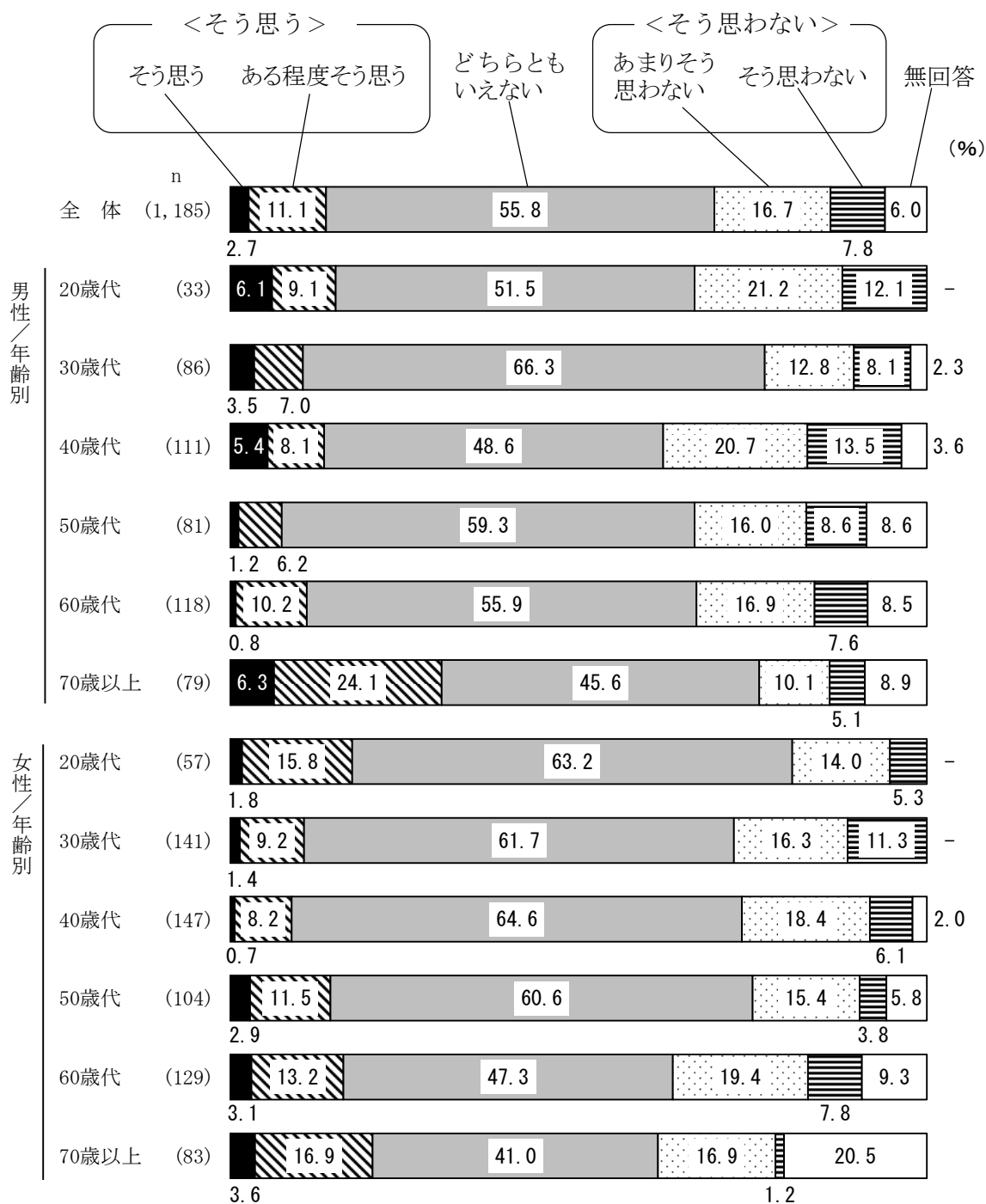
(第2回アンケート)

図表5-22 市職員の仕事ぶりについての印象<市民の声に敏感であり、市民とともに地域の課題に取り組もうとしている>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性ではおおむね30歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が34.1%と最も多くなっている。次いで、50歳代が17.3%、40歳代が14.4%と続いている。一方、30歳代は1割未満と少なくなっている。女性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が36.1%と多くなっている。次いで、60歳代が23.3%、20歳代が15.8%と続いている。一方、40歳代は1割前半と少なくなっている。(図表5-22)

図表5-23 市職員の仕事ぶりについての印象<常に新しい取組を行おうとしている>(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思う>は、男性では70歳以上が30.4%と最も多くなっている。一方、50歳代は1割未満と最も少ない。他の年代は いずれも1割前半から1割後半と少なくなっている。女性では40歳代を中心に年代が開くにつれ割合が多くなる傾向となっており、70歳以上が20.5%と多くなっている。次いで、20歳代が17.6%、60歳代が16.3%と続いている。(図表5-23)

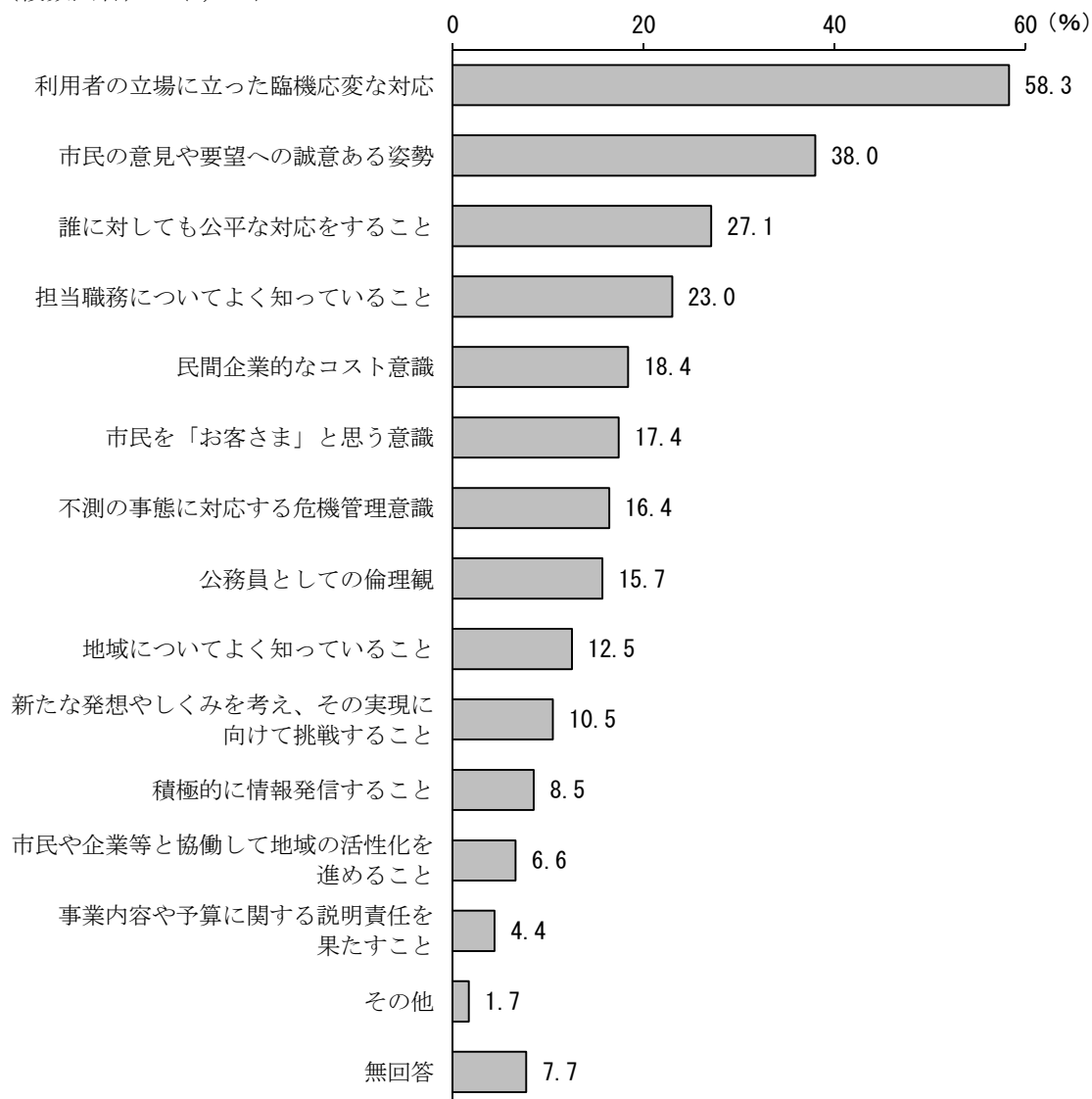
5-5 市職員に求めるもの

◎「利用者の立場に立った臨機応変な対応」が58.3%

問14 あなたは、職員に求めるものとして、特に重要であると思うものは何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

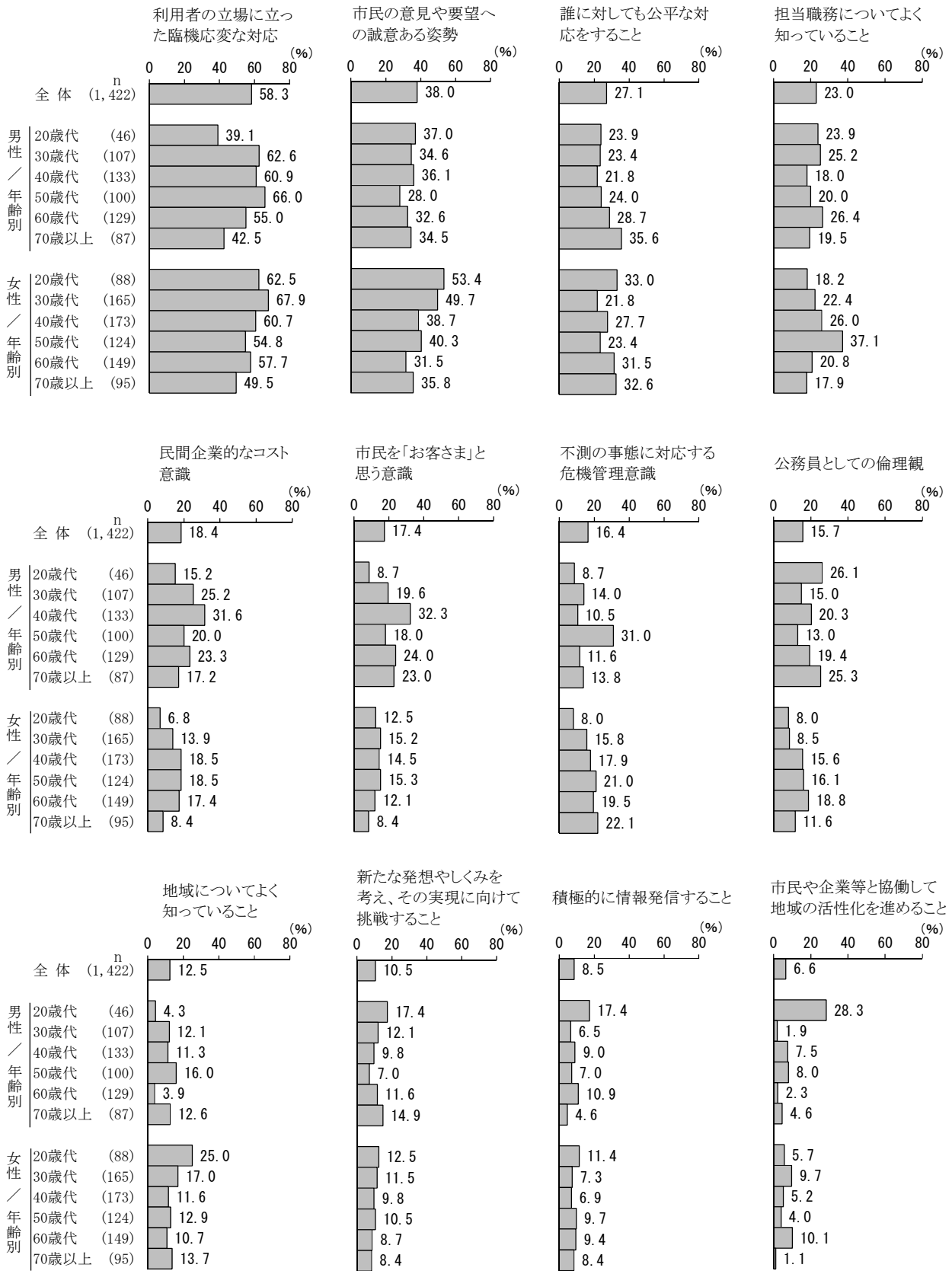
図表5-24 市職員に求めるもの

(複数回答) n=(1,422)

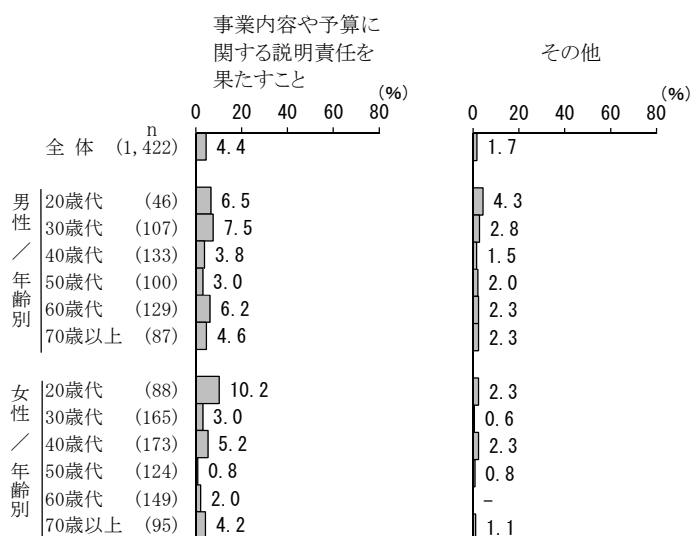


市職員に求めるものは、「利用者の立場に立った臨機応変な対応」が58.3%と最も多くなっている。次いで、「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」が38.0%、「誰に対しても公平な対応をすること」が27.1%となっている。(図表5-24)

図表5-25 市職員に求めるもの(性/年齢別)



(第2回アンケート)



性・年齢別では、「利用者の立場に立った臨機応変な対応」は、男性では30歳代から60歳代で5割を超え、50歳代が66.0%と最も多くなっている。次いで、30歳代の62.6%、40歳代の60.9%と続いている。女性では20歳代から60歳代で5割を超え、30歳代が67.9%と最も多くなっている。次いで、20歳代の62.5%、40歳代の60.7%と続いている。「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」は、男性の全年代を通して2割台後半から3割台となっており、女性は全年代を通して3割台を超え、20歳代が53.4%と最も多くなっている。「誰に対しても公平な対応をすること」は、男性では20歳代から60歳代で2割台となっており、70歳以上で35.6%と最も多くなっている。女性では、20歳代が33.0%と最も多くなっている。次いで、70歳以上の32.6%、60歳代の31.5%と続いている。(図表5-25)

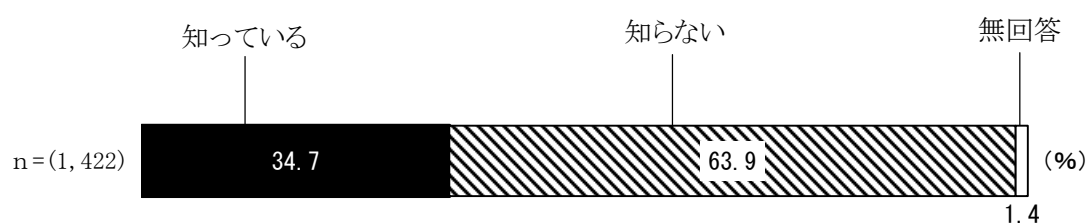
6 区役所サービスについて

6-1 第2・第4土曜日の窓口開設の認知度

◎「知っている」が34.7%

問15 あなたは、川崎市の区役所が第2・第4土曜日の午前中に、窓口開設を行っていることについて、知っていますか。(〇は1つだけ)

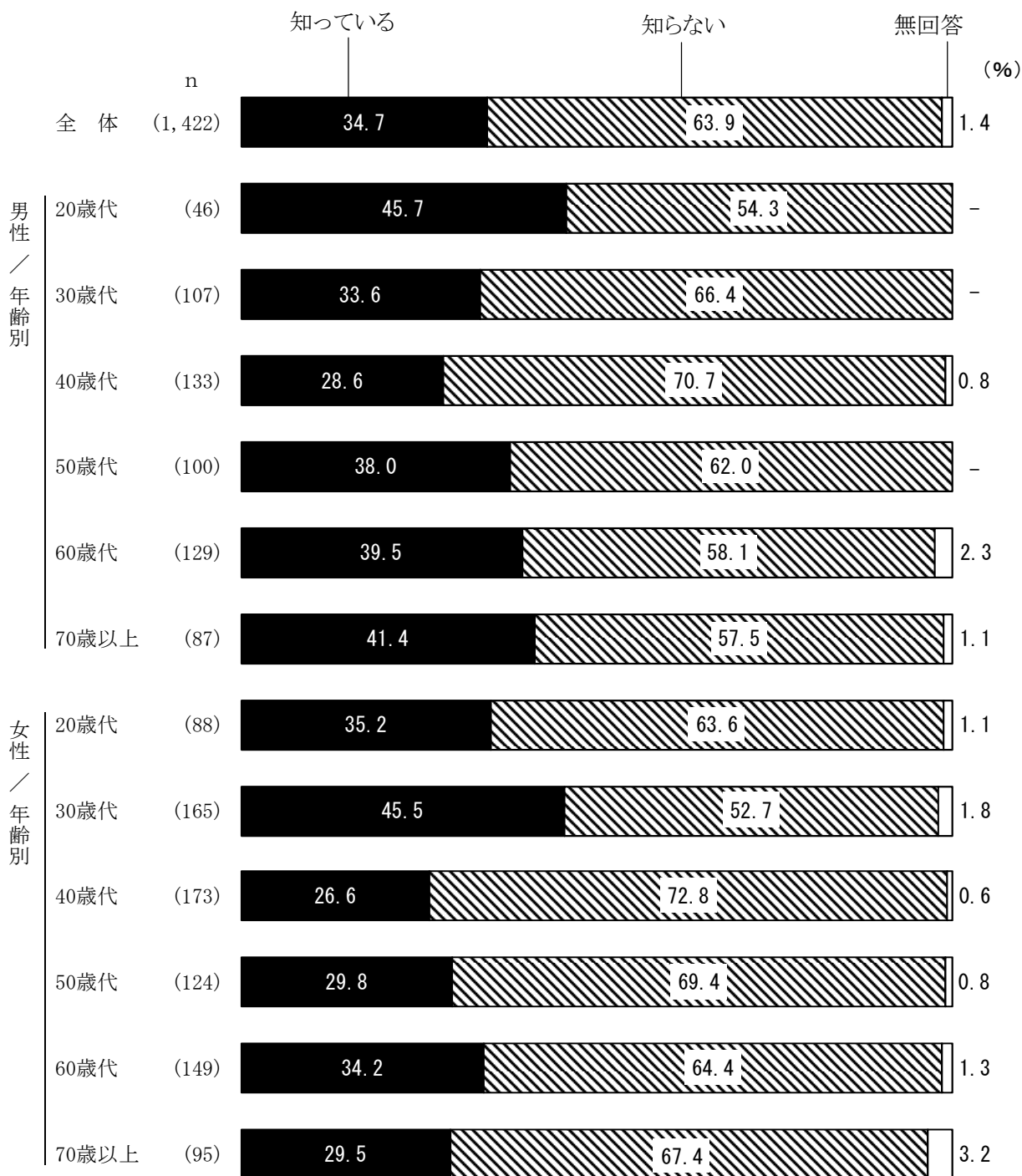
図表6-1 第2・第4土曜日の窓口開設の認知度



区役所の第2・第4土曜日の窓口開設については、「知っている」が34.7%、「知らない」が63.9%となっている。(図表6-1)

(第2回アンケート)

図表6-2 第2・第4土曜日の窓口開設の認知度(性/年齢別)



性/年齢別でみると、「知っている」は、男性では20歳代(45.7%)が最も多く、40歳代(28.6%)が最も少なくなっている。女性では30歳代(45.5%)が最も多く、40歳代(26.6%)が最も少なくなっている。(図表6-2)

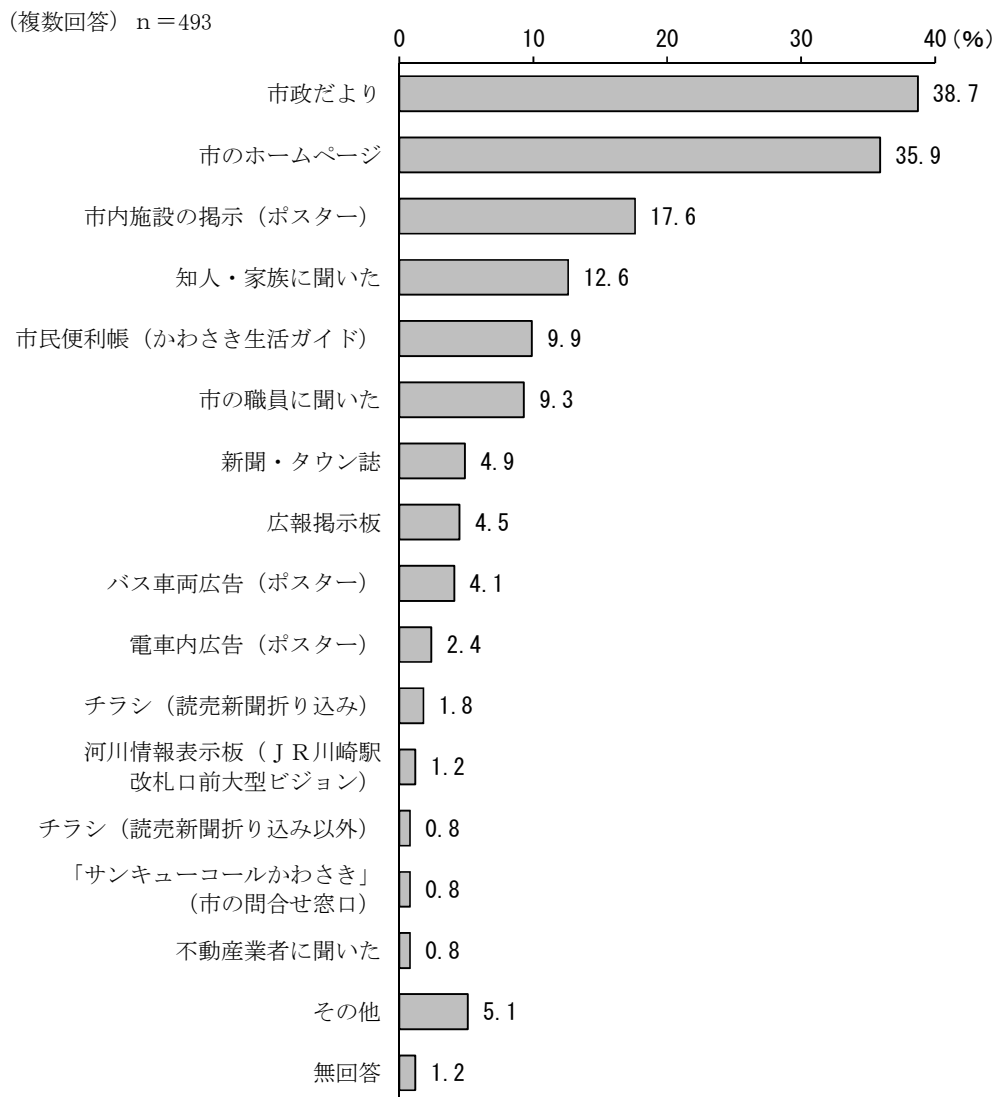
6-2 第2・第4土曜日の窓口開設を知ったきっかけ

◎「市政だより」が38.7%

問16 (問15で「1 知っている」と回答した方にうかがいます。)

あなたは、区役所の第2・第4土曜日の窓口開設について、何から情報を得ましたか。
(あてはまるもの全てに○)

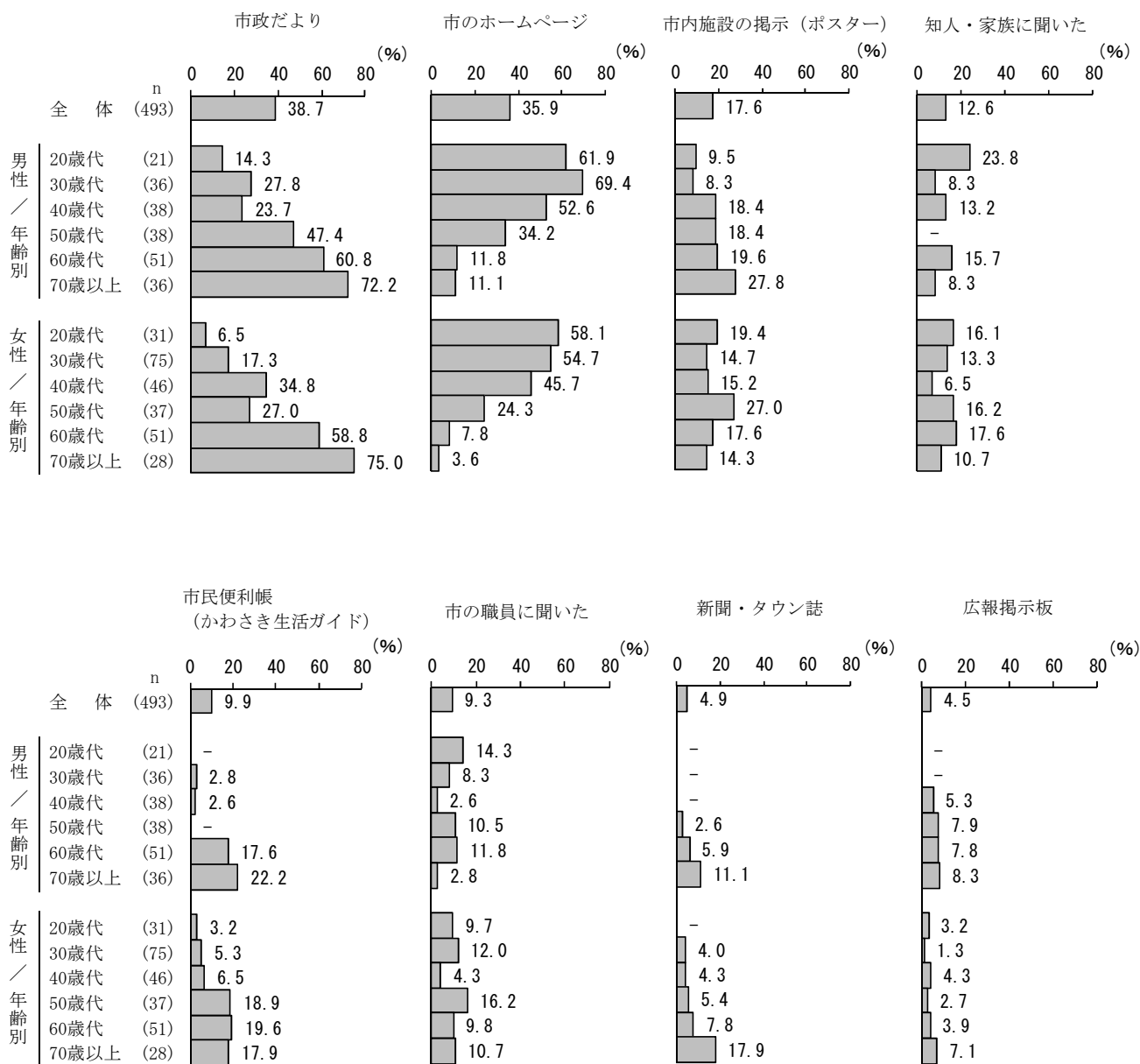
図表6-3 第2・第4土曜日の窓口開設を知ったきっかけ



第2・第4土曜日の窓口開設を知ったきっかけは、「市政だより」(38.7%)、「市のホームページ」(35.9%)が特に多く、次いで、「市内施設の掲示 (ポスター)」(17.6%)、「知人・家族に聞いた」(12.6%)の順になっている。(図表6-3)

(第2回アンケート)

図表6-4 第2・第4土曜日の窓口開設を知ったきっかけ(性/年齢別、上位8項目)



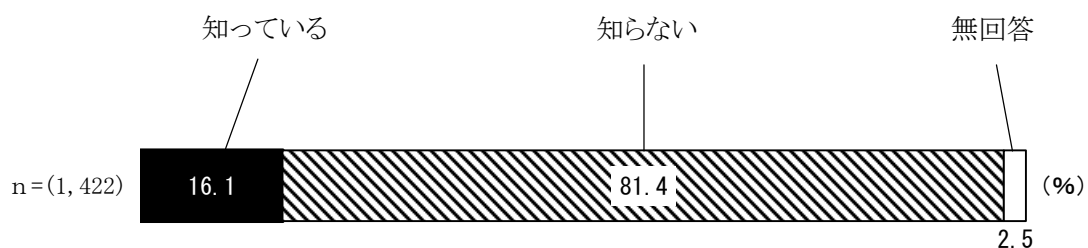
性/年齢別では、「市政だより」は年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向にあり、20歳代が男性で1割台半ば、女性は1割にも満たないのに対し、70歳以上は男女ともに7割台と多くなっている。「市のホームページ」は、男女ともに20歳代、30歳代では、5割以上と多くなっているのに対し、60歳代、70歳以上では、男性で1割台、女性は1割未満と少なくなっている。(図表6-4)

6-3 窓口臨時開設（4月第1土曜日等）の認知度

◎「知っている」が16.1%

問17 あなたは、川崎市の区役所が4月第1土曜日（3月第5土曜日がある年は当該日）の午前中に、窓口開設を行っていることについて、知っていますか。（○は1つだけ）

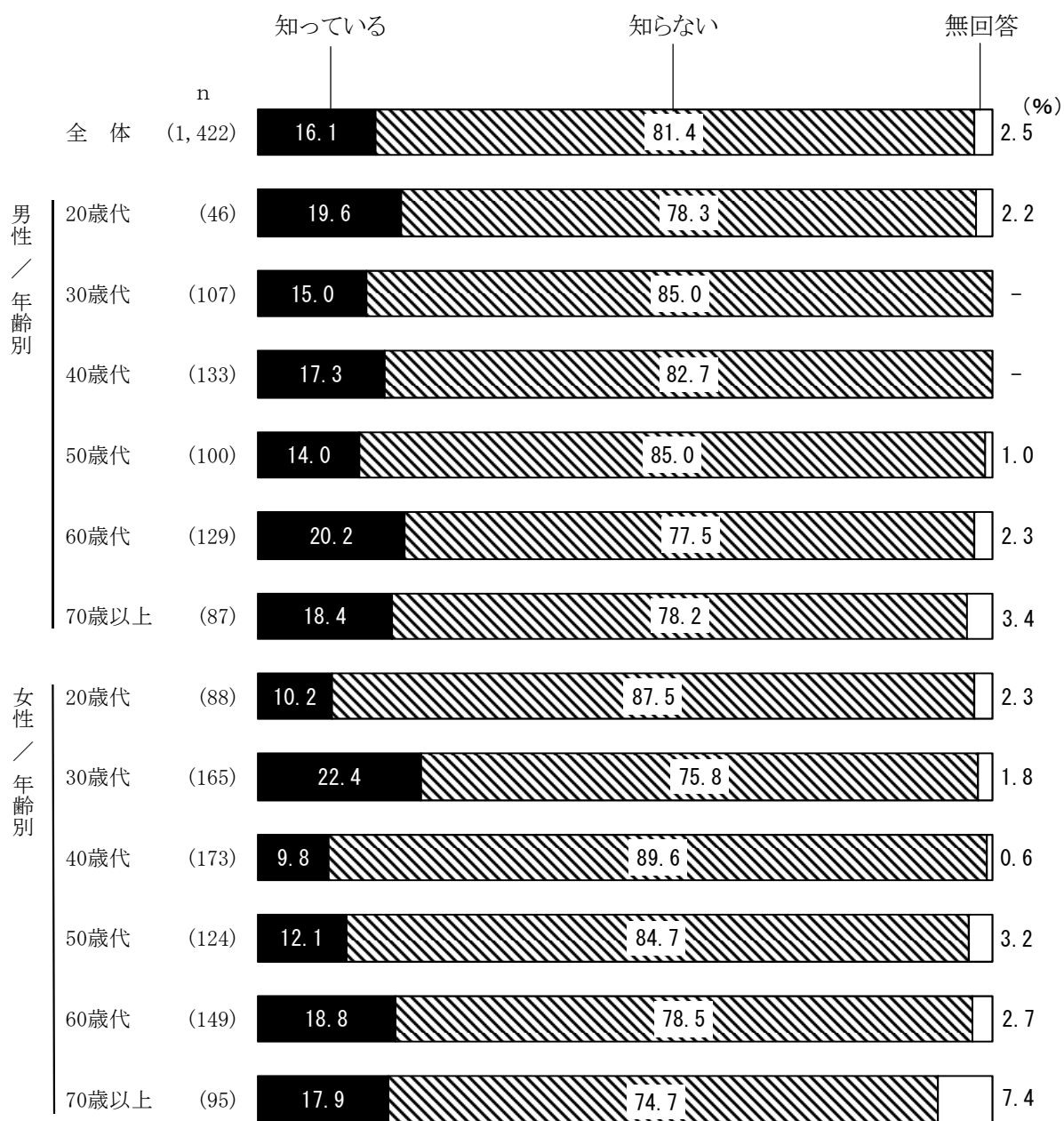
図表6-5 窓口臨時開設（4月第1土曜日等）の認知度



窓口臨時開設（4月第1土曜日等）については、「知っている」が16.1%、「知らない」が81.4%となっている（図表6-5）

(第2回アンケート)

図表6-6 窓口臨時開設(4月第1土曜日等)の認知度(性/年齢別)



性/年齢別でみると、「知っている」は、男性では60歳代(20.2%)が最も多く、50歳代(14.0%)が最も少なくなっている。女性では30歳代(22.4%)が最も多く、40歳代(9.8%)が最も少なくなっている。(図表6-6)

6-4 窓口臨時開設（4月第1土曜日等）を知ったきっかけ

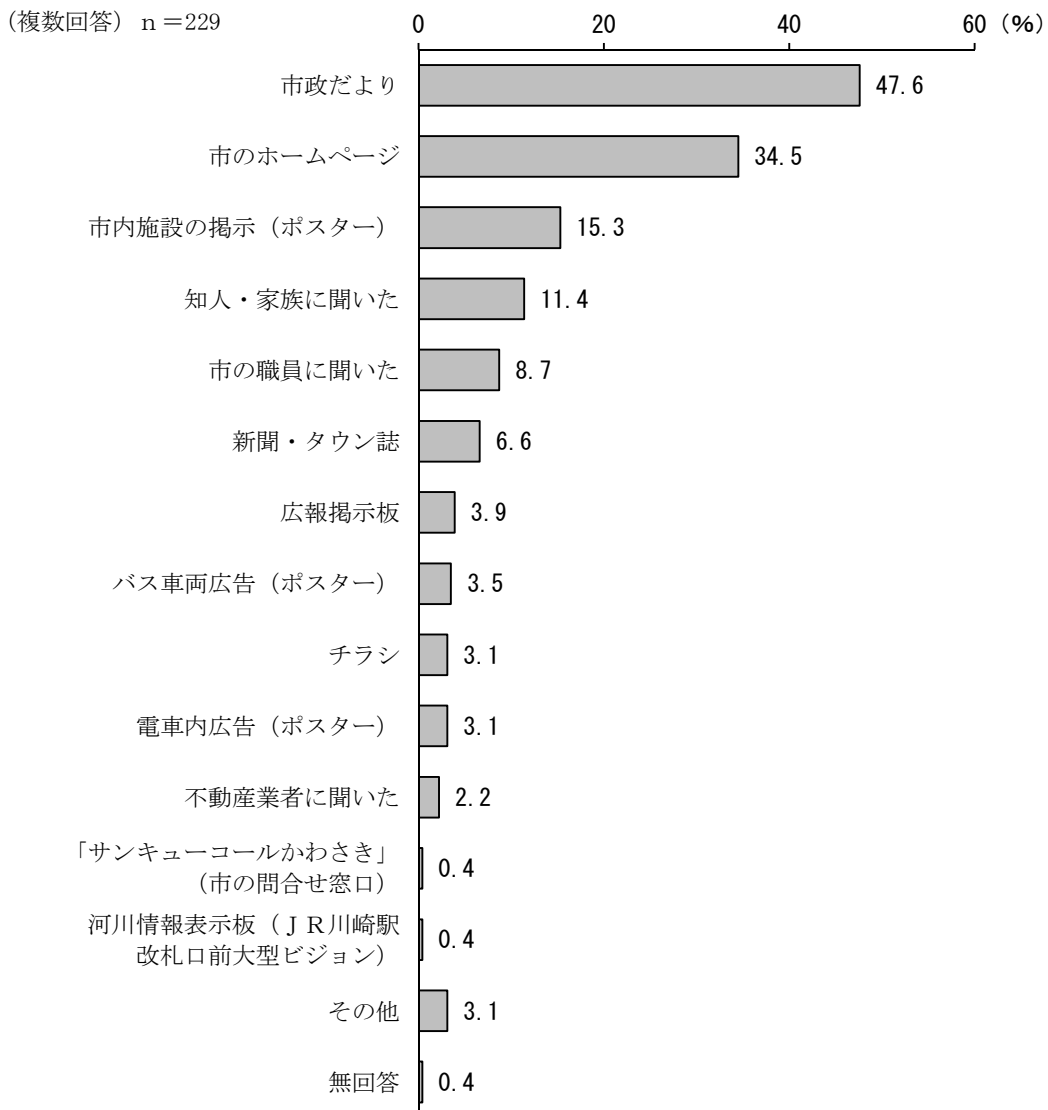
◎「市政だより」が47.6%

問18 (問17で「1 知っている」と回答した方にうかがいます。)

あなたは、区役所の土曜日窓口臨時開設について、何から情報を得ましたか。

(あてはまるもの全てに○)

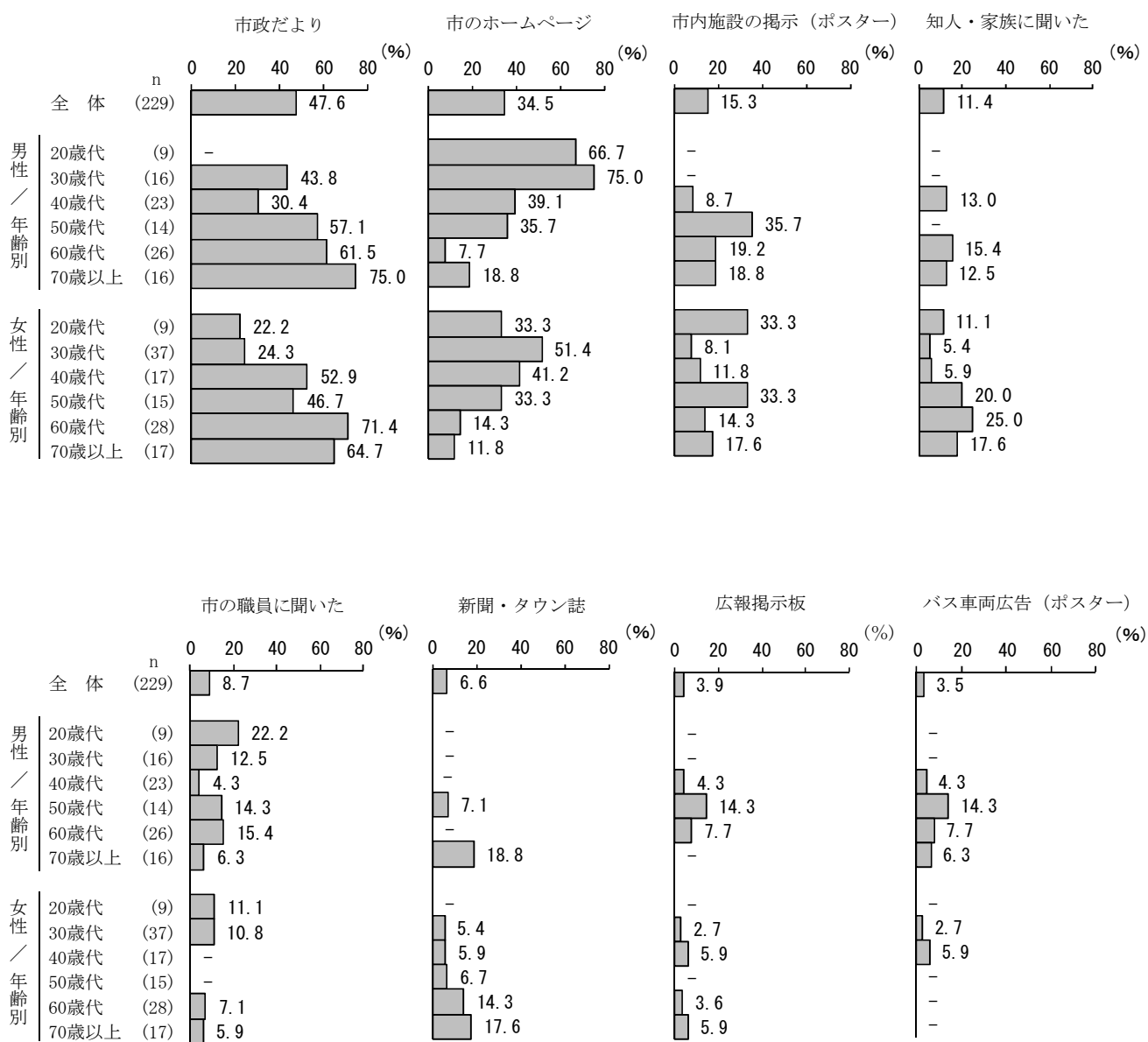
図表6-7 窓口臨時開設（4月第1土曜日等）を知ったきっかけ



窓口臨時開設を知ったきっかけは、「市政だより」(47.6%)、「市のホームページ」(34.5%)が特に多く、次いで、「市内施設の掲示 (ポスター)」(15.3%)、「知人・家族に聞いた」(11.4%)の順となっている。(図表6-7)

(第2回アンケート)

図表6-8 窓口臨時開設(4月第1土曜日等)を知ったきっかけ(性/年齢別、上位8項目)



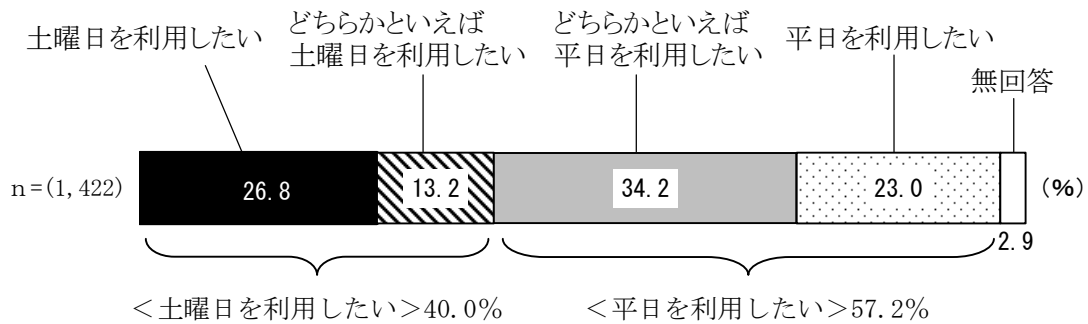
性/年齢別では、「市政だより」は年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向にあり、20歳代では男性が0、女性は約2割なのに対し、60歳以上は男女ともに6割以上と多くなっている。「市のホームページ」は、男性では20歳代、30歳代、女性では30歳代が5割以上と多くなっているのに対し、60歳以上では、男女ともに2割未満と少なくなっている。(図表6-8)

6-5 届出手続きを利用する曜日

◎<土曜日を利用したい>が40.0%

問19 あなたが届出のために区役所に行く必要が生じた場合、平日(8:30~17:00)と土曜日(8:30~12:30)のどちらを利用しますか。(○は1つだけ)

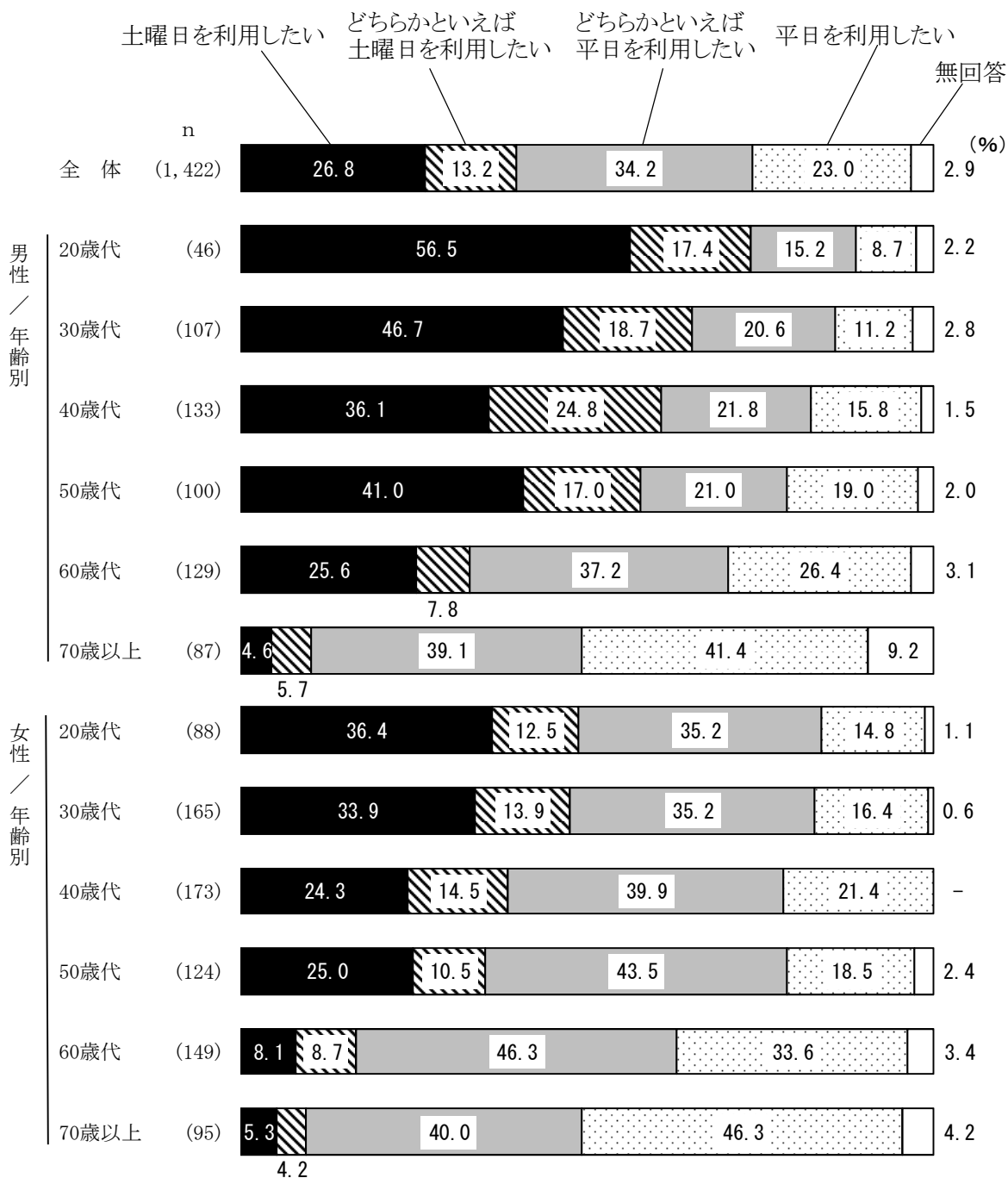
図表6-9 届出手続きを利用する曜日



届出手続きを利用する曜日は、「土曜日を利用したい」(26.8%)と「どちらかといえば土曜日を利用したい」(13.2%)を合わせた<土曜日を利用したい>が40.0%となっている。一方、「平日を利用したい」(23.0%)と「どちらかといえば平日を利用したい」(34.2%)を合わせた<平日を利用したい>が57.2%となっている。(図表6-9)

(第2回アンケート)

図表6-10 届出手続きを利用する曜日(性/年齢別)



性/年齢別では、男性20歳代から50歳代までは「土曜日を利用したい」の割合が5割を超えている一方、それ以外の層では5割以下にとどまっております。70歳以上では、男性で1割台、女性は1割以下となっています。(図表6-10)

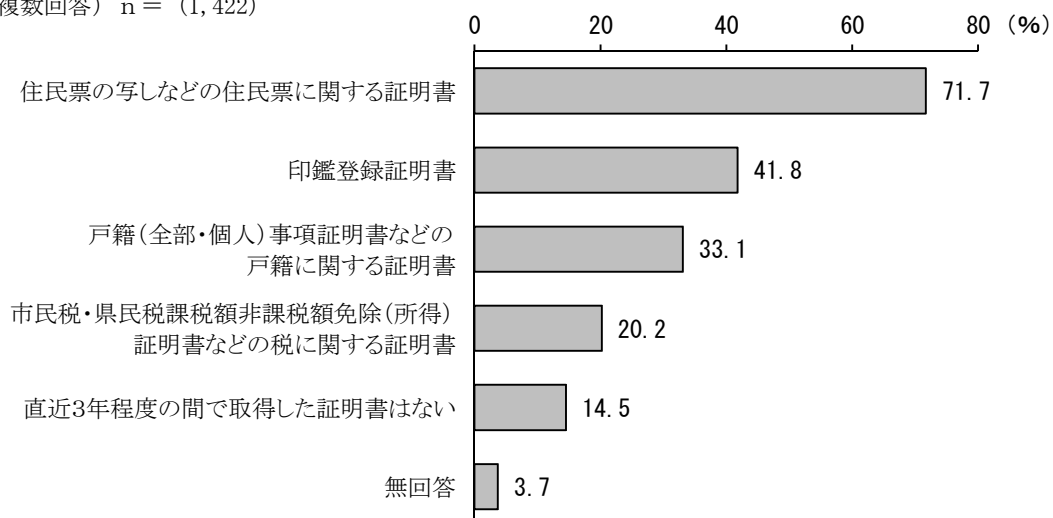
6-6 この3年間に取得した証明書

◎「住民票の写しなどの住民票に関する証明書」が71.7%

問 20 次の証明書のうち、あなたが直近3年程度の間で取得した証明書はどれですか。
(あてはまるもの全てに○)

図表6-11 この3年間に取得した証明書

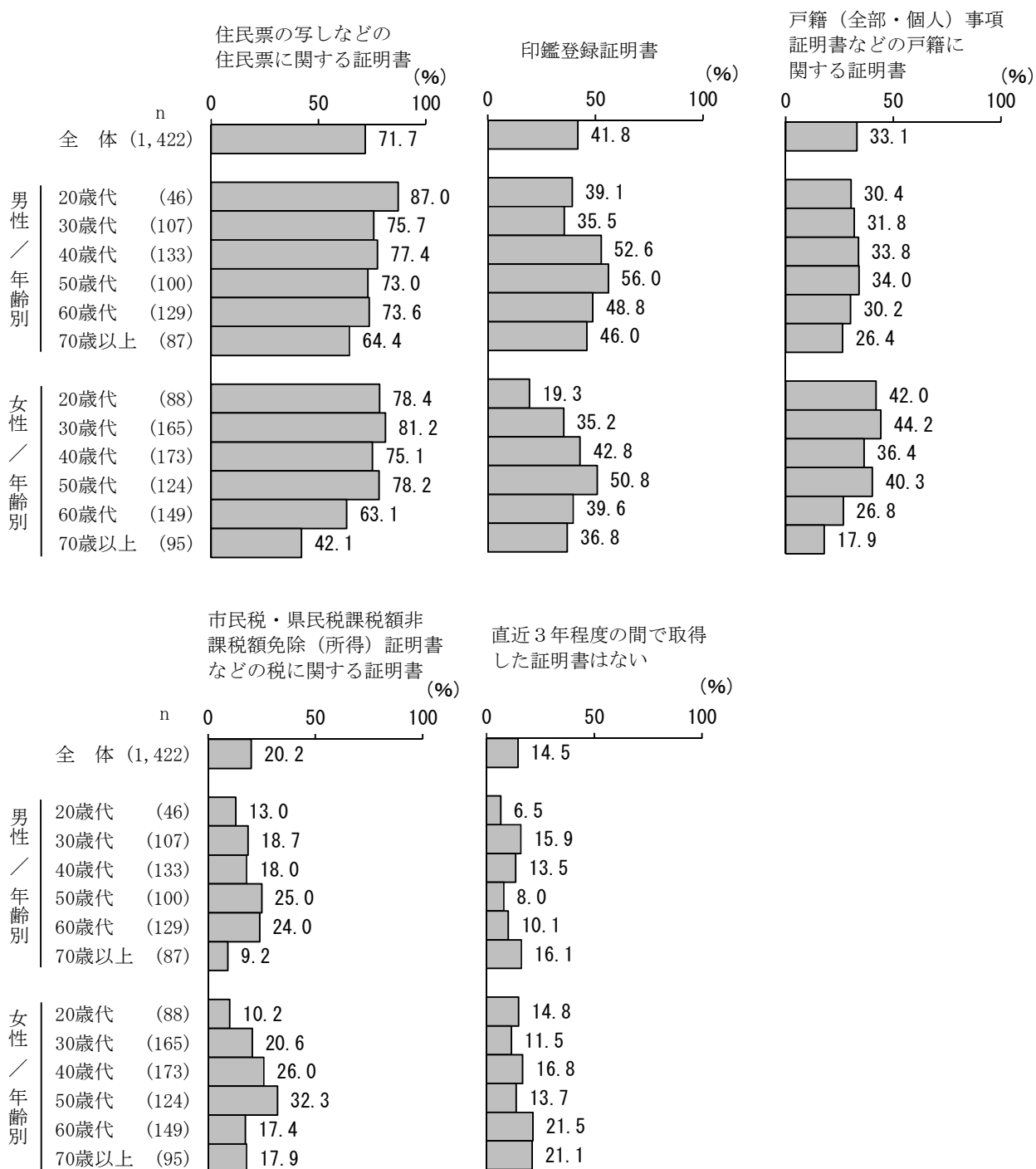
(複数回答) n = (1,422)



この3年間に取得した証明書については、「住民票の写しなどの住民票に関する証明書」(71.7%)が最も多くなっている。以下、「印鑑登録証明書」(41.8%)、「戸籍(全部・個人)事項証明書などの戸籍に関する証明書」(33.1%)の順となっている。(図表6-11)

(第2回アンケート)

図表6-12 この3年間に取得した証明書(性/年齢別)



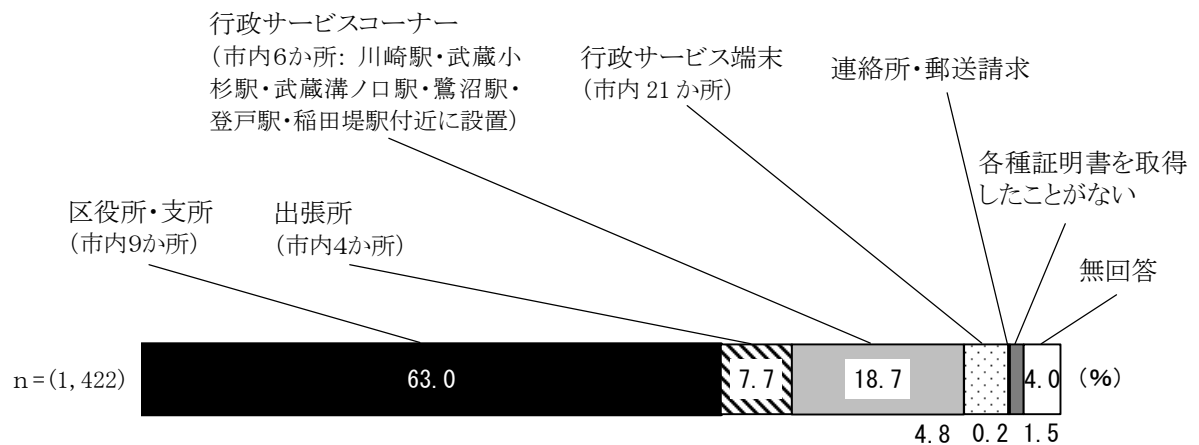
性/年齢別では、「住民票の写しなどの住民票に関する証明書」は年齢が上がるにつれ割合が少なくなる傾向にあり、男性では20歳代(87.0%)、女性では30歳代(81.2%)が最も多いのに対し、男女ともに70歳以上が最も少なくなっている。「印鑑登録証明書」は、男女ともに50歳代が最も多くなっている。(図表6-12)

6-7 証明書の取得先

◎「区役所・支所」が63.0%

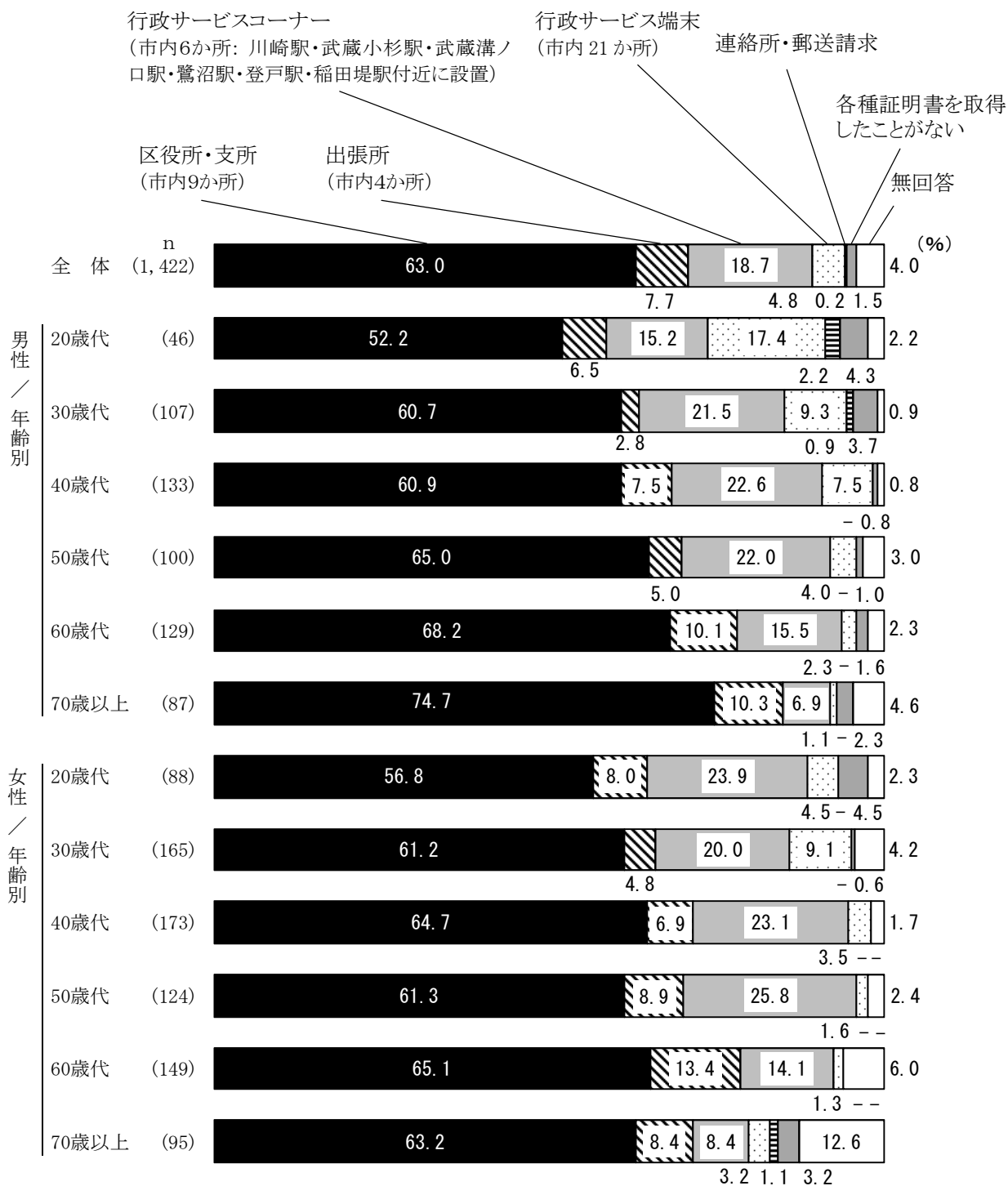
問 21 あなたは、住民票の写しや印鑑登録証明書などの各種証明書が必要になった場合、主に次のどちらで取得していますか。(〇は1つだけ)

図表 6-13 証明書の取得先



証明書の取得先については、「区役所・支所」(63.0%)が最も多く、以下、「行政サービスコーナー」(18.7%)、「出張所」(7.7%)の順となっている。(図表6-13)

図表6-14 証明書の取得先(性/年齢別)



性/年齢別では、いずれの年齢においても「区役所・支所」が最も多くなっている。(図表6-14)

6-8 コンビニエンスストアでの各種証明書の取得希望

◎「コンビニエンスストアで取得したい」が57.2%

問 22 コンビニ交付が導入された場合、あなたは、住民票の写しや印鑑登録証明書などの各種証明書をコンビニエンスストアで取得したいですか。(〇は1つだけ)

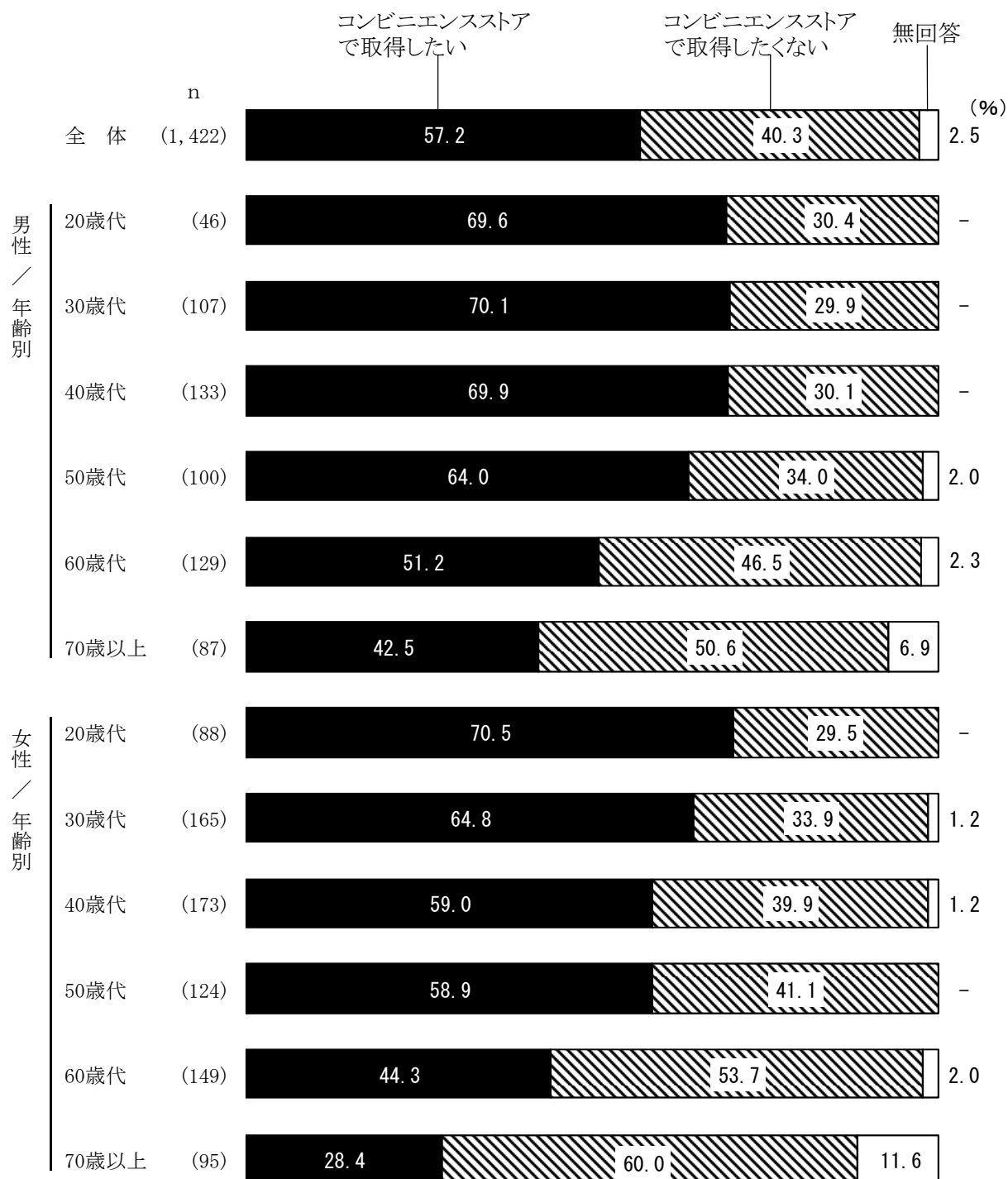
図表 6-15 コンビニエンスストアでの各種証明書の取得希望



コンビニエンスストアでの各種証明書の取得希望については、「コンビニエンスストアで取得したい」(57.2%)が「コンビニエンスストアで取得したくない」(40.3%)を上回っている。(図表 6-15)

(第2回アンケート)

図表6-16 コンビニエンスストアでの各種証明書の取得希望（性／年齢別）



性／年齢別では、「コンビニエンスストアで取得したい」は男女とも、年齢が低いほど割合が多くなる傾向となっている。(図表6-16)

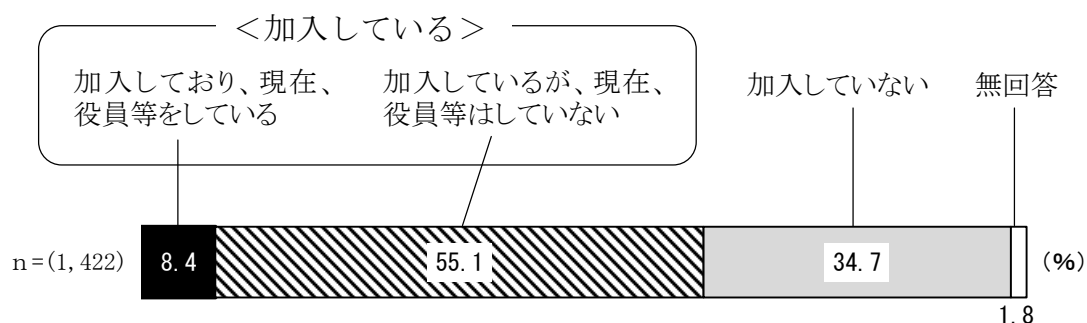
7 町内会・自治会活動の活性化について

7-1 町内会・自治会との関わり

◎「加入している」は63.5%

問23 あなたは、町内会・自治会とどのような関わりを持っていますか。(○は1つだけ)

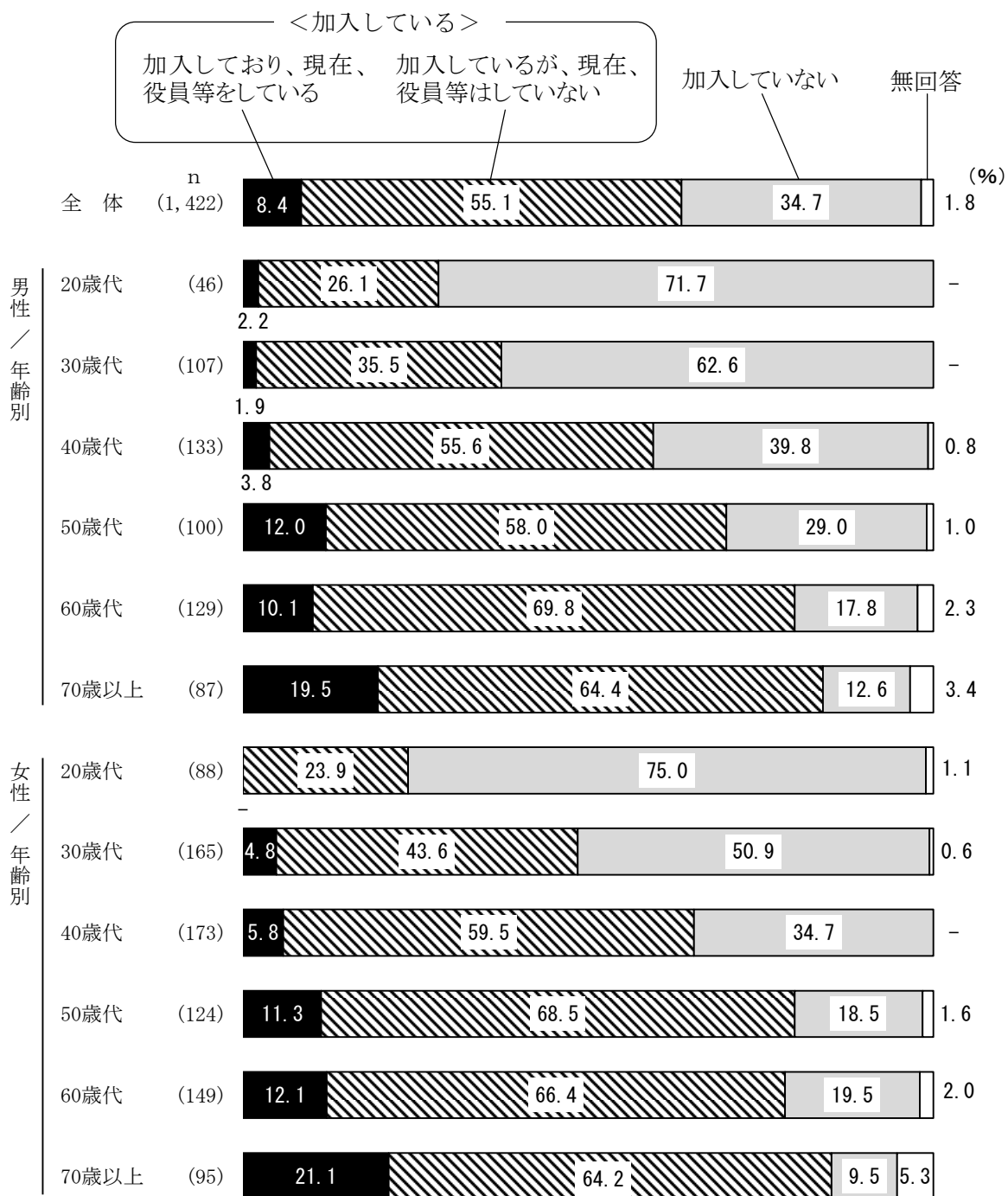
図表7-1 町内会・自治会との関わり



町内会・自治会に<加入している>は63.5%、「加入していない」は34.7%となっており、およそ3人中2人が加入している。(図表7-1)

(第2回アンケート)

図表7-2 町内会・自治会との関わり(性/年齢別)



性/年齢別では、＜加入している＞は、男女ともに年齢が高くなるにつれ、割合が多くなる傾向となっており、男女とも、50歳代、60歳代は7割台で、70歳以上では8割を超えている。一方、「加入していない」は、男女ともに20歳代～30歳代が多くなっており、特に20歳代が7割以上となっている。(図表7-2)

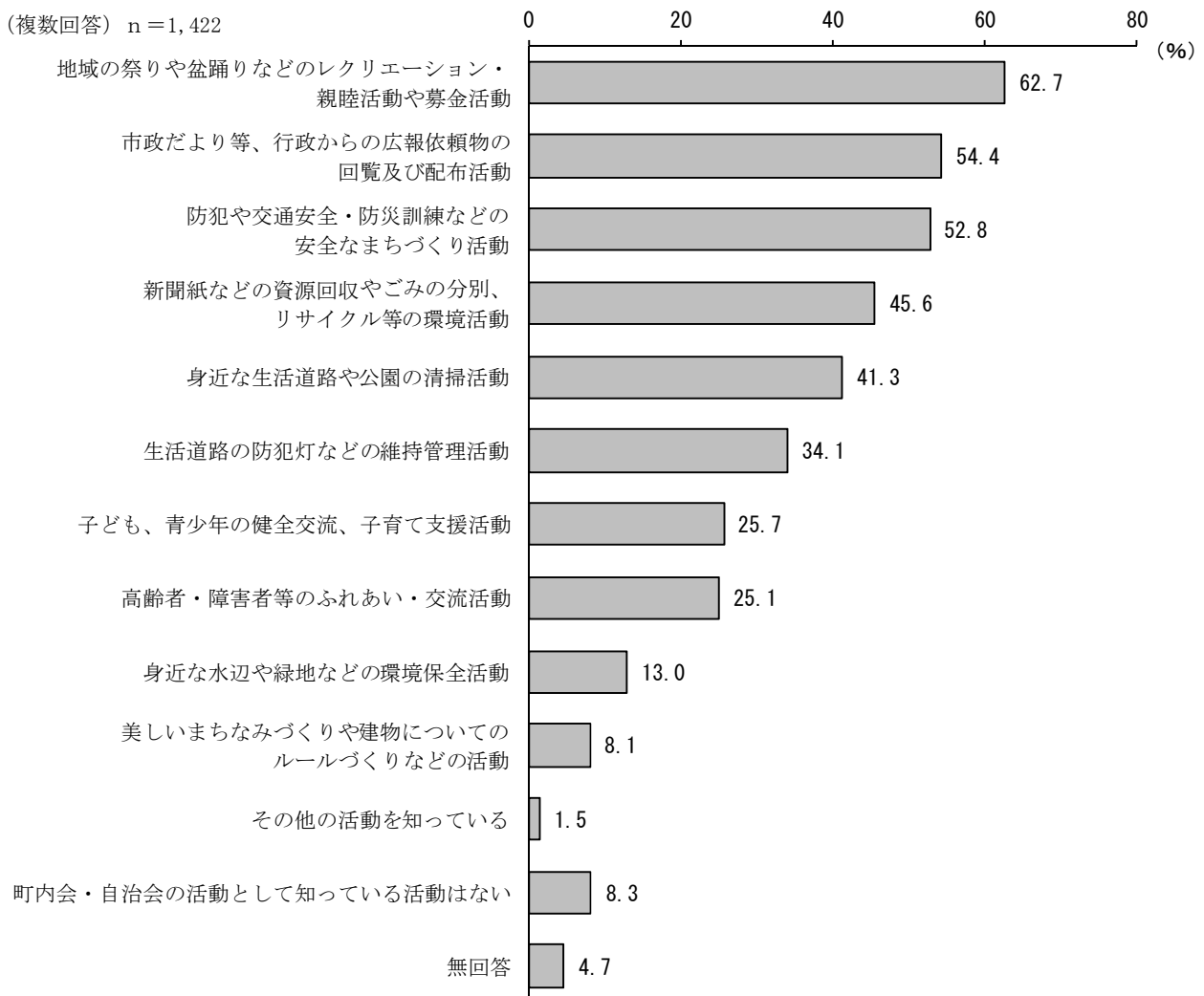
7-2 町内会・自治会の活動内容の認知度

◎「地域の祭りや盆踊りなどのレクリエーション・親睦活動や募金活動」が62.7%

問24 あなたが、町内会・自治会の実施によるものだと知っている活動はどれですか。

(あてはまるもの全てに○)

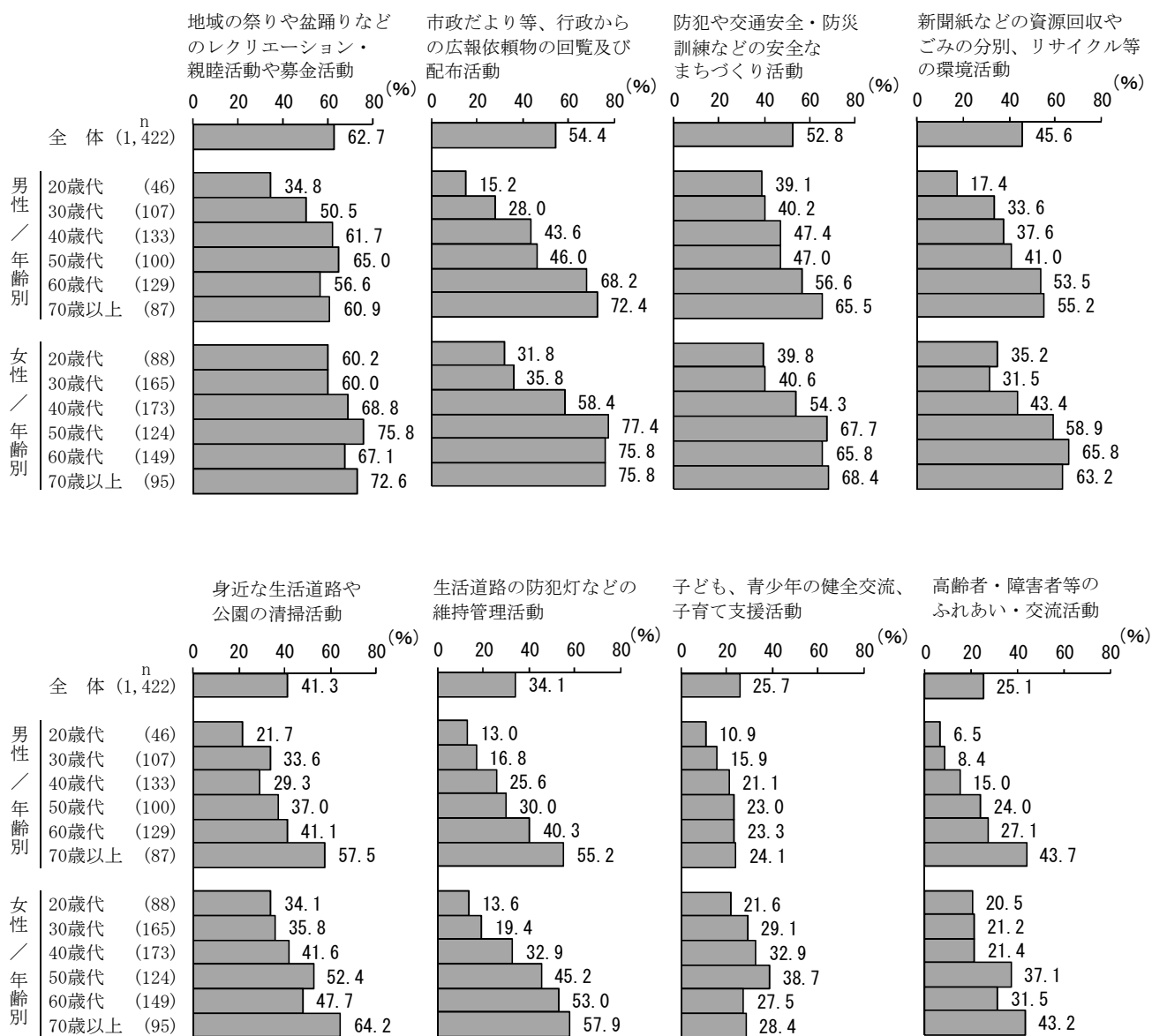
図表7-3 町内会・自治会の活動内容の認知度



町内会・自治会の活動内容の認知度は、「地域の祭りや盆踊りなどのレクリエーション・親睦活動や募金活動」が62.7%で最も多くなっている。次いで、「市政だより等、行政からの広報依頼物の回覧及び配布活動」(54.4%)、「防犯や交通安全・防災訓練などの安全なまちづくり活動」(52.8%)、「新聞紙などの資源回収やごみの分別、リサイクル等の環境活動」(45.6%)と続いている。(図表7-3)

(第2回アンケート)

図表7-4 町内会・自治会の活動内容の認知度(性/年齢別、上位8項目)



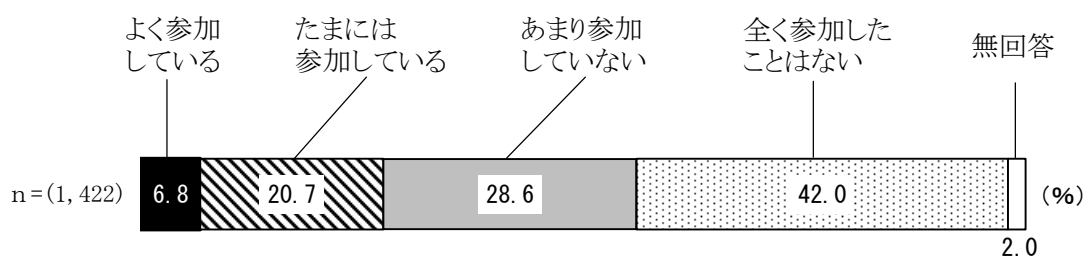
性/年齢別では、いずれの活動に関しても男女とも、年齢が高くなる方が、認知度も高まっている傾向にある。(図表7-4)

7-3 町内会・自治会活動への参加度

◎「全く参加したことはない」が42.0%

問25 町内会・自治会は問24で挙げたさまざまな活動を行っていますが、あなたは町内会・自治会の活動にどの程度参加していますか。(○は1つだけ)

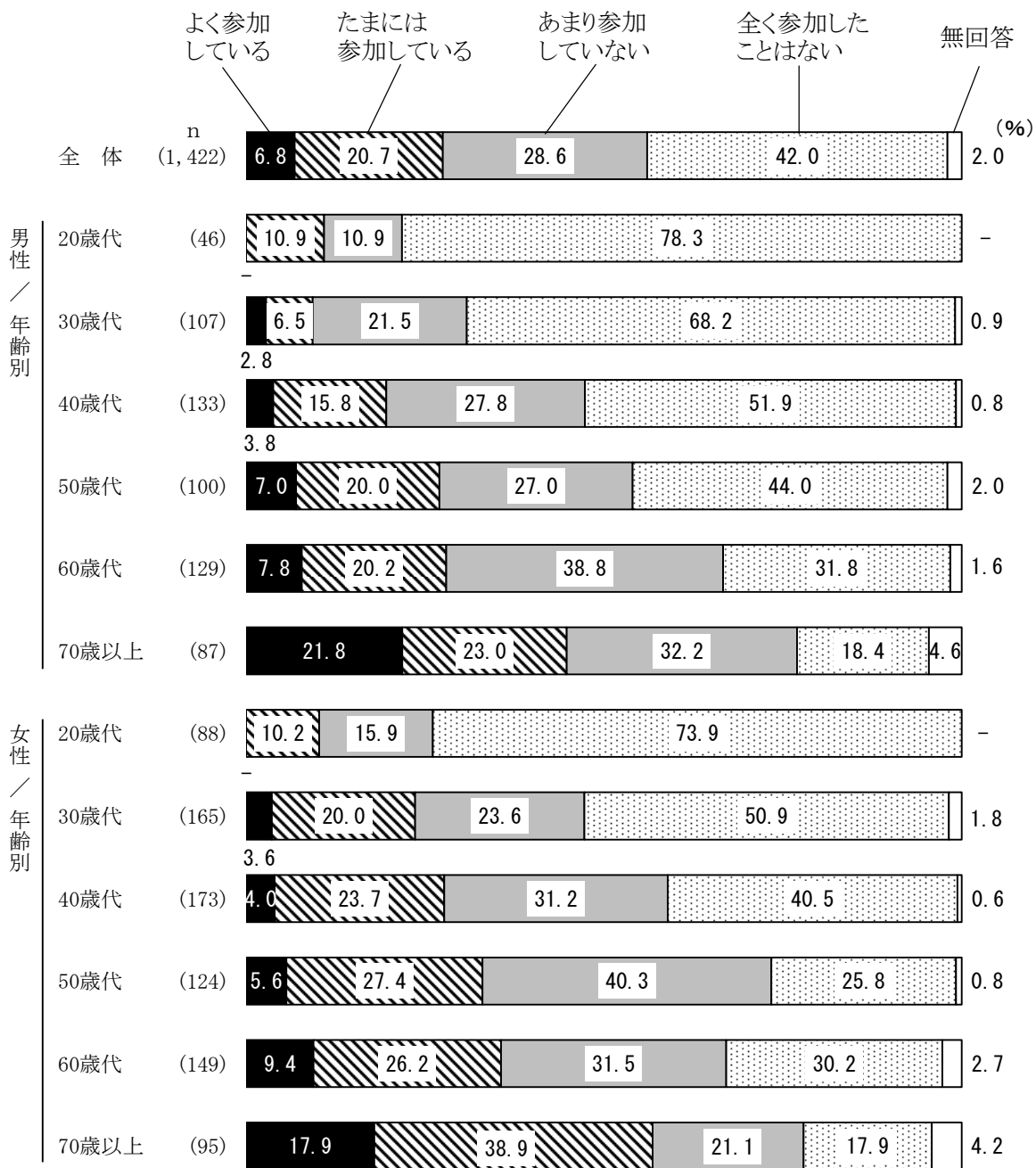
図表7-5 町内会・自治会活動への参加度



町内会・自治会活動への参加度は、「全く参加したことはない」が、42.0%と最も多く、次いで、「あまり参加していない」(28.6%)、「たまには参加している」(20.7%)、「よく参加している」(6.8%)となっている。(図表7-5)

(第2回アンケート)

図表7-6 町内会・自治会活動への参加度(性/年齢別)



性/年齢別では、男女とも年齢が高くなるほど「よく参加している」、「たまには参加している」が増加し、活動に参加している度合いが高くなっている。「全く参加したことはない」は、男女ともに20歳代、30歳代で多くなっている。(図表7-6)

7-4 「市政だより」の入手先

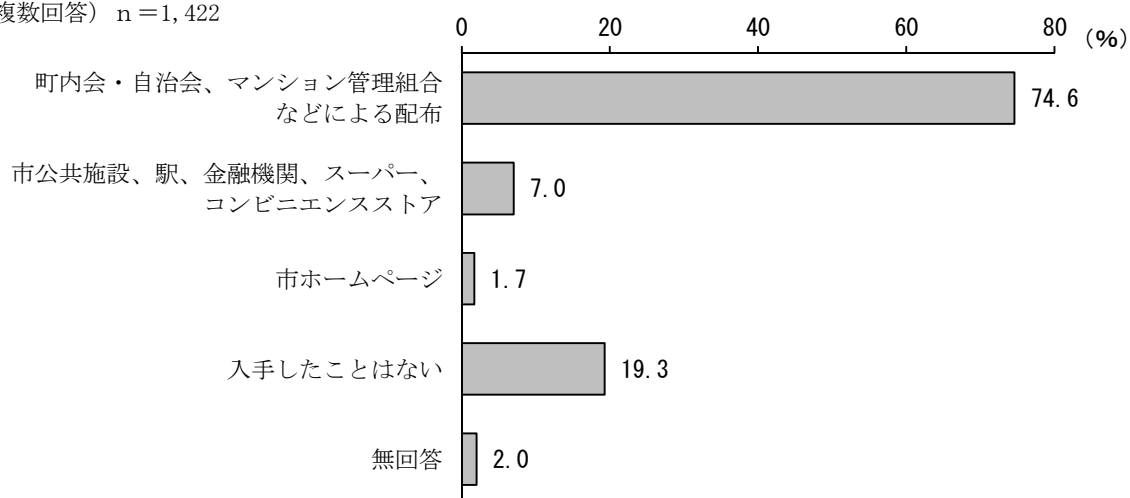
◎「町内会・自治会、マンション管理組合などによる配布」が74.6%

問26 あなたは、市政だより（1日号）をどこから入手したことがありますか。

（あてはまるもの全てに○）

図表7-7 「市政だより」の入手先

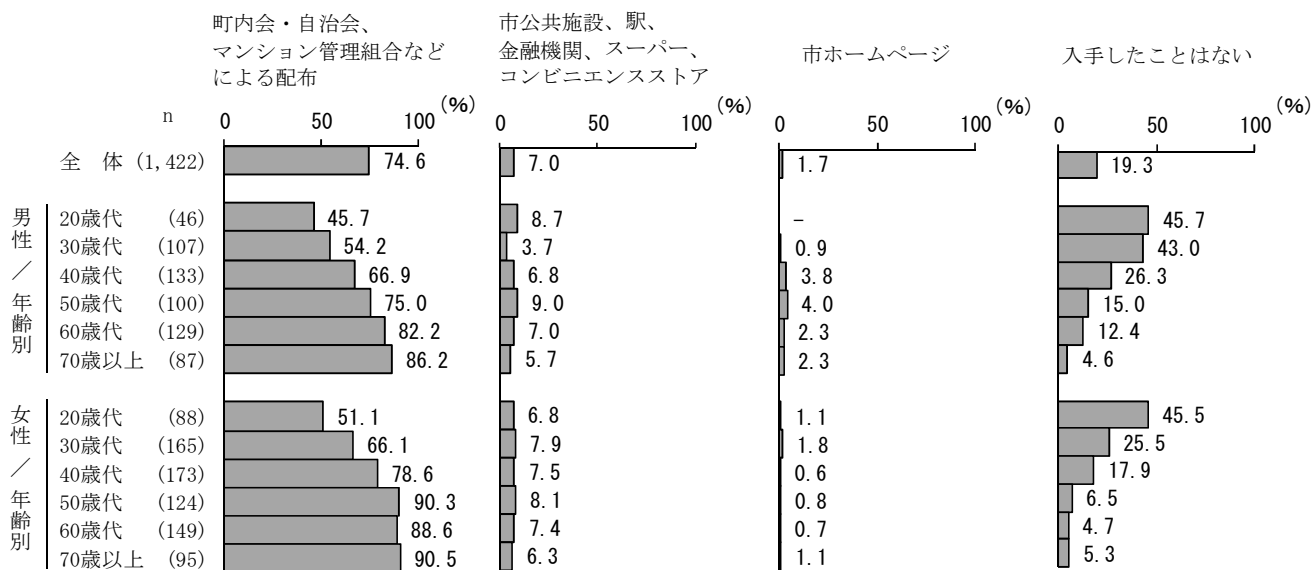
（複数回答） n=1,422



「市政だより」の入手先は、「町内会・自治会、マンション管理組合などによる配布」が74.6%と最も多く、「市公共施設、駅、金融機関、スーパー、コンビニエンスストア」（7.0%）と続いている。（図表7-7）

(第2回アンケート)

図表7-8 「市政だより」の入手先(性/年齢別)



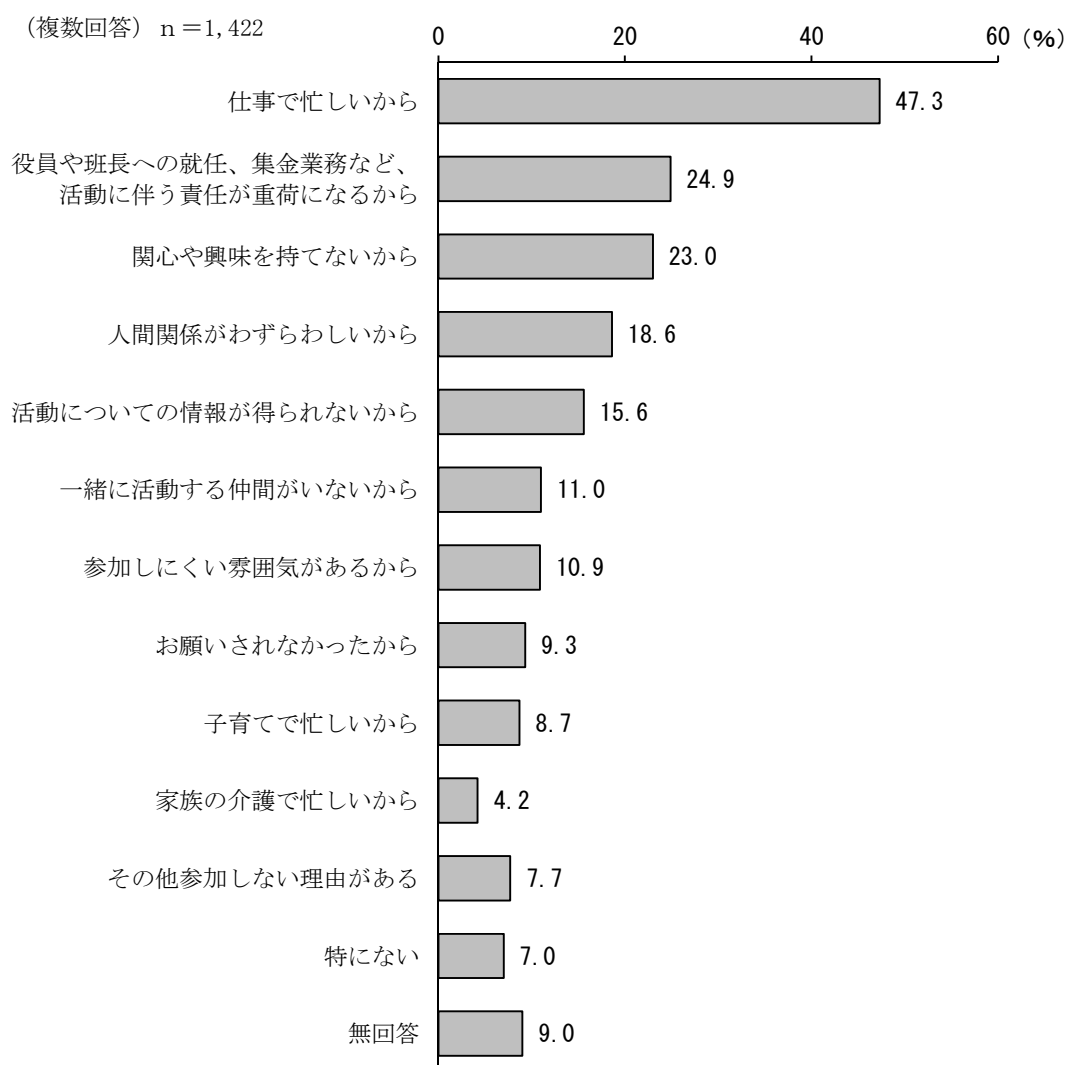
性/年齢別では、「町内会・自治会、マンション管理組合などによる配布」は、男女とも年齢が高くなるほど多くなる傾向がある。一方、「入手したことはない」は、男性の20歳代、30歳代および女性の20歳代で4割台となっている。(図表7-8)

7-5 町内会・自治会活動に参加しない理由

◎「仕事で忙しいから」が47.3%

問27 町内会・自治会は、問24に挙げたさまざまな活動を行っていますが、あなたは、町内会・自治会活動に参加しない主な理由は何だと思えますか。
活動に参加していない人は個人的な理由を、活動に参加している人は考えられる一般的な理由を選択してください。(あてはまるもの3つまでに○)

図表7-9 町内会・自治会活動に参加しない理由



町内会・自治会活動に参加しない主な理由は、「仕事で忙しいから」が47.3%と最も多くなっている。次いで、「役員や班長への就任、集金業務など、活動に伴う責任が重荷になるから」(24.9%)、「関心や興味を持ってないから」(23.0%)、「人間関係がわずらわしいから」(18.6%)と続いている。(図表7-9)

(第2回アンケート)

図表7-10 町内会・自治会活動に参加しない理由

(町内会・自治会との関わり×活動に参加しない理由)

上段：人数、下段：%

	合計	町内会・自治会活動に参加しない理由												
		仕事で忙しいから	役員や班長への就任、集金業務など、活動に伴う責任が重荷になるから	関心や興味を持ってないから	人間関係がわづらわしいから	活動についての情報が得られないから	一緒に活動する仲間がいらないから	参加しにくい雰囲気があるから	お願いされなかったから	子育てで忙しいから	家族の介護で忙しいから	その他参加しない理由がある	特にない	無回答
合計	1,422 100.0	672 47.3	354 24.9	327 23.0	265 18.6	222 15.6	156 11.0	155 10.9	132 9.3	124 8.7	60 4.2	110 7.7	100 7.0	128 9.0
加入しており、現在、役員等をしている	120 100.0	52 43.3	42 35.0	34 28.3	26 21.7	3 2.5	7 5.8	14 11.7	4 3.3	11 9.2	7 5.8	6 5.0	3 2.5	32 26.7
加入しているが、現在、役員等はしていない	783 100.0	365 46.6	247 31.5	178 22.7	174 22.2	101 12.9	97 12.4	100 12.8	75 9.6	67 8.6	38 4.9	48 6.1	44 5.6	64 8.2
加入していない	494 100.0	252 51.0	65 13.2	114 23.1	65 13.2	116 23.5	51 10.3	41 8.3	51 10.3	46 9.3	15 3.0	55 11.1	50 10.1	16 3.2
無回答	25 100.0	3 12.0	-	1 4.0	-	2 8.0	1 4.0	-	2 8.0	-	-	1 4.0	3 12.0	16 64.0

町内会・自治会との関わり（問23）と町内会・自治会活動に参加しない理由（問27）からみると、加入していない人の参加しない理由は、「仕事で忙しいから」（51.0%）が最も多く、次いで、「活動についての情報が得られないから」（23.5%）、「関心や興味を持ってないから」（23.1%）の順となっている。

「役員や班長への就任、集金業務など、活動に伴う責任が重荷になるから」を理由に選んだ人は、加入していない人より加入している人の方が多い。（図表7-10）

7-6 町内会・自治会に加入しない理由

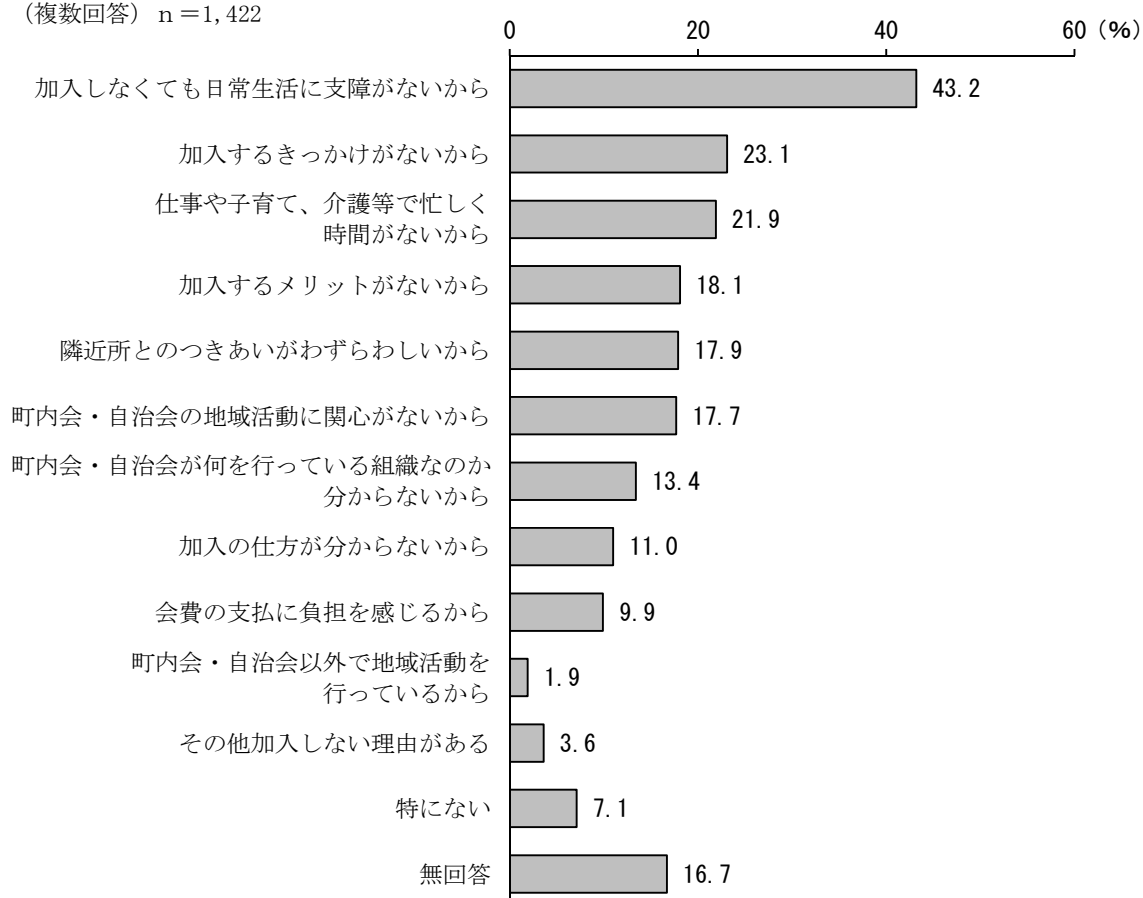
◎「加入しなくても日常生活に支障がないから」が43.2%

問28 あなたは、町内会・自治会に加入しない主な理由は何だと思えますか。

加入していない人は個人的な理由を、加入している人は考えられる一般的な理由を選択してください。(あてはまるもの3つまでに○)

図表7-11 町内会・自治会に加入しない理由

(複数回答) n=1,422



町内会・自治会に加入しない主な理由は、「加入しなくても日常生活に支障がないから」が43.2%と最も多くなっている。次いで、「加入するきっかけがないから」(23.1%)、「仕事や子育て、介護等で忙しく時間がないから」(21.9%)、「加入するメリットがないから」(18.1%)と続いている。(図表7-11)

(第2回アンケート)

図表7-12 町内会・自治会に加入しない理由（町内会・自治会との関わり×加入しない理由）

上段：人数、下段：%

	合計	町内会・自治会に加入しない理由												
		加入しなくても日常生活に支障がないから	加入するきっかけがないから	仕事や子育て、介護等で忙しい時間がないから	加入するメリットがないから	隣近所とのつきあいがわづらわしいから	町内会・自治会の地域活動に関心がないから	町内会・自治会が何をやっているのか分からないから	加入の仕方が分からないから	会費の支払に負担を感じるから	町内会・自治会以外で地域活動を行っているから	その他加入しない理由がある	特にない	無回答
合計	1,422 100.0	615 43.2	328 23.1	311 21.9	257 18.1	254 17.9	252 17.7	190 13.4	157 11.0	141 9.9	27 1.9	51 3.6	101 7.1	238 16.7
加入しており、現在、役員等をしている	120 100.0	60 50.0	7 5.8	24 20.0	18 15.0	25 20.8	38 31.7	10 8.3	6 5.0	11 9.2	2 1.7	7 5.8	2 1.7	39 32.5
加入しているが、現在、役員等はしていない	783 100.0	365 46.6	108 13.8	163 20.8	168 21.5	182 23.2	166 21.2	103 13.2	63 8.0	72 9.2	18 2.3	13 1.7	45 5.7	169 21.6
加入していない	494 100.0	186 37.7	208 42.1	122 24.7	71 14.4	46 9.3	47 9.5	75 15.2	86 17.4	56 11.3	6 1.2	31 6.3	53 10.7	15 3.0
無回答	25 100.0	4 16.0	5 20.0	2 8.0	-	1 4.0	1 4.0	2 8.0	2 8.0	2 8.0	1 4.0	-	1 4.0	15 60.0

町内会・自治会との関わり（問23）と町内会・自治会に加入しない理由（問28）からみると、現在、役員等をしている、していないにかかわらず、加入している人は、「加入しなくても日常生活に支障がないから」（50.0%）が最も多い。一方、加入していない人は、「加入するきっかけがないから」（42.1%）が最も多くなっている。（図表7-12）

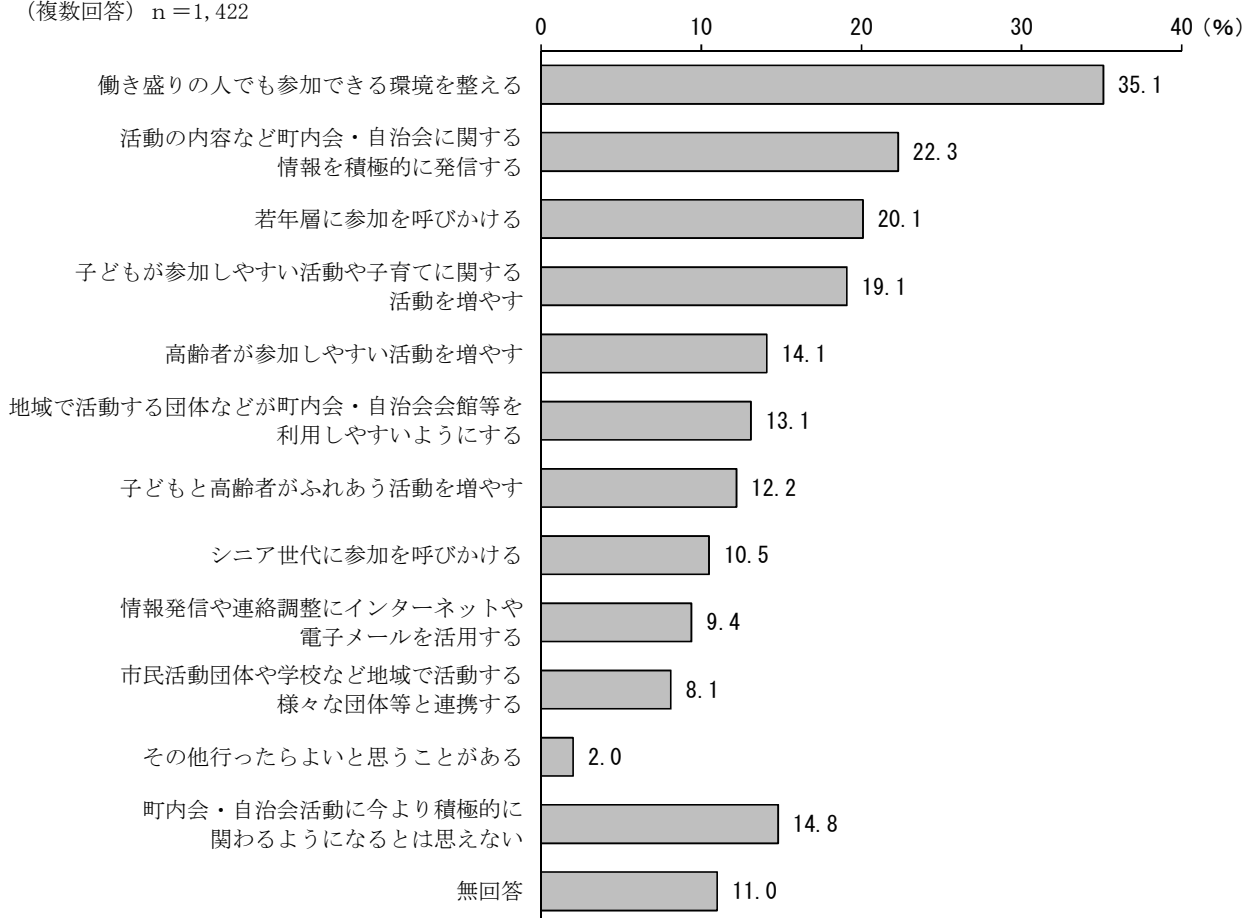
7-7 町内会・自治会活動への関わりを深めるための取組み

◎「働き盛りの人でも参加できる環境を整える」が35.1%

問29 あなたが、今より積極的に町内会・自治会活動に関わるようになるには、町内会・自治会がどのようなことを行うとよいと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

図表7-13 町内会・自治会活動への関わりを深めるための取組み

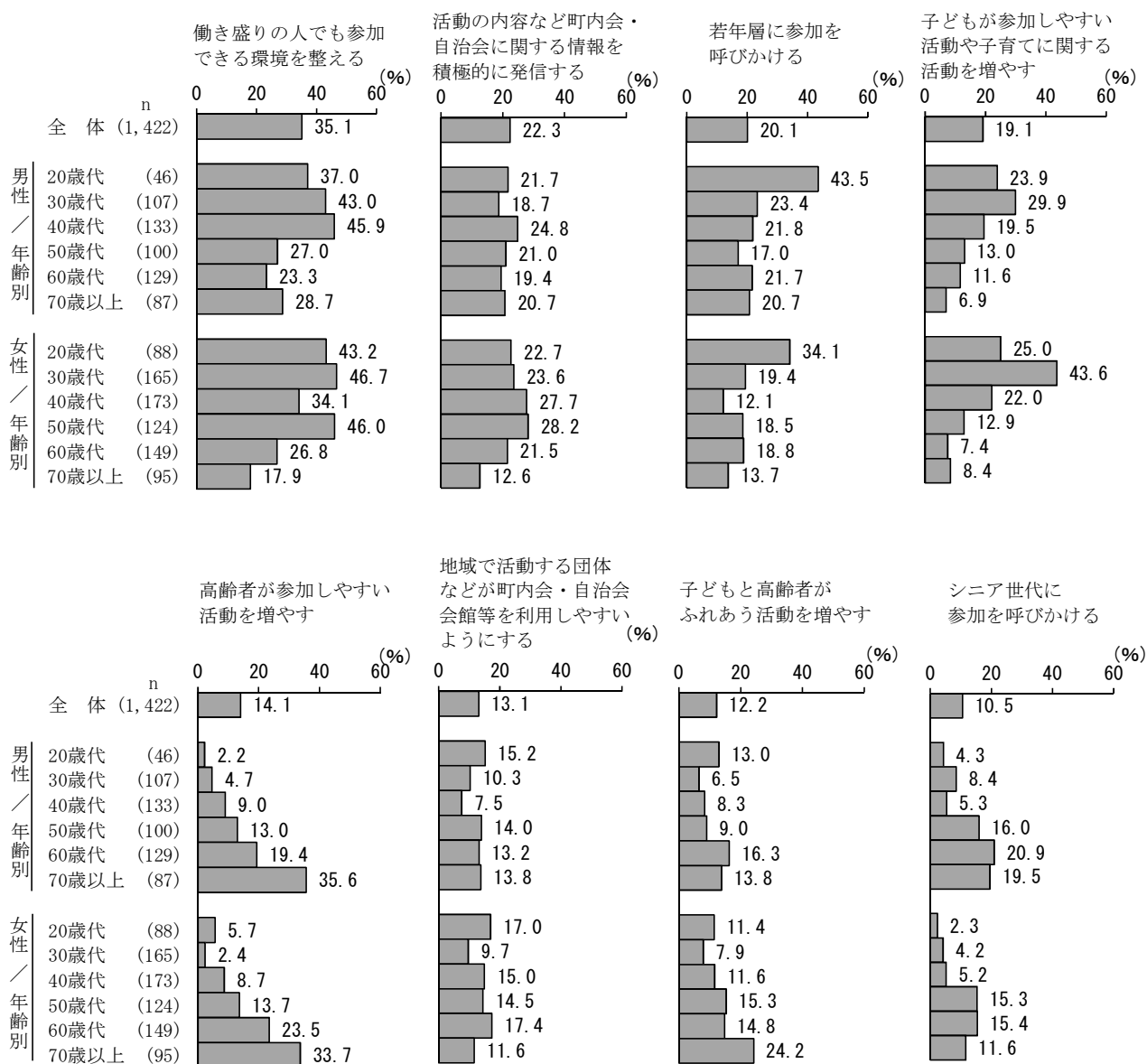
(複数回答) n=1,422



町内会・自治会活動への関わりを深めるための取組みでは、「働き盛りの人でも参加できる環境を整える」が35.1%と最も多かった。次いで、「活動の内容など町内会・自治会に関する情報を積極的に発信する」(22.3%)、「若年層に参加を呼びかける」(20.1%)、「子どもが参加しやすい活動や子育てに関する活動を増やす」(19.1%)、「高齢者が参加しやすい活動を増やす」(14.1%)と続いている。(図表7-13)

(第2回アンケート)

図表7-14 町内会・自治会活動への関わりを深めるための取組み（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「働き盛りの人でも参加できる環境を整える」は、男性では、30歳代、40歳代で、女性では、20歳代、30歳代、50歳代で4割半ばとなっている。「活動の内容など町内会・自治会に関する情報を積極的に発信する」は、性／年齢別で大きな差はみられない。(図表7-14)